

XROSS JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

MAMORU NAGANO



永野護が放つ最新デザイン!

ファイブスター物語
公式ビジュアルガイド第6弾

コミックス第14巻以降のエピソードに登場した
GTM、騎士、ファティマを中心に掲載!!

KADOKAWA



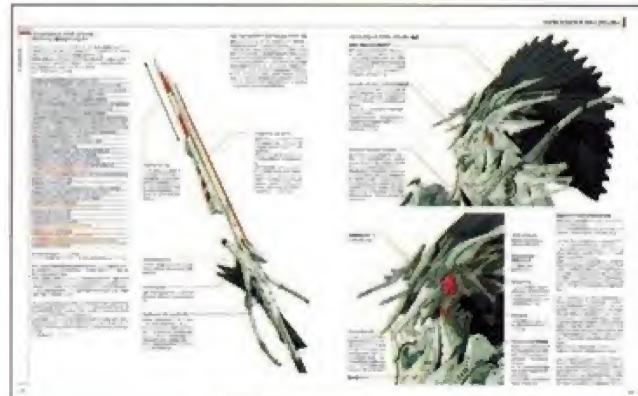
ISBN978-4-04-107991-1
C0076 ¥3300E

定価:本体 3,300円(税別)

KADOKAWA



完全初出の新規描き下ろしイラスト50点以上!
著者自身がすべて手がけた解説テキスト!
名称の新旧対応表(完全版)やツアラトウストラ・アプターブリンガーの詳細も!



The Five Star Stories®

MAMORU NAGANO'S

XROSS JAMMER

XROSS JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

MAMORU  NAGANO





ISBN978-4-04-107991-1
C0076 ¥3300E

定価:本体 3,300円(税別)

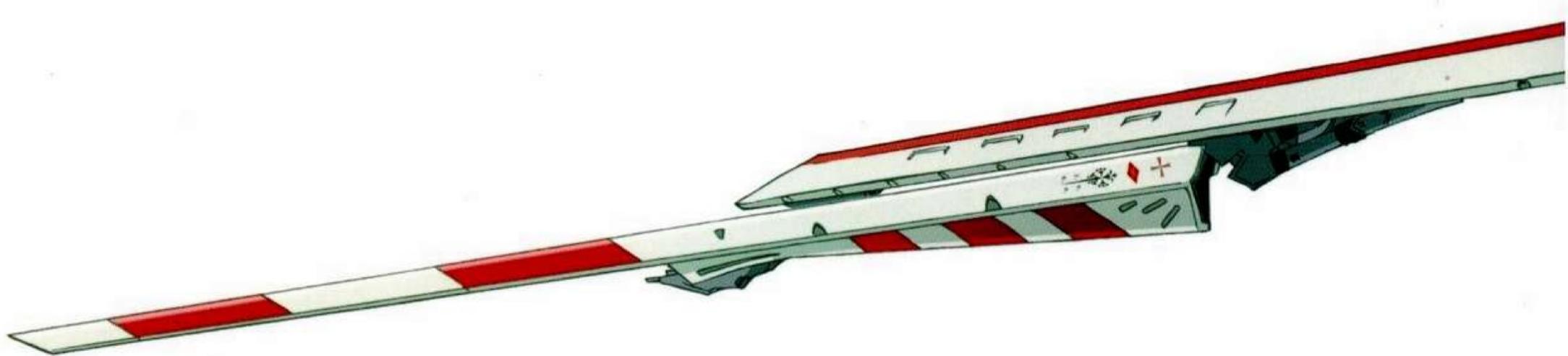
KADOKAWA



The Five Star Stories[®]

MAMORU NAGANO'S

XROSS JAMMER



XROSS
JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

F. S. S. DESIGNS 6

XROSS JAMMER

MAMORU  NAGANO





DESIGNS 6

Characters XV

Both 3032 Battle of Bera

Both 3035 PALSUET

Both 3036 SPROUT SONG XOUME

MAMORU NAGANO







XROSS JAMMER

ベラ攻防戦 ボオス3032

United MINOGSHIA Kampf Trukk



ミノグシア大陸と カステボーの全体戦況

戦場となっている地域は主要国家の首都近く、または攻め込むための橋頭堡(きとうとうほ)、戦場において進軍、攻略をするための最前線の基地となる場所、もしくは前戦の要の場所となる地域が多いが、目標となっているのはそれ以外にもミノグシアのG.T.M.バーガ・ハリ製造工場近郊も多い。我々の世界だと国境から徐々に首都に向かって進軍していくのがセオリードだが、星団の戦いはいきなり主要地区へ攻撃を仕掛けることも多い。G.T.M.によって短期決着を付けるため、または占領地区を素早く蹂躪制圧し領土化するためである。決戦兵器G.T.M.の存在が、そういう戦いを選択させるのだ。

それ以外にもベラのように国境での戦いもある

星団暦3030年、バツハトマ魔法帝国を中心とする各国枢軸軍の侵攻によつてハスハ連合共和国はバラバラに分裂し、旧首都ベイジは炎に焼かれた。

その旧ハスハ連合共和国全土が戦場になつたミノグシアの戦いに侵攻する各国の思惑はバラバラである。攻める枢軸も一刻も早く占領下に置きたい、戦いを早く終わらせたいといった至極まつとうな理由は皆無である。

それは、枢軸のバツハトマにとつてはボオス星の国家バランスを崩すことによる自国の強国化もあり、ロゾゾやウモスは占領下における国益の拡大、ガマッシャーンは自國の主張とミノグシアの弱体化、各國騎士団はその利益配分を手にするためと、さまざまな理由で、どの国家も旧ハスハ連合を疲弊させ、戦争を終わらせる気などまったくない。

長期の戦時下において利益を得ようとするだけ

ものである。

もちろんこれによつて利益を吸い取られるのは

旧ハスハ国家である。

またミノグシアを助ける名目で枢軸と対峙しているフィルモア、クバルカンは戦後の自国の影響を最大の目的とし、その最終的な目的は領土であることは明白である。全ての国家が占領と利益を得ることには非常に時間がかかるとわかっているのだ。

純粹な理由で戦争終結に向け援助に回つているのは現時点ではコーラス王朝とバキン・ラカン帝

国だけと言つていいだろう。



聖宮ラーンの立ち位置

見てのとおりラーンはミノグシア各国とカステボーのちょうど中間のイースト・ハスハと呼ばれる場所に位置する。

イースト・ハスハやウエスト・カステボーはほとんどが手つかずの荒野や砂漠で、人の住む場所や都市、国家がない。それほど過酷な環境なヵと思われる方も多いだろう。

そんなことはない。砂漠や荒野はあれど海に囲まれた半島的なこの地区は住みやすい場所もある。

なぜここにラーン以外の大きな都市がなく、人が住んでいないのかと言えば、「セントリ」の存在である。彼らがここを空白地帯にしているのだ。

魔導大戦序盤、ここを通してミノグシア東部へのショートカットを試みたウモスの先行派兵軍は磁気嵐と雷によつて移動中に壊滅状態になつた。そのことが大国ウモスの介入が遅れ、ナカカラにフィルモア軍を駐屯させることになつた最大の理由でもある。

ミノグシアの戦いとはちょっと外れるが、この全体図で見ると聖宮ラーンの位置とその政治的な立ち位置もわかるだろう。

「二羽の小鳥」においてリリとショーカムがランにいたのはカステボーにあるフィルモア帝国統治区が近く、ハスハの影響も少ないからだつたことがこのマップからひと目でわかるだろう。

のは、我々と同様の理由で、戦力が少なく、首都に攻撃を仕掛けても自軍の損害が莫大になる可能性が高く、国境からじわじわ相手の疲弊を待つという戦略である。開戦時、連合国家首都であつた上での戦略で、このリスクを背負つても枢軸主宰国家のパッハトマにとつては首都陥落という言葉以上の戦果が序盤で必要だつたのだ。

また、北部ミノグシア2国と南部のナオス国にほとんど战火が広がつていないので単純にリスクである。北部はまずペラを占領下に置き、ナカカラ北部を支配下に置いてからでなければリスクが大きい。南部ナオス国は枢軸の兵力を分散させてまで進軍する理由のない国家であり、バーガ・ハリ工場の送り先であるナカカラへの航路を押さえれば良かつた。

だが、そのため中間のナカカラの工業都市ホーダウンは壊滅的な被害を受けている。

またこの戦況図であらためてわかるのはこれだけの国家の進軍を迎え撃つミノグシアのAP騎士団の凄さだろう。一または2個のAP支隊がひとつつの国家の進軍を止めているのだ。AP騎士団、各支隊の戦闘力の凄さがわかると思う。

3030年のバッハトマを主体とする枢軸連合軍は旧バスハ共和国のほぼ全域で侵略戦争を開始。バスハ連合共和国首都のあるバスハントはほぼ占領され、首都バスハは陥落した。

ボオス星ミノグシア大陸の大半を占めるバスハ連合共和国の各地で展開された戦闘は13のバスハ連合共和国を完全に分断し、旧バスハの中枢が残った国家、首脳達はバスハント西のスベース市に撤退し、ここを拠点とし、バスハント共和国、カツエー公国、シーザス王国、ボルサ諸島列島、そして分断された北部に取り残されたベラ国、合計5つの國家で「ミノグシア連合」を形成し、かつてのバスハ連合共和国の体制を維持している。

ベラ国とツラック隊の置かれた立場

序盤の戦線は地図を見てもらえばわかるが、ハント中部と南部をバッハトマとロッゾが攻め、首都陥落直後に背後となるベラを封じるためにロップ正規軍の半数がベラ国境まで一気にツラック隊を押さえ込んだ。これは本来このバスハント北部を攻略する予定であったウモス4ヶ国連合が雷によってイースト・バスハで壊滅したためにロップが移動してきたのである。

この戦いでツラック隊は支隊長以下半数以上の戦力を失い、孤立していった。

ベラ攻防戦の話はここからスタートする。

の西側からの進軍が難しいことがまずあった。ベラへと軍を進めるためには山沿いの狭い地形を越えるしかも、ここにツラック隊は陣取つて開戦から耐え抜いていた。大軍はボトルネット状になつたこの地形では団子状態になり、数の勢いで押せず、ツラック隊のGTMを消耗させ数を減らし、薄くなつた箇所に大軍を突撃させて壊滅させる作戦であった。

北部ミノグシア2国の動き

本来共闘可能な北部ミノグシアのイエンシング共和国とバトラント共和国は国土の繋がつた南部のナカカラの動きを警戒し、バスハント側はベラとツラック隊ががんばっている間、様子見を決め込んでいた。

彼ら2国が警戒していたのはナカカラからガマッシャーンとウモスの主力が攻め込んでくる可能性が非常に高かつたということもあり、ベラ国への静観は単純には責められない状況でもあつたが、2国的にはミノグシア連合とは距離を置き、北部ミノグシア連合として中立の立場を取つて、ミノグシアの戦いには参加しないという表明でもあつた。

ベラの戦い以後、ベラは持ち直したが、戦線そのものは大きな変化はなく、ミノグシアの戦いはしばらく膠着状態となつた。だがこの膠着状態こそが、各国の政治の水面下での動きが活発化していたのである。あらゆる国家がミノグシアの領土を求める衰弱した旧バスハ連合を食い物にしようとする戦いが始まるととも言える。

その後、膠着状態となり、攻めるロップは再編のために主力軍をベイジに置き、ベラへの侵攻はしたとおり、30年後となる。

ミノグシア連合 ツラック隊支隊長 ナルミ・アイデルマ

United Minogshia #12 Kampf Trukk Kommandant
Norumi Ideelma

身長184cm

デザイン画は既出。

ツラック隊支隊長。本来の階級は大佐だが、前支隊長戦死による支隊長昇格のため、3032年のベラ攻防戦時では便宜的に准将扱いとなっていた。

ベラ攻防戦ののちは正式にツラック隊支隊長、ベラ國軍司令官となったが、階級は少将で通常の支隊長の軍階級である中将以上ではなかった。

ミノグシア連合内でも彼女の地位は低いまま相変わらずの弱小騎士団扱いで、ベラ戦での英雄である彼女の扱いにベラ国内では不満が高まっている。このナルミへの待遇は主にギラとバルンガによるもので、この優秀な指揮官が英雄に祭り上げられ、政治的に利用されるだけではなく、今や北部ミノグシアにも信頼の厚いナルミを警戒し、嫉妬も含めた邪魔者扱いする連合議会、軍幹部への配慮であった。

魔導大戦の集結後、ラーン近衛支隊長となり、聖宮ラーンでマグダルと共にミノグシアの再統一に向けて動くことになる。

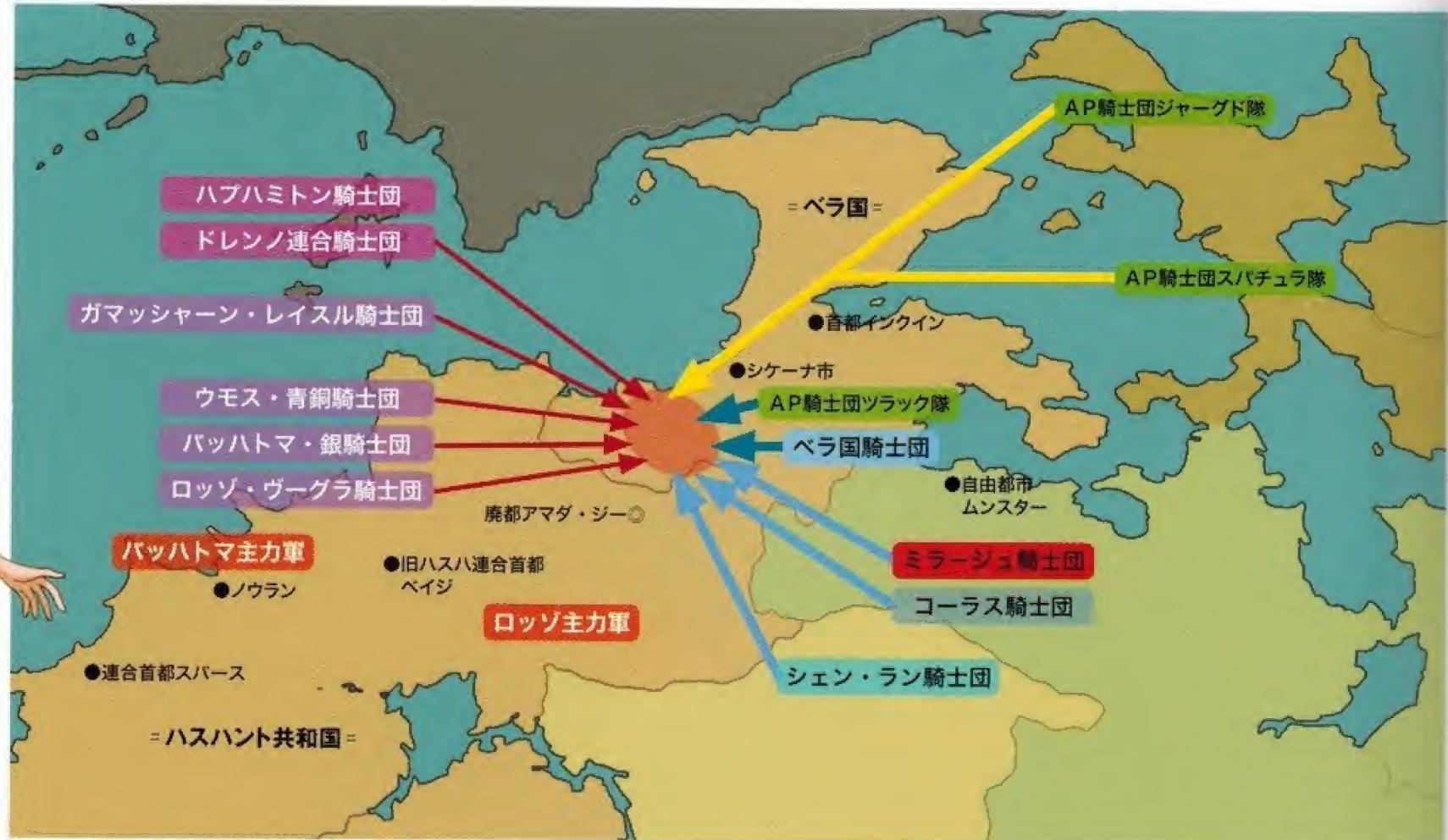
彼女の子孫がキャナル・アイデルマで「ダリ・キア」の中枢として3000年代中盤の動乱にミノグシアを支えることになる。

ドレンノ連邦とハブハミトン公国、そしてロップの2軍であるロップ傭兵騎士団に任せていたのだ。とは言えこれら3騎士団が全てベラを攻めていたわけではなく、自分達の消耗を避けるために交替でベラ国境をつづいていたにすぎない。

その後ツラック隊はご存じのとおり、稼動GTM数が限界まで消耗し、1個中隊規模にまで戦力は落ち、ベラが落ちるのは時間の問題であった。

アマテラスことソープとラキシスが偶然支隊長代理ナルミと出会つたことで事態は急速に変わり、ツラック隊の戦力は徐々に復活していった。そのため総攻撃のタイミングを逸した枢軸は数ヶ月以上攻めることができない状態になつたのだ。





ソラック隊北部ベラ戦線・最終戦況図

ファティマ・ビューリー

Fatima Viewry

身長156cm 体重37kg

デザイン画は既出。

ナルミのパートナー、デカダン・スタイルのビューリー。デカダン・スタイルなのにヘッド・アシリアだけを付けているのはツラック隊のホスト・ファティマだからというのと、「デザインズ4」の発表時にアシリア・バーツを部分的に付けることもあるということを示したかったためだ。ミースのファティマで、ビルの件で母親がまさかツラック隊と一緒に戦うことになるとは思わなかつたに違いない。

つかビューリー、黒タイツじゃない…。まあ、軽快でよろしい。若いガーランドの作ったファティマっぽくて。

AP騎士団 全配置図と戦力

支隊	支隊カラー	装備数・配備地区(GTM数はAP支隊のみ。各国家騎士団のGTM数は含まず)	支隊長
ミノグシア連合			
デブレ近衛支隊	赤	(現在は活動停止状態)	デブレ・ビート(実際は、マドラ・モライ)
スバース隊	白	90騎 南部戦線、シーゾス戦線(第1大隊)	ランド・アンド・スパコーン
スキーン隊	黄	90騎 ノウラン戦線	シュマイス・バイダー
ドーチュ一隊	黒	60騎 ノウラン戦線	エールレーン・スミダ(後ワンダン・ハレー)
マルコンナ隊1	栗色	42騎 シーゾス戦線(スバース隊と合同)半数がナカカラ連合へ離脱	ゾンタ・クルーエル支隊長
スパチュラ隊2	水色	28騎 カツツエー西部戦線(本来のバトラント駐屯地から離脱分離)	オノラ・ドウセン(1個大隊を連れてスパチュラより離脱)
エンブリヨ隊	青	36騎 カツツエー南部戦線	グズリード・ロウラン
スクリティ隊	赤茶	13騎 遊撃支隊。現在はギーレル駐留(1騎はコーラス・ハイレオン)	アルル・フォルティシモ・メロディ
ツラック隊	オレンジ	24騎 ベラ国防衛	ナルミ・アイドルマ
北部ミノグシア連合			
スパチュラ隊1	水色	40騎 バトラント防衛 4分の1はミノグシア連合へ離脱	カーリム・玲於奈(旧支隊長オノラはミノグシア連合に離脱)
ジャーグド隊	藤色	36騎 イエンシング防衛	ボルカノ・ストーン
ギーレル・ハスハ			
パローラ隊	赤紫	84騎 ギーレル北西部防衛	ジンセン・サルボ伯爵
ナカカラ中部連合			
ディスターイフ隊	若草色	122騎 24騎は王都防衛、残りはナカカラ北部戦線	ターナー・ラドンウェイ
マルコンナ隊2	栗色	28騎 ナカカラ北部戦線をディスターイフ隊と戦線維持	*ナイアス・ブリュンヒルデ(乗騎はラミアス)
イースト・ハスハ			
ラーン近衛支隊	紅色	12騎 支隊長ニナはミノグシア連合に出向中	ニナ・エリス(スバース市) ドヌーブ・ガセット(ラーン)
宇宙騎士団SPK			
SPK隊	銀	40騎 旧ハスハ連合より完全独立。現在はドーマ連合と行動	オロダムド・ハル

ミノグシア連合 ツラック隊GTM

バーガ・ハリKK-le

United Minogshia Main Kampf Roboter

Boga Ha Ri KK-le

全高26.3m 自重255t

魔導大戦において「最強GTM」と呼ばれたバーガ・ハリKK。KKの後に付く表記はイエンシング工場製の略である。

ペラ国での攻防戦において劣悪な環境で枢軸軍と戦い、耐え抜き勝利したバーガ・ハリKKは星団においても最強のGTMであるとの認識が高まった。

実際にはソープのチューニングもあったが、スパース隊のバーガ・ハリBSコブラと同等の強さを実戦で示したとの見方が多い。しかしそれ以上にバーガ・ハリというGTMの強さと頑丈さをあらためて知らしめることもなった。

バーガ・ハリKKは元々北部ミノグシア連合内にあるイエンシング工場で生産されていたGTMで、スパース隊やスキン隊の使うバーガ・ハリとは頭部やアイドラ・フライヤーなどに違いが見られる。

同じイエンシング工場で生産されるジャード隊のバーガ・ハリJGやスパチュラ隊のバーガ・ハリ・フェンディと比べると支隊独自の仕様はわずかで、基本的なバーガ・ハリの仕様を多く残している。

バーガ・ハリの基本設計に則ったオーソドックスな仕様で、整備はとてもしやすかったと思われる。戦時下において生産されるバーガ・ハリはソープの言葉どおり間に合わせることが最優先であるために、支隊ごとにあった各部の仕様は統一され、各部の作りや装飾などは簡素化されている。これはどの支隊でも同じである。そのため各部の調整が完璧ではなく、実戦で不具合が多かったのはソープの指摘したとおりである。しかしそんな状態ですらバーガ・ハリは稼動し続けていたのだ。

このバーガ・ハリKKはナルミの乗騎で、頭部やアームフライヤーにマークが入っている。これは支隊長騎で、開戦時、前支隊長はナルミ騎をフォローし戦死した。その時のバーガ・ハリを回収し、引き継いだのである。実戦では頭部のマークは残っているものの、損傷の激しいアームフライヤーはしょっちゅう交換されて付いていなかった。





ミノグシア連合 スパース隊GTM
バーガ・ハリBSコブラ

Unitid Minogashia Flagship GTM
Baga Ha Ri BS Cobra SWANS

全高27.0m 自重270t

スパース隊の誇るGTM「バーガ・ハリBSコブラ」である。単純にBSコブラと呼ばれることが多い。

通常のスパース隊はバーガ・ハリBSを使用するが、スパース隊の第1大隊の一部のみがこのBSコブラを使用している。その数はわずか30騎である。カスタム騎のために非常にコストがかかり、整備においても手間のかかるGTMで、大戦勃発後は新たに生産する余裕はなく、故障や大破で徐々にその数は減っている。

右の通常のバーガ・ハリと比べても明らかに各関節、特に膝のツインスイングの巨大化が目立ち、スカートなどは放熱のために長い。

第1大隊以外には、アードやヒンのテブレ隊、スパース隊各大隊長、スキーン隊のシュマイスなどもこのコブラを使用している。

コブラの名称のもととなったアイドラフライヤーは放熱放電システムも兼ね、最大出力時にはアイドラフライヤーから蛇のような長いスタビライザーが伸びる。

最強とは言え現在は予備もなく替えのきかないGTMなので、ここぞという時に投入されるのかと思いつか、支隊長ランドは「最強GTMを投入しないで損害が増えたり戦闘が長引くのは本末転倒！ ガンガン使え！」と言っている。戦力とはこういう使い方をしてはじめて戦力と言えるのだ。ダメな軍隊は最強の部隊を温存しまくって、まったく使わないまま終わってしまう。それは結果的に全然最強じゃない「張り子の虎」ということがわからないらしい。最強部隊は真っ先に投入され、激戦をくぐり抜け、真っ先に消耗しまくってぼろぼろの状態から再編成されていく。だからこそ最強部隊なのだ。

正式な呼び名が「バーガ・ハ・リ・スパース・バトル・サーフィン・コブラ」という。剣聖SWANSの名が刻まれていることで、このGTMこそがミノグシアのGTMと言う者は多い。



ツラック隊 アークホストAF ファティマ・ビルド

Fatima Build

身長165cm 体重38kg

モラード・ファティマ。エストの妹にあたる非常に有名なファティマ。パイドバイバー騎士団のパイバー将軍のパートナーであったが、将軍亡き後はモラードの元にずっといた。何度もお披露目をしても騎士を選ばず、モラードはあきれかえっていたが、ミースがその理由を一発で見抜き、ハレーを引き合わせることに奔走していた。まあ、ミースのお節介に助けられたというか、たまたまうまくいったということである。

ハレーのパートナーとなり、GTMバーガ・ハリBS-RというスーパーチューニングGTMを難なく扱い、ベラ最後の攻防戦では都合200騎以上のGTMのアークホストを務め上げた。

フローレス・ファティマ、さらにはコーラス、ミラージュファティマ達をも従えてのホスティングはものすごいとか言いようがない。

ファティマ達の通信管制は壮絶で、敵から、または自軍以外の通信はシャットアウトし、味方へは認証コードを送り通信をスムーズにするが、アークホストともなれば膨大な通信が同時に入ってくる。それを瞬時に分別し、マスターや指揮官に声で言う。ファティマ達へは信号で同時に複数に送るということをやってのけている。またマスターの命令なども瞬時にどの騎士に送るのか、どの軍単位の範囲に送るのか、司令部なのか、本国なんかとも制御し、観測部隊などの通常軍からの通信も入ってくる。もちろんGTMのコントロールをしながらである。

さらにはコーラスやミラージュなどのファティマからは友軍認識の要請コードが届いたり、それらをその都度リンクし張り直す。

通信だけでもこれほど大変なのにクロス・ジャマーの対応など、人間にはとてもできる芸当ではない。

もちろんその煩雑さをサポートするためにピューリーやフレインスが通信リンクの補助、クロス・ジャマーはオーハイネやスバルタがサポートしていたとは言え、これだけの情報を処理し、対応していたこの事実はビルドのすさまじさを物語るエピソードともなった。

彼女のアシリア・スーツはツラック隊のライトグリーンではなく、BS-Rに合わせたルビーレッドである。これはソープが彼女のアシリア・スーツの偏光率を変えて赤くしたのだ。

また、APファティマのS型はハイソックスだが、彼女は三つ折りにしている。さすがエストの妹ということで、隊内でもおとがめなしである。

ツラック隊 第2大隊長 ワンダン・ハレー

Kompf Trukk 2nd Battalion Commander
Wandoun Harrey

身長199cm 体重95kg

5話にてファティマ・ハルベルの治癒のためにAP騎士団エンブリヨ隊を脱走し、スクリティ隊と戦ったが、結果的に詩女ムグミカの擁護もあり、脱走騎士ながらおとがめなしとなった。

その後、騎士をやめ、母国ベラ国に戻っていたところで魔導大戦が勃発した。

エンブリヨ隊の大隊長にまで上り詰めておきながら、自分のファティマを失ったことで騎士をやめ、ベラの戦いでは遠くから眺めているだけであったハレーを叱責したのはナルミである。

ファティマを失い、戦うことをやめるのも、新たなファティマを得て再び戦いに挑むのも人間的には間違いではないが、ナルミが怒ったのは騎士をやめたのに戦場に来ていたことだろう。母国が蹂躪されても戦わないのはナルミにとって最も許せなかつたのだ。

という絆のハレーであるが、情けなさ満載のキャラとして描かれた。騎士姫のファティマ、ビルドが求めているのにということも情けなさに輪をかけている。

実際には長い間騎士を廃業していてもGTMに乗った瞬間全てのカンは元に戻り、エンブリヨ隊大隊長、騎士教官であった彼の騎士としての力はツラック隊全戦力の大きな底上げとなったのは事実である。彼の功績は大きく、ベラの戦いの後、異動や支隊長への昇進の話が絶えず来ていたようだが、ハレーはツラック隊のいち大隊長のままナルミと共に支隊を支え続けることを選んだ。

ナルミがラーン支隊の支隊長に異動した後、ドーチュ一隊の支隊長としてビルドと共にミノグシアの安定に力を注いだ。

ミノグシアGTM ヤクトロポーター

バーガ・ハリBS-R

Baga Ha Ri BS-R

全高28.5m 自重255t

バーガ・ハリのフルカスタム駒がBSコブラだが、1駒だけ作られたこのBS-Rは駆逐騎に近いカスタムで、BSコブラよりもあらゆるところが軽く作られている。また、頭部両サイドのウイングには指揮用のアンテナポールが装備され、ベラの戦いでアークホスティングを担当したビルドにとってはとても使いやすかったことであろう。

もともとヤーボ・ビートが使用していたGTMで、ヤーボは最後は「カイゼリン」に搭乗したので、かなり長い間このBS-Rは使用されていなかったようである。

たぶん使用されていない期間も長かったのでソープが突貫工事で仕上げていたはずである。もちろんツバツビも隙を狙っていると調整していたのは間違いない。

ところで、このBS-Rがツラック隊に来た時にソープとツバツビがエンジン音の違いにすぐ気がついた。

そのとおり、このBS-Rのエンジンは「ホルダ型GTM」のエンジンが使われているのだ。粘りのある力強いバーガ・ハリのSM60Miエンジンではなく、HL550型であったのだ。のためにこのバーガ・ハリは最大出力と瞬間最大出力が他のバーガ・ハリとまったく異なり、膨大な発熱を出しながら戦い続けるという、まさに駆逐GTMのエンジンであった。

通常のホルダ31A型ユーレイはHL630エンジンであり、BS-Rに使用されているHL550エンジンは「メロウラ」に搭載されているエンジンである。

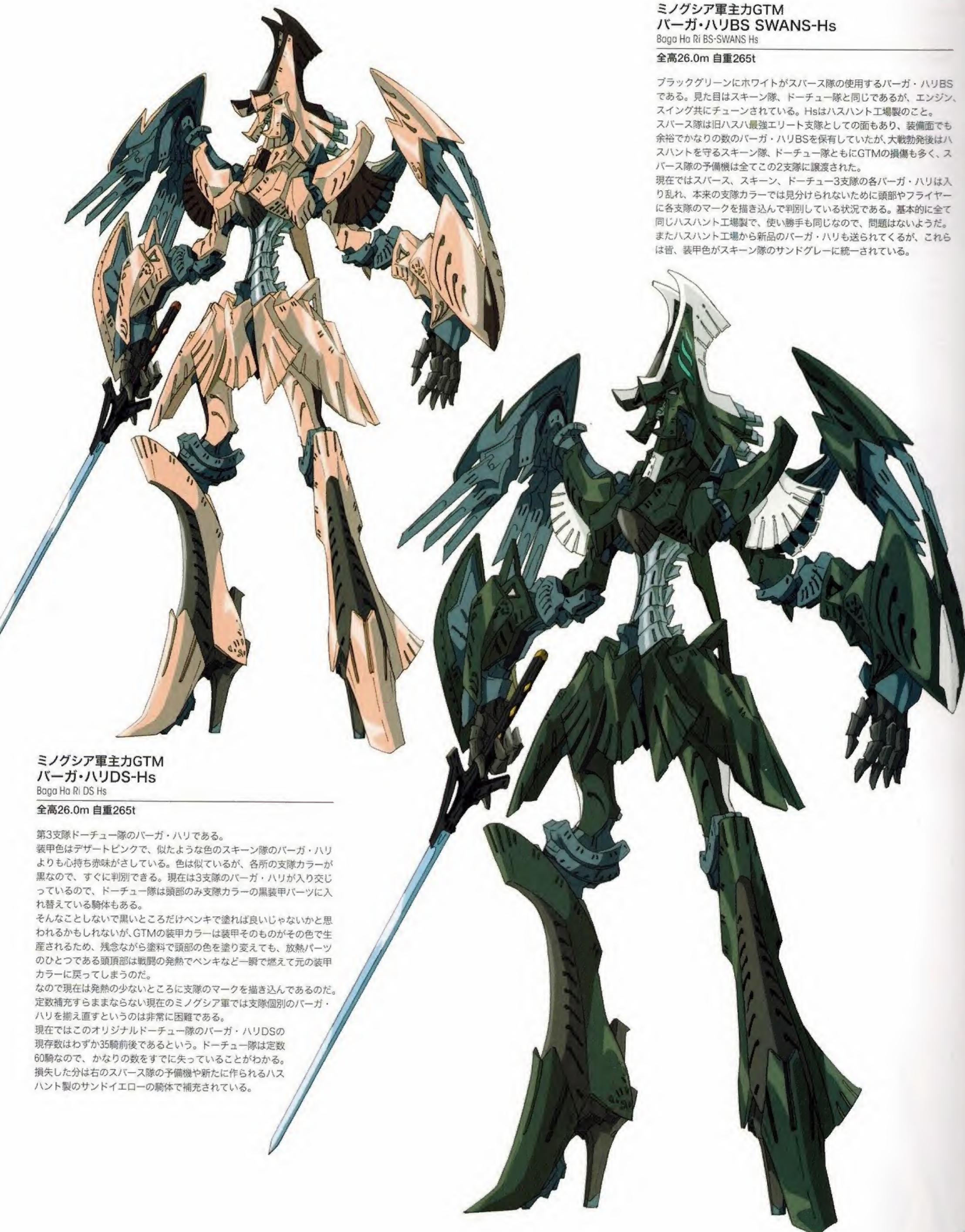
背中のアイドラフライヤーが恐ろしく巨大なのはその放熱システムのためである。そしてもちろんこのBS-Rは起動時に「女性が泣き叫ぶ声」を発生する。



ミノグシア軍主力GTM
バーガ・ハリBS SWANS-Hs
Boga Ha Ri BS-SWANS Hs

全高26.0m 自重265t

ブラックグリーンにホワイトがスパース隊の使用するバーガ・ハリBSである。見た目はスキン隊、ドーチュ一隊と同じであるが、エンジン、スイング共にチューンされている。Hsはハスハント工場製のこと。スパース隊は旧ハスハ最強エリート支隊としての面もあり、装備面でも余裕でかなりの数のバーガ・ハリBSを保有していたが、大戦勃発後はハスハントを守るスキン隊、ドーチュ一隊とともにGTMの損傷も多く、スパース隊の予備機は全てこの2支隊に譲渡された。現在ではスパース、スキン、ドーチュ一3支隊の各バーガ・ハリは入り乱れ、本来の支隊カラーでは見分けられないために頭部やフライヤーに各支隊のマークを描き込んで判別している状況である。基本的に全て同じハスハント工場製で、使い勝手も同じなので、問題はないようだ。またハスハント工場から新品のバーガ・ハリも送られてくるが、これらは皆、装甲色がスキン隊のサンドグレーに統一されている。



ミノグシア軍主力GTM
バーガ・ハリDS-Hs
Boga Ha Ri DS Hs

全高26.0m 自重265t

第3支隊ドーチュ一隊のバーガ・ハリである。

装甲色はデザートピンクで、似たような色のスキン隊のバーガ・ハリよりも心持ち赤味がさしている。色は似ているが、各所の支隊カラーが黒なので、すぐに判別できる。現在は3支隊のバーガ・ハリが入り交じっているので、ドーチュ一隊は頭部のみ支隊カラーの黒装甲パーツに入れ替えている騎体もある。

そんなことしないで黒いところだけベンキで塗れば良いじゃないかと思われるかもしれないが、GTMの装甲カラーは装甲そのものがその色で生産されるため、残念ながら塗料で頭部の色を塗り変えても、放熱パーツのひとつである頭頂部は戦闘の発熱でベンキなど一瞬で燃えて元の装甲カラーに戻ってしまうのだ。

なので現在は発熱の少ないところに支隊のマークを描き込んでいるのだ。定数補充すらままならない現在のミノグシア軍では支隊個別のバーガ・ハリを揃え直すというのは非常に困難である。

現在ではこのオリジナルドーチュ一隊のバーガ・ハリDSの現存数はわずか35騎前後であるという。ドーチュ一隊は定数60騎なので、かなりの数をすでに失っていることがわかる。損失した分は右のスパース隊の予備機や新たに作られるハスハント製のサンドイエローの騎体で補充されている。

聖宮ラーン近衛支隊GTM

バーガ・ハリLA-Hs

Boga Ha Ri LA Hs

全高26.0m 自重265t

スパース隊などと同じくハスハント工場で生産される聖宮ラーン支隊のバーガ・ハリLAである。カラーリング以外、外見はほぼ同じである。

装甲カラーはパールベージュで、ラーンの女性支隊ドレスと合わせてある。また支隊カラーは紅色で、各所にこの色が入り、かなり派手である。

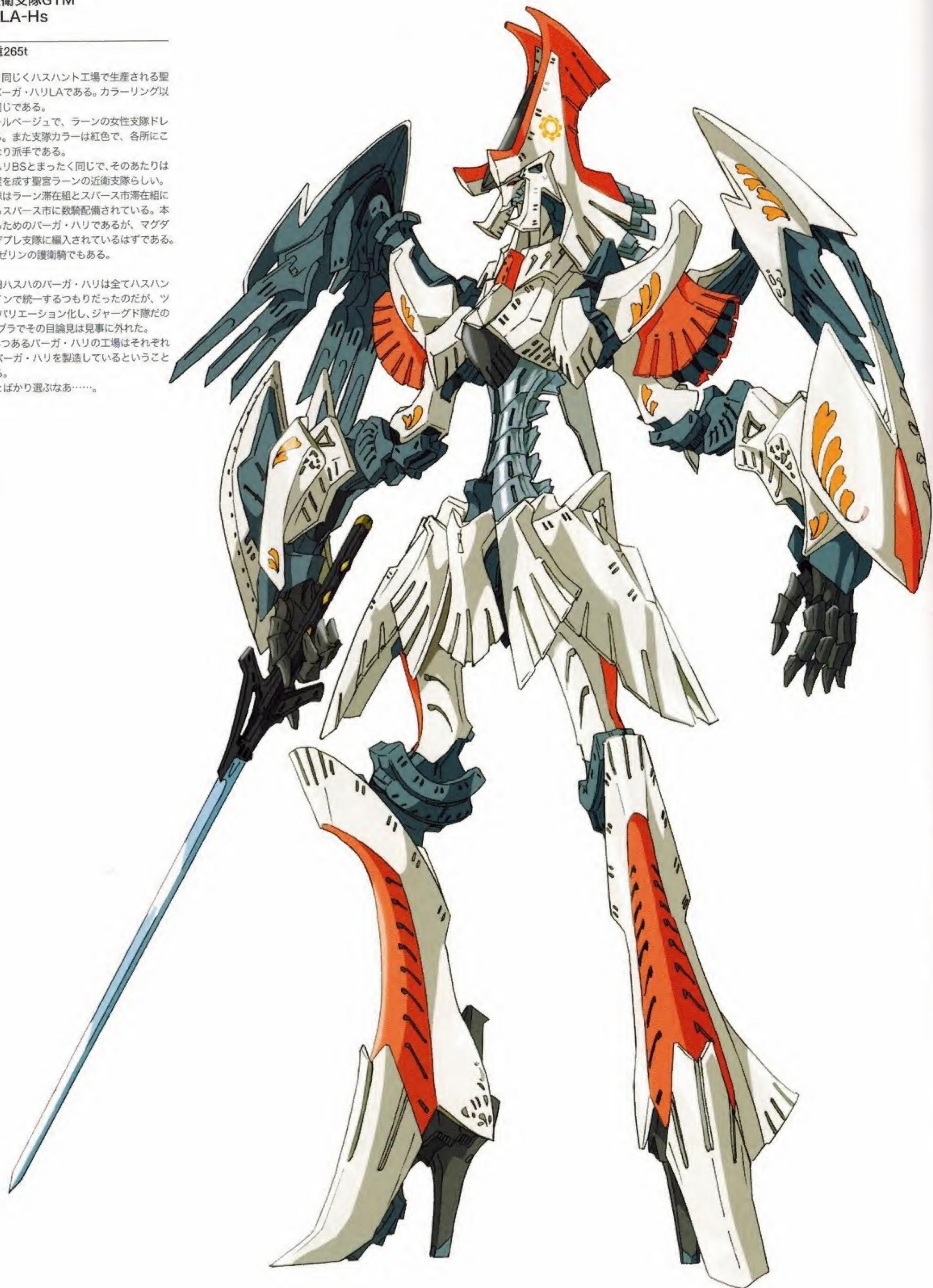
性能はバーガ・ハリBSとまったく同じで、そのあたりはスパース隊と双璧を成す聖宮ラーンの近衛支隊らしい。

現在のラーン支隊はラーン滞在組とスパース市滞在組に分かれ、このLAもスパース市に数騎配備されている。本来詩女を護衛するためのバーガ・ハリであるが、マグダル不在のため、デブレ支隊に編入されているはずである。つまりGTMカイゼリンの護衛騎でもある。

連載再開当初、旧ハスハのバーガ・ハリは全てハスハント工場製のデザインで統一するつもりだったのだが、ツラック隊のKKでバリエーション化し、ジャーグド隊だのBS-RだのBSコブラでその目論見は見事に外れた。

仕方がないので4つあるバーガ・ハリの工場はそれぞれデザインの違うバーガ・ハリを製造しているということにして現在に至る。

手間がかかることがかり選ぶなあ……。



ファティマ・プレインス

デカダン・スーツ

Fatima Preince

身長162cm 体重42kg

カーツのパートナー。制作ガーランドはアルミオン・エイボス。
デカダン・スーツ姿である。
デカダン・スーツはヤーボのコンコードが着ていたものと同じデザインでM型に合わせたものなのだろう。色もS型のデカダン・スーツに比べると薄めである。
ビルド達が参戦するまではツラック隊のホスティングを務め、最後の戦いではビルド達の中継ホスト役を担当した。
アシリアは左のヌーリと同じである。

ツラック隊 副官
ノーザン・カーツ大佐Kompf Trukk Co-Commander
Northern Karts

身長203cm 体重122kg

ツラック隊の支隊長付き副官。副支隊長。
階級は大佐でナルミと同じである。
元スキーン隊の大隊長で、開戦後の半壊したツラック隊にハスハントから派遣された。
支隊長ナルミよりも年上でベテランのカーツはナルミの相談役としてツラック隊を支える役目をもっている。
しかし、中央ハスハント出身の彼はミノグシア軍の意向を受け、厳しい戦況の中、ナルミ支隊長に撤退の助言を与えるという役目を本来持っていたはずである。
つまり、カーツは中央から派遣されたお目付役であったのだ。
だが、物語のとおり、果敢に戦いペラとペラ国民を守り続けるというナルミにAP騎士団の存在意義そのものを考えるようになったのだろう。それ以後カーツは中央本部の意向を無視し続け、ナルミの右腕として戦い抜いた。ナルミがソープの助言を受け様々な生存戦略をスムーズに行えたのには、このカーツの見えないところでの働きかけがあったのであろう。





ツラック隊 第1大隊長

ユージン・ボレー大佐

Komf Trukk 1st battalion Commander

Yujin Boray

身長198cm 体重110kg

階級は大佐でナルミ支隊長、カーツ副支隊長と同じである。

登場時よりキャラが立っている人物で支隊での戦歴は長いが、見た目より若くまだ地球年齢で30になったかならないかくらいである。主人公ソープに突っかかる人物はその後の出番も多いということ。

ツラック隊ではナルミ、カーツに次ぐ古参騎士となり、バーガ・ハリのみで構成された筆頭部隊の第1大隊を指揮する。自分より経験も戦歴もあるハレーというエース騎士に対しては、見た目より素直な人物なのでハレーを尊敬し、第1大隊長を譲ることも考えナルミに相談したようだが、大隊の部下達の信頼を考え、ハレーには第2大隊とペラ騎士達を任せることにしたようだ。

この最後の戦いでボレーもスコアを増やし、エース騎士の仲間入りをした。

ボレーの制服を見てのとおり、ショートマントは大隊長の飾りが首回りに付く。女性騎士と同じフリンジの付いたマントを着けるのが正式だが、ほとんどの男性騎士は取り扱っている。マントは女性同様、胸に付くロックボタンで留めている。ジャーグド隊のボルカノがマント付きの戦闘服で登場したが、マントの形状は支隊によって異なっているようである。



ファティマ・ヌーリ

アシリア・セバレート

Fatima Nouri

身長158cm 体重41kg

ボレーのパートナー。M型ファティマ。

プリズム・コードス博士の製作したAFである。GTM制御スーツのアシリア・セバレートは先に登場したスキン隊のライトイエローのアシリアとは色が異なる。

ツラック隊のアシリアは薄いライトグリーンのレインボーカラーである。スペース隊は鮮やかなブラックグリーンとなる。

M型なので手袋とブーツに付くウサギの毛皮のもこもこがかわいい。ツラック隊は激戦区なので騎士は結構適当な出で立ちで戦っているがファティマ達はきっちり正式な制服で戦っている。

ツラック隊 第3大隊長
エルディアイ・ツパンツヒ
Kampf Trukk 3rd Battalion Commander
L-D-I Zwanzig
身長192cm

ツパンツヒである。見てのとおり眉、腕以外にも身体中に入れ墨を入れているが、ツラック隊に入つて目立ちすぎる容貌は、自分の存在をあまり公にしたくないツパンツヒにとって邪魔なので消してしまったようである。

これは単行本に収録されたミース邸の地下の場面での衣装だが、単行本に収録されているキャラシートはつい作品集に収録するのを忘れ、「あれどの作品集に入つてたっけ？入つてねえ～～」ということが多く、忘れないうちに掲載である。
まあ、いろいろとご活躍のツパンツヒさんであるが、「スプラウト・ソング」最後のエピソードでも登場なさるので、期待である。
というか…その最後に登場するツパンツヒさんは…。
また、新しく描かなきゃ…。



ツラック隊 第1大隊副官
モーグ・ルセナー中佐
Kampf Trukk 1st Battalion Co-Commander
Moog Luthener

身長192cm 体重89kg

カーツやボレーと共にツラック隊の古参メンバー。ベラ出身。まだ若く、ボレーがGTMを故障させて戦闘に出られないため一時的に第1大隊長を務めていた。とはいってもこの時点で大隊は10騎に満たない小部隊だったので、本来の中隊長的な動きと変わらなかつたはずである。そのモーグのGTMもソープが来た時には壊れていたのだが。

最後の攻防戦では枢軸軍の大集結にただひとりイルナーと前線に残り、枢軸軍の戦力と映像を送り続けていた。非常に危険な行動だが、電磁波妨害の高い戦場ではやはり肉眼での識別が最もなのだ。

枢軸はわざと自軍の戦力を見せつけることでツラック隊の士気を削ぐ事が目的だったのでモーグとイルナーがギャザリング(情報収集)しているのを見逃していたのだろう。

モーグのGTMスーツである。「あれ？」と感じた方もいると思うが、モーグの上衣は女性用GTMスーツと意匠が合わせてある。「リッター・ビクト」でも述べたが、騎士達の衣服は自前なので、規定の範囲内でカスタムできる。この上衣はきっとモーグがAP騎士に昇進した時の記念に作ったものであろう。上衣のサイドのバイキングやサイドの刺繡、ブーツにもツラック隊のカラーが入っている。この上衣は通常の上質なフラノとは違ってさらに高級なドスキン生地で作られ、服のラインがすっきり出る。そのため服にしわはほとんど出ない。重くなるのもっと軽い生地で作っている騎士も多いが、この生地の上衣ならどこに出ても礼装として通用する。



ツラック隊 第3大隊第6中隊長

エイチ・サイト中佐

Kampf Trukk 3rd Battalion Co-Commander

Eighti Saito

身長201cm 95kg

ツラック隊の第6中隊長を務めていた。次々と減っていく稼動バーガ・ハリとAP騎士の中でソープが来た当時は副官のカーツにエーディスとこのサイトだけが出撃できる指揮官という状態だったのだ。そのため残ったわずかなAP騎士とベラ国家騎士団をまとめ、何とか国境で耐え続けていた。実戦でGTMを撃破することは簡単ではなく、大破以上でなければスコアは与えられない。ツバントヒと組んであっという間にGTM撃破スコアを更新していくのに非常に驚いていた。さすがツラック隊でGTMも壊さず生き抜いてきただけあって戦闘のカンは良く、ツバントヒの初陣をきっちりとサポートした。

ベラの戦いの後は、スパース隊を始め、さまざまな支隊から異動要請や指揮官、教導部隊の教官などの話が来ているようだが、北部が安定するまではツラック隊に在籍している。

ツラック隊 第3大隊第7中隊長

エーディス・ミュクレー中佐

Kampf Trukk 3rd Battalion Co-Commander

Edith Müclee

身長188cm

第7中隊長としてサイトと共にツラック隊の中核を担い、ギリギリの戦力でベラ国境を守り通してきた。サイトとは夫婦である。そのためかこの2人の連携は非常に息が合うもので、ナルミもそれをわかった上で、ツバントヒの初陣のサポートをこの2人に任せたのだ。2人のベテランコンビはツバントヒも一目で「任せて大丈夫」と見抜いたほどの腕である。

ソープが来てからは、少し余裕ができ、エーディスは新しくやって来る志願騎士などを鍛えていたようである。

まあ、その中には怪しげな若い騎士だの変な売店の売り子だのがいたのは気がついていたはずである。ただ、そのことはツバントヒにも伝えていたようで、ツバントヒと内密に調査をしていたようだ。

彼女が手に持っているのは野戦食のレバーベーストにピクルスを混ぜたサンドイッチとフルーツカクテル。果物のシロップ漬けでカロリーと栄養が補給できる。コクピットの中でも気軽に食べられるよう配慮されている。コクピット内には長時間の作戦などに備えて、こういった水や食事などが搭載されている。ファティマが食事をとる時は騎士がコクピットから放り上げたり、ファティマがGTMのプロムナード(連絡通路)を降りてコクピットに入る。ベラ戦以後は子供ができるので休職している。とはいえ、戦闘になればまた指揮官として飛び出して行くのだが。



ツラック隊 第3大隊
バイズビズ(ヴィンズ・ヴィズ)
 Kampf Trukk 3rd Battalion Kampfritter Bero
 Biz Viz ~ Vizvis (Z.K.K.M. No.Left 12)
 身長200cm 体重89kg

ミラージュ騎士団Z.K.K.M.のレフト12。ザンダシティの秘密結社「ローゼンクロイツ」のメンバーであったが、親分格のキュキイがどこかにすっ飛んでいったので、その後を追いかけるようにミラージュ入りした。ミラージュに来たはいいが、キュキイ以上の半端ない強さのお姉様揃いだったので、ここで一生を過ごそうと誓ったようで、その短絡的な思考がアマテラスに気に入られたのかミラージュ入りした。ある意味忠誠と同じだからだろう。

本人はそういう性格だが、ローゼンクロイツ出身だけあり、スパイ活動や暗殺にかけては超一流で、場数も多く踏んでいる。ハスハには戦場偵察という名目で剣聖の戦いを見に来ていたのだが叶わず、その後、ログナーの命令でペラ国に潜入した。ペラ騎士として潜入後はもっぱらツラック隊に送り込まれてくる枢軸のスパイを内密に処分していた。これは枢軸にとっていつまでも落とせないペラに多くの密偵が送り込まれるだろうと、ログナーは予想していたのだ。ログナーが恐れたのはソーブが支隊にいることで、その護衛も兼ねてミス宇宙軍とペアで送り込んだのだ。ログナーが送り込むほどだからこの手の任務には相当の腕とみてよいのだろう。その後、スパイであることがばれ、ツバントヒと戦うことになったが、衝撃的に強いツバントヒに負けた瞬間、子分モードとなり、攻防戦ではAP騎士として戦った。どのみちその後ツバントヒはミラージュに来たので、バイズビズにとっては頗ったり叶ったりである。攻防戦のラスト、姉貴分のキュキイとさらにその上のアイシャの戦いを見て単純にはしゃいでいたようである。さすがミラージュ騎士である。



ファティマ・スバルタ

Fatima Spoluto

身長158cm 体重37kg

モラード・ファティマ。??え、お前モラード・ファティマだったの? し、知らなかった…。すまん。作品集を作る時はたいてい以前の作品集を横に並べて設定や名前のスペルの確認などをしているのだが、ほぼ忘却の彼方というのはある、普通である。スバルタは前のマスターを失った後、しばらくフロートテンブルにいたのだが、入れ替わるようにやって来たバイズビズを認め、そのままパートナーとなった。バイズビズにとっては初めてのファティマである。彼はローゼンクロイツでの活動でGTM戦闘が必要ではなく、それでまだファティマを取っていなかったというのがあったからである。このアシリアースーツはペラ国家騎士団のもので、ミノグシアの国家騎士団は皆だいたい同じスーツである。ペラ攻防戦ではAP騎士団のアシリアに着替えていたが、数の多いS型でその分スーツの準備があったということなのだろう。これがもしL型だった日には大変である。たぶんそれまでのスーツを使い続けることになる。

最近の連載でお気づきのとおり、イグリドやエベレストなど、モラード・ファティマにナンパリングが入れられ始めた。いよいよタワーが登場してくるので、モラード・ファティマの全データもそろそろ発表しようかと思っている。





**某国の密偵
エレーナ・クニヤジコーワ**

OWARAI GUMI from East
Elena Kuniazkova

身長175cm

ミス宇宙軍・お笑い組。物語中や作品集中隙あらば登場する神出鬼没のキャラクター。

ということで、バイズビズと共にいきなりツラック隊に編入となった某国のスパイだが、急だったので、ローラーガールのタンクトップとショートパンツの上にそのままAP騎士団の女性用GTMスーツを着込んでいる。彼女は背が低いので、一番小さなサイズでもかなり大きかったはずだが、制服がドルマンスリーブのワンピースなので、だぶついた感じはあまりない。ブーツだけは合うものがなかったので自前のようだ。まあさすがミス宇宙軍、このようにスカートをたくし上げてきっちり着こなしていた。よく見ると袖も折り込んでいる。

ツパンツヒにしてみれば強力な騎士が一気に2人も第3大隊に入ってくれたため、心強かったであろう。最後のジッドの突撃の時に単騎でハレーのための道を開けに行けたのもバイズビズとエレーナがケツ持ちとサポートを受け持ってくれていたからである。スピードが全てのあの状況で囮までもしたら、ツパンツヒは敵を一撃で撃破したとしても数秒のロスが出てしまう。超高レベルの騎士の戦闘にバイズビズとエレーナはしっかり付いていったということである。もちろんAPのサイトとエーティスが大隊をしっかり引き受け、手慣れた見事な連携をしていたというのもある。この時の第3大隊全軍の突撃はレイスルを分断し、奇襲された本陣までの道と壁を作ったのである。その勢いはツラック隊全軍の動きをさらに活性化させたのだ。



ファティマ・虹姫

Fatima Nijjhime
VVS2-B-A-A-B2-A =S= SK 003 Bori

身長150cm 体重38kg

桜子のファティマ。

身長低い…。

普通のファティマの標準身長ではない。まあこの理由だけで「銘入り」というのがわかるファティマだが。ガーランドなりたての初期のファティマらしく、桜子がバランシェ・ファティマを目標に作っていた時代のものである。ただ、当時はまだ経験も浅い桜子の作品で、工場製より遙かに上とはいえ、「チャンダナと同様の性格」というのは、「偶然そうなっただけ」で、桜子はチャンダナと同じということにしてプライドを保った、というのがたぶん本当。なので虹姫の性格は桜子の後付けで、きっと桜子は同じものをもう1体作れと言われたら作れないはずである。

ひょうたんから駒的なファティマであるが、性能の方はあるとおりかなり凄いので、情報収集がメイン仕事のマスターにとってはとても相性の良いファティマである。

ミノグシア軍のアシリアばかりなのも飽きたので、バビロン騎士団のデカダン・スーツ…のはずなのだが、どう見ても正規のバビロン騎士団のスーツではない。

人生のほとんどを寝ているんじゃないかと言われるファティマである。

サムナー・カロン技術少佐

GTM Maintenance in Chief
Sommner Karon Major in Technology

身長168cm 体重70kg

ツラック隊の技術将校。整備主任。

胸元を見てもわかるとおり2本線のジャスター称号で、博士号を持つGTM整備技術士である。またツラック隊のGTM整備大隊の指揮官でもある。

消耗し尽くしているツラック隊でわずかな整備員と共に奮戦していた。眠るヒマなどなかったことであろう。

そこにおちゃらけた服装のソープとラキシスが来たのだ。

スライダーという高位称号を持っていてもあれでは誰も好感は持てない。いきなり自分のテリトリーにやって来たスライダー様にどう協力しろというのか？ やり方を変えるのか？ 整備員達も同じ心境だったのだろう。

そんなソープに原因不明の故障で動かないバーガ・ハリを一発で直され、カロンは目が覚めたという。

見た目の偏見や自分のジャスター称号、ツラック隊を切り盛りしてきた整備主任というプライドはGTMを修理することに対して何の意味もないことだと。

ナルミはベラを守るために。自分達は騎士に1騎でも多くのGTMを渡すために。それが自分がこの場所にいる意味だと。

ソープが来てからのツラック隊の整備員達は猛烈な勢いでGTMの修理、回収、調整、パーツ交換をやってのけた。

ソープが現場で教えるバーガ・ハリの整備、調整技術はツラック隊の整備レベルを一気に上げ、ベラ戦終了後もツラック隊の整備はハスハント1と言われるまでになったという。

いろいろな意味でソープはツラック隊に大きなものを残してくれたのである。いつの間にかいなくなってしまったソープとラキシス。カロンは生涯この2人のことを語り継ぐのである。

戦闘シーンや派手な騎士、ファティマを描くのはめんどくさいが、こういう整備や後方で働くキャラクターを描くのは大好きである。だいたいキャラデザインのパワーのかけ方が違う。カロン技術長は隙あらばどこかに登場しているので、かなりお気に入りのキャラだったので思う。



ミース・シルバー・バランシェ伯爵

Fatima Garland
Count, Meath Silver Ballanche

身長165cm

ツパンツヒと同じく単行本には収録されたのに作品集に載せていなかったミースの黒服である。随分大人になったが中身は子供というのはモラードやコーグスの願望かもしれないが、アララギ・ハイトの反応どおり、ものすごい美人である。

ミースは物語中でもかなりのガーランドスーツを持っていることがわかる。ペイジでのバッハトマ軍の治療時はバランシェらしいウルトラマリンブルーと白であったが、それ以降はいろいろな服を着ている。桜子もそうだが、この辺は女性ガーランドということだろう。

ベラの攻防戦ではファティマ達をも上回るカウンターコード(プログラム破壊コード)を自ら書いていたが、ガーランドにしてみればファティマ達の演算能力は自分が教えて作ったようなものなので当然としても、やはりそこはバランシェの名を継ぐガーランドたるべく、バランシェ・ファティマのマドリガルが作り出すであろう妨害コードを予測してそのカウンターコードを作っていたのだ。やっぱりこのあたりはもう常人には理解不可能な世界である。

しかしミースがツラック隊に来ていなければずっとマドリガルのクロス・ジャマーの中で戦うことになり、さらに苦戦していたはずである。

ビルドを連れてきたおまけとはいえ、ガーランドが戦闘に加わる時の恐ろしさが周囲にいた情報部隊には驚愕だったことであろう。

もちろん医療大隊を編成しての活躍も半端ではない。戦闘の後、最も忙しかったのはミースで、敵味方問わず負傷した騎士やファティマ、最優先の一般兵士を治療していたのだ。えらい。

ソープ、いやアマテラスは賞賛を含めてミースのことを「バラシエ博士」と呼ぶようになったが、バランシェという名を持った以上、こうなっていくのだろうなと思ったのだろう。その後のアマテラスがミースを見る目はとても優しい。





スパチュラ隊 支隊長

カーリム・玲於奈

AP Kampf Spacyula Commander
Carimoon Reona

身長190cm

AP騎士団・スパチュラ隊、支隊長。

北部ミノグシアのバトラントに駐留していたスパチュラ隊は開戦時、二つに分裂した。前支隊長オノラ・ドウセンはミノグシア軍と合流すべく、カツツェー公国へと1個大隊を率いて離脱した。後を副支隊長であったカーリムに任せ、離脱組は現在もエンブリヨ隊と共に三つ星傭兵騎士団、ドレンノ連邦軍と戦っている。

分裂したのはハスハからの造反ではなく、バトラントとイエンシングが中立を決め込み、枢軸とは戦わないという結論を出したからである。

AP騎士団としてミノグシア全土を守る姿勢を貫きたいスパチュラ隊と、バトラント国会との間には大きな隔たりがあり、苦渋の策として支隊長が離脱という形でスパチュラ隊は分裂したのである。

部隊をこれ以上大きく離脱させなかつたのにはベラ方面よりも南部のナカカラ国境から枢軸に攻め込まれることを恐れ、支隊の大半をバトラントに残さざるを得なかつたのだ。

残されたカーリムはスパチュラ隊の支隊長としてバトラントの防衛にあたることになった。国会に枢軸との戦いを説得するためにもスパチュラ隊はバトラントを離れず戦線を監視していたのだが、ベラ国境で大規模な枢軸軍が集結するという事態にすぐ反応した。ベラが落ちればそのまま枢軸は北部に侵攻していくと。物語のセリフどおり、バトラントに残るスパチュラ隊の半数を率いベラ攻防戦に参加した。

カーリムはかつて教導部隊の教官であったハレーのもとにいたことがあり、ベラ国境での再会はハレーが騎士に復帰したこと、スパチュラ隊として枢軸と戦えることの二重のうれしさがあつたであろう。

ベラの戦いの後、北部ミノグシア各國は旧ハスハとそれを引き継いだ現在のミノグシア連合を完全には信用していないが、少なくともAP騎士団のスパチュラ隊とジャーグド隊はツラック隊と共に北部限定で共闘をすると約束したのである。

今回のキャラ解説はベラ戦の各國の動きだの戦略だのがあり、連載では描ききれなかった各国家のその時の状況を可能な限り解説していますが、あんたらねえ、こちとらもう必死で何枚も何枚も地図作って、ここにウモス来るからここには～とか言ひながら毎月考えていたのだ。偉い！ 誰も言ってくれないので自分で褒めておく。

戯言はさておき、初登場のスパチュラ隊の制服である。

カーリムはスパチュラ隊が分離した後の支隊長なので、制服もGTMスーツも完全に支隊長様式ではない。GTMスーツは見えてのとおりオーソドックスなカッティングだが、支隊カラーである水色がポイントで入っている。装飾はさすがに手が込んでいるが、葉っぱの文様はスパチュラ隊のツタの絡み合うマークと合わせてあるのだろう。この文様は彼女だけで、他の騎士は普通のスーツである。ブーツも若干仕様が異なるが、ヒン同様、履きやすいものを選んでいるようだ。

ヤーボから続くこの制服だが、サイドの文様の入るところにはフリンジが付いていない。なんで？とか思っていた方はきっといるに違いないが、誰も聞いてくれないので言っとく。

サイドにフリンジが入っていないのは動いた時にこのサイドから足が見えるようにするために、女性騎士達の長い足をさらに強調し、つまるところ見せびらかすためである。

ジャーグド隊 支隊長

ボルカノ・ストーン

AP Kampf Jorgud Commander
Borkerno Stone

身長205cm 体重110kg

AP騎士団・ジャーグド隊、支隊長。北部ミノグシアのイエンシング共和国を担当するジャーグド隊はイエンシング共和国国会と隣のバトラント共和国国会との間で中立を保つという決定が出され、無傷のまま隣のスパチュラ隊と国境を監視することとなった。ジャーグド隊が動けなかつたのはイエンシングにあるバーガ・ハリ製造工場をなんとしても守らなければならなかつたという理由もある。

南のペラでは枢軸の侵攻が激しく、ツラック隊が半壊しているという事実を知っていたが、国会の意向に逆らうことは造反であり、AP騎士団としてもイエンシングを捨てて戦いに参加することはできなかつた。

だが、苦戦し消耗するペラに対して支隊長のボルカノは自軍防衛のためにイエンシング工場で増産されていたバーガ・ハリを何とかペラに渡せないと模索していた。ペラの内情を見れば騎士は次々集まり、異様なGTM稼働率を維持しているとしても、やがては消耗し尽くし、足りなくなるのはGTMと補充パーツであるとわかっていたのだ。

ボルカノとスパチュラのカーリム支隊長は両国会に「ペラが落とされれば次は北部。それを阻止するためにもペラにGTMを送り、北への盾となり続けてもらわなければいけない」と説き伏せた結果、ペラにイエンシングからバーガ・ハリが届けられたのである。もちろんボルカノもカーリムもツラック隊に盾になり続けて欲しいなどとは思ってはおらず、自国の安泰だけを考える国会と国民に対する方便であった。

ペラ攻防戦にはスパチュラ隊と共に参戦し、劣勢で過酷な戦いになると踏み、補給部隊と支援部隊を可能な限り同行させてきたようである。

といっても明らかに不利な戦いで、ボルカノもカーリムも生きては帰れないと思悟を決めた参戦であった。どのみち枢軸の大軍がペラを制圧すれば結果は同じで、少しでも枢軸の戦力を減らそうと駆けつけたのだ。

参戦してすぐにツラック隊の傘下に入ったが、AP支隊としての格はジャーグド、スパチュラの方が上である。しかし戦場を仕切るのはツラック隊なので当然のようにナルミの指揮下に入ったのだ。もちろん戦い続けるナルミとツラック隊に最大の敬意を払っていたのは間違いない。

ジャーグド隊の制服である。

ロングコート状なのは支隊長であるボルカノだけで、フリンジも付いている。マントはジャーグド隊固有のもので、支隊カラーの藤色で刺繍してある。仕立てはスパース隊のランドのものに似ているので、男性騎士服にはロングコートバージョンがあるのだろう。

支隊のマークは黒のスペード。トランプのスペードと同じで力や剣をイメージさせる。付けている意味も戦闘機や軍用車両に付いている理由と同じなのだろう。支隊カラーは9ページに一覧が出ているが、注意して欲しいのはバーガ・ハリの騎体色ではなく、支隊カラーは頭部などの差し色として使われていたり、支隊マークに入っているくらいである。





コーラス王朝 王女
セイレイ・コーラス
Trio de Co-Lus Corps General
Co-Lus Princess Seirei Co-Lus

身長172cm

コーラス王朝王女。
パートナーはアルセニック・バランスのシクローン。
体重が公開されているのはセイレイだからである。とはいえた成長期なのでまだまだ身長は伸びていくだろう。

着ている服はハスハのスバース女学院の制服である。ミノグシアに潜入する時、警戒されないように調達してきた物だが、既製品なので騎士であるセイレイにはかなり窮屈なサイズである。そこかしこばつぱつで手足が飛び出している感が半端ない。肩幅なんて合っていないので飛び上っている。

行動そのものは見境のない感情的なものだが、それが実際にできるかどうかで結局人間の価値は決まるのかもしれない。アイシャを含め、国家の王女としてのセイレイに一目置いた者は多かったであろう。

ペラ戦後、セイレイはもちろんアイシャ達の参戦にきっちり落とし前を付けた。ミラージュの参戦は枢軸に囲まれたセイレイ達を救出するためのもので、コーラスはA.K.D.に対して大きな借りを作ったこと、アイシャらがバッハトマ軍を壊滅させたのは気のせいだ、大半はコーラスの戦果であることなど、ミノグシアに対して説明したという。その口裏合わせにアイシャはランドのいるスバース市に来たのだ。

もちろんミノグシアにも星団各国にもミラージュがバッハトマに対して「個人的なわだかまり」を持っていることは周知されていたので、アイシャらの参戦はほぼ全ての国では不問とされ、「A.K.D.の参戦ではない」とされた。この辺もセイレイの采配の賢さであろう。



ファティマ・ラ・シクローン
Fatima La Cyclone

身長163cm 体重42kg

アルセニック・バランスのファティマ。
「風のファティマ」と呼ばれる。問題はタイ・フォンが長女としてもシクローン、モンスター、ユリケンヌの誰が長女なのかわからないということころか。設定はしていない。3つ子みたいなもので姉妹の上下関係はないのかもしれないが。彼女らと「ラ」を持つフローレス・ファティマなのだが、マスターが崩ってああなので、彼女らが「フローレス」ということを結構忘れられている。とはいえ、後半のファティマ大集合の状態では、全員が風のファティマに敬称を付けて呼んでいたので、ファティア間ではやはりこのシクローン達は別格ということなのだろう。



コーラス王朝軍 お目付役
マロリー・ハイアラキ・マイスナー
Trio de Co-Lus Corps Co Commander
Meistner Princess Mallory Hiarak

身長180cm

コーラス王朝軍お目付役。
なのだが正式にコーラス軍に加わることからマロリー王女と呼ばれている。ルース家長女でトラン連邦大統領ミッショーン・ルースの実の妹。マロリーの参戦は国際的にはトランの関与と取られるのを配慮して、マイスナー家の王女という肩書きでセイレイと行動を共にしている。ハスハ参戦に兄のボードの反応は不明だが、お互いに不干渉ということで距離を置いている空気もある。ともあれもうマイスナー王家に嫁いだと認識されているので、今後はマロリー・マイスナーと正式には呼ばれるはずである。

口は悪いがボード同様にセイレイの気持ちや自分の疑問をきっちんと分析し、自分達では戦力不足と判断し、アイシャに助力を求めるとか、セイレイ以上に活動的である。後先考てないのはマロリーの方かもしれないが、きっちんとセイレイのサポートに徹していた。これは大統領の妹として政治に関わることはなかったマロリーが、セイレイが国家を背負って動いていることに少しでも助力したいと思った結果なのだろう。
その損得抜きの行動はやはりどこかボードと似ている。スバース女学院の制服を着た自分を「痛い」とか言っていたが、まあ、ギリギリ大丈夫なお年頃である。



ファティマ・ラ・モンスーン
Fatima La Mousson

身長162cm 体重39kg

マロリーのパートナー。アルセニックのファティマでフローレス・ファティマ。
ヒッチハイクを繰り返し行き着いた先はペラ攻防戦と、マロリーと一緒に出てきた時にはさすがのモンスーンも予想できなかっことだろう。パランシェ家のファティマ同士の戦いとなつたが、まあ、決着は付かずというところだろう。敵となったマドリガルも命令謝も風のファティマまで参戦してくるとは思わなかつたに違いない。いや、当然だけど。
ペラの戦いは星団全土のガーランドや騎士、幕僚達にとっても非常に興味深い戦いであったはずだ。
これだけのファティマ達がクロス・ジャマーに関わった戦いなど今までなかつたはずで、最後の最後はアグライアが「ストライパー」まで起動する電子情報戦であったとも言えるからだ。

コクピット内の彼女らの前に投影されるいくつもの幾何学模様やデータは、GTMの制御にアナログなスイッチやパネル、空中投影パネルなどがまったく必要ないということを示している。ああ、そういう時代なのだと再認識するのである。彼女らは頭脳の中でたくさんのタスクを処理しているのだが、一応目視でも自分のやっているタスクや他のファティマからの情報を投影することで、騎士との会話などを中断せずにに行っているのだ。
会話には演算とは別の大脳の機能を使うためである。



コーラス王朝 旗騎GTM HL1 SR2m

Trio de Co-Lus Flagship GTM HI-RHIANNON HL-1 SR2

全高25.2m 自重244t

コーラス王朝の旗騎GTM。実際には「SR1」が存在するので同型騎シリーズ2という呼び方をされる。

セイレイの持つ白にオレンジカラーのSR3cとまったく同じで、このマロリーのHL1 SR2ではグリーンが使われている。詳しくは前作の「リッター・ピクト」にあるので、そちらを参照いただきたい。

小型のフレームなので発熱量も多いらしく、下脚部には多くのスリットがあるが、さらに放熱パーツとして脚部側面のパネルが開き、そこから熱を強制排出している。見てもらえばわかるがこの放熱パネルのヒンジもツインスイングである。GTMのあらゆるパーツはこういうスイング可動で、単純にばかんと開いたりはしない。上にスイングスライドしてから横にアーチ状に開く。また前後に振り子のようにスイングして足の動きの邪魔にならないよう動く。2段階のアクションだが実際にはワンアクションで稼動している。

-HL1の制作順としては
アルル(ハリコン)のHL1 SR1

このマイスターのHL1 SR2

コーラス3のHL1 SR3

であるが、2989年にSR3は大破し、ソープの手によって「エンドレス」という別物のGTMに生まれ変わった。

そのためSR3はもう1騎作られ、それがセイレイの駆っているHL1 SR3である。

エンドレスはその後SR4とも呼称されている。

また、最初のSR1は剣聖ハリコンが使用していたために若干仕様が異なっている。

ピチカート公国 シェン・ラン騎士団長

アイリーン・ジョル

Principality of Pizzicato Kampritter Schenran

General Irene Jor

身長195cm

元コーラス王朝トリオ騎士団近衛大隊長。

現在はピチカート公国のシェン・ラン騎士団の団長。ピチカートはその音楽的な名前の通りコーラス王家ゆかりの公国で、コーラス王朝の一部でもあるが、対外的には独立国家である。

今のイギリストとオーストラリアなどの関係に似ているかもしれない。

高校時代からの同級生であるエルメラ・フロンドゥ・コーラス王妃の依頼でセイレイのお目付役兼援軍として参戦した。名義上はコーラス王朝軍である。セイレイとは古くからの知り合いで、相当セイレイを鍛えていたのであろう。

パートナーはバランシェが工房を作る以前のファティマ、パトラで、ナンバリングは入れられていないが、バランシェ・ファティマ達はクーンよりも上の姉として認識している。ただ、モンスーンらアルセニックのファティマからは妹にあたるために、モンスーンはバトラと呼び捨てにしていた。マドリガルからはバトラ姉様となる。

意外とファティマ達は上下関係ではなく製造年や制作ガーランドから相手ファティマに対して呼び方を変えている。

初代ファティマであるニーブやSSLに対しては全てのファティマは敬称付けで呼び、またエストなどに対してはほとんどのファティマが「様」付けで呼ぶ。



ソープ様のひみつ

なんと、連載30年にしてようやく主人公、ソープのいろいろ解説である。なんたることか！
ご堪能いただきたい。

胸の浮き上がる紋章

胸には中央部に浮き上がる紋章がある。
入れ墨ではなく何らかのきっかけで浮
き上るようになっているようだ。天
照家の紋章の他、Z,K,K,Mの漆黒の花
十字の紋章も浮かび上がるようである。

ベルト

革の編み込みベルト、もしくは丈夫な
キャンバス生地で織り込まれた布のベ
ルト。数本持っているらしく、ツラッ
ク隊でも数種類見られる。ズボンにベ
ルトは普通だが、上着にベルトは基本
的に作業用、仕事用である。本人もそ
のつもりらしい。

ポーチとポケットの中

珍しく14巻ではいつもぶら下げてい
た。
頑丈な牛革に巻き取り縁の入ったボッ
クス型のポーチである。硬い。
中に入っているのは、ツラック隊IDを
兼ねるデータポッド（マルチテバイス、
通信、認証からお買い物まで色々な機
能がある。隊から支給される軍用品）、
プレスレット（言わずとしたGTMマ
グナバース、及び全ミラージュGTMの
強制外部操作デバイス。ソープ以外は
パワーオンにすらならない）、爪切り、
カンロ鉛3コ（おやつにもらったもの）。
パンツの両サイドのポケットにはバイ
ル地のハンドタオルなどを入れてある
ようだ。

靴下

どこにでもある3足千円くらいの綿の
リブソックスを三つ折りにして履いて
いる。女性から三つ折りじゃなくて二
つ折りくらいじゃないとあの折り込
んだ幅にならない、三つ折りだともっと
ぱてっとなりますと、連載開始以来い
ろんな人に言われているが、知ったこ
っちゃね——。二つ折りより三つ折り
の方が語呂がいいからじゃ——！ 素
足だと足が荒れるので履いているだけ
と思われる。

不思議な頭脳

生化学者が最も頭を悩ませるところ。
見た目は普通の人間と同じ大脳系列なのだろうが、
ソープには本来生物の持つ本能が全て欠落している
ので、この本能に基づいた行動というものができな
い。それは行動だけでなく、会話であったり、とっ
さの反応であったり、喜怒哀楽という感情であっ
たり、子孫を残すために重要な愛情や性欲も全て欠落
している。

人間が、生物が本能として持つ感情や行動は「子孫を
残す～自分の遺伝子を残す」ということに左右され
るので、これがないソープ（アマテラス）には防衛本
能もない。生物が食事を取るのも同じ理由で、生き
延びるとか死にたくないという本能に付随するもの
だ。しかしソープは、死がないからこういう本能は
必要ない。まあ当然である。

もしかすると不老不死の代償には生き延びることと
いう本能が必要なくなるので、本能と感情の欠落と
いうのがあるのかもしれないが、論じること自体、無
意味である。

14巻ではついに死んでいたカイエンを蘇生するこ
とをやってのけたが、これは自分が手を下したのと
同様なので、「なかったことにした」だけなのだ。それ
以外の理由はない。

謎な行動パターンは今後も続していく。今後「あの
時は超常の力を使ったのに、同様のパターンのこの
時にはなぜ使わなかったのか」というシーンがある
かもしれないが、「そんなのわからない」のひとこと
で終わってしまうだろう。

これはセントリーの行動も同じである。

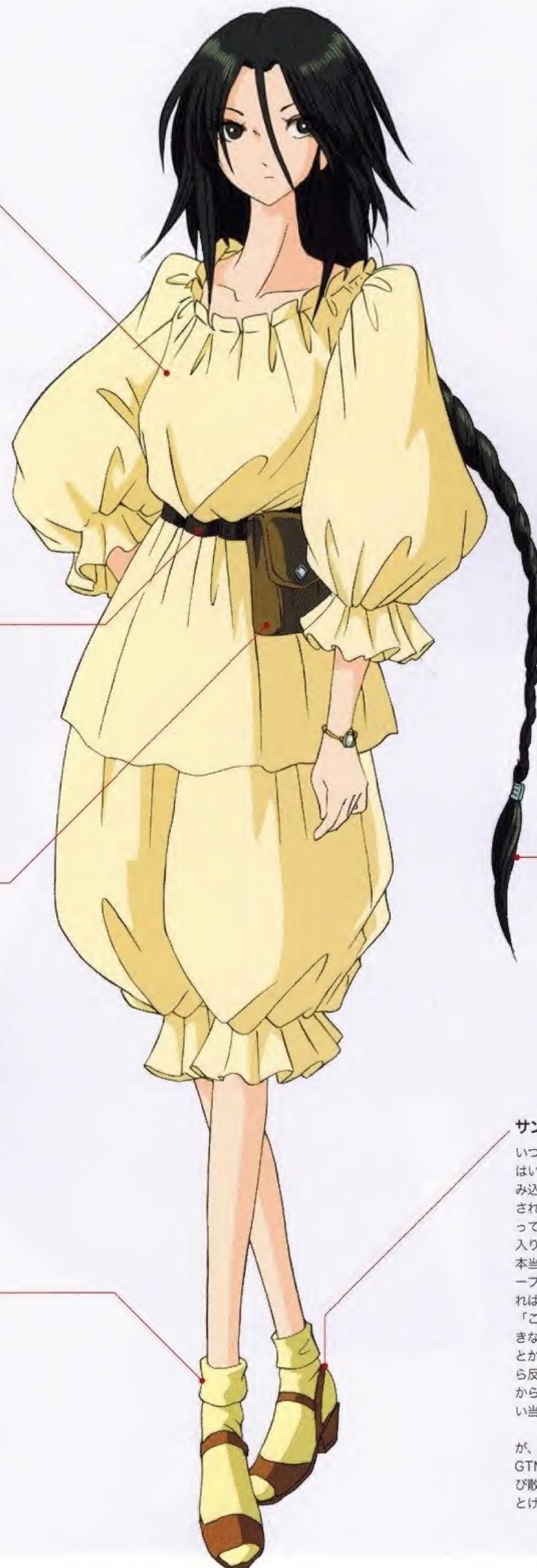
長い黒髪

足もとと同様、GTMステーブルの
中を髪もひつめずに長いまま作
業しているのは本当に危険。旋盤
や重機に長い髪が巻き込まれる危
険や、引っかかるて頭が持って行
かれるとか考えていないのか、工
場の保安責任者は頭が痛いとこで
ある。ラキシスですら髪の毛を
束ねて作業しているというのに。
スライダーというの特権階級だ
からといってあんまりである。

サンダル

いつも革製のサンダルを履いているが、きっと同じもの
はいくつも持っている。このローマンタイプのものと編
み込みタイプ（ジュノー戦）のものを持っているのが確
認されている。ブランドものなどではなく、オーダーで作
ってもらった男女兼用の細い幅のベルトのものがお気に入
りらしい。
本当は危険物や危ないものが散らばっているGTMステ
ーブルや工場でこんなつま先の出るサンダルを履いてい
れば速攻でつまみ出されるものだが、きっとソープは
「このサンダルじゃないとGTMから来る振動を把握で
きないので底の厚い靴は履けないので」
とか言っているに違いない。スライダーにそう言われたら
反論できる者などはないだろう。実際ソープは遠く
から来るGTMを地面から伝わる振動だけでたいてい言
い当ててしまうのも事実だ。まあ嘘ではないのだろう。

が、やっぱり危ないのでトホホなことに変わりはない。
GTMの洗浄のために強酸や強アルカリの液体が床に飛
び散っていることだってあるのだから、サンダルはやめ
とけ——。と言いたい。



ラキシス 軍務服(特務曹長)

Chief Warrant Officer in GTM Maintenance
Lachesis

ツバツヒと買い物に行った時のミノグシア軍制服である。女性用の下士官作業服を自分なりに着こなしている。彼女のツラック隊での階級は「特務曹長」で技術「士官」扱いでいる。ライダーの補助という役割なので特務曹長の肩書きになったと思われる。本当は特務曹長という呼び方はいろいろとややこしいのでここでは省くが、多くの国では「准士官」という呼称が多い。「非常に秀でた特殊技術を持つ者」という使われ方で士官同等の扱いである。軍階級の准尉とは若干異なるのだが、同義で使われている場合もありややこしい。

下衣は「リッター・ピクト」のミリタリーパンツと同じものが、上衣は正式なツラック隊の軍服である。小さいラキシスには上衣も階級章もかなり大きく見える。下衣は裾が長いので安全ピンで留めているのは前と同じ。靴は正式な整備用軍用ブーツで、つま先には耐衝撃保護材が入っている。まあ危険物の多い整備場では必須である。

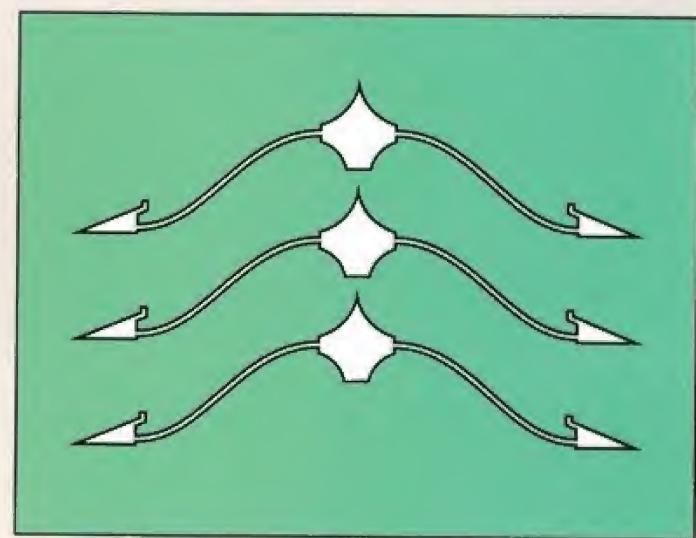
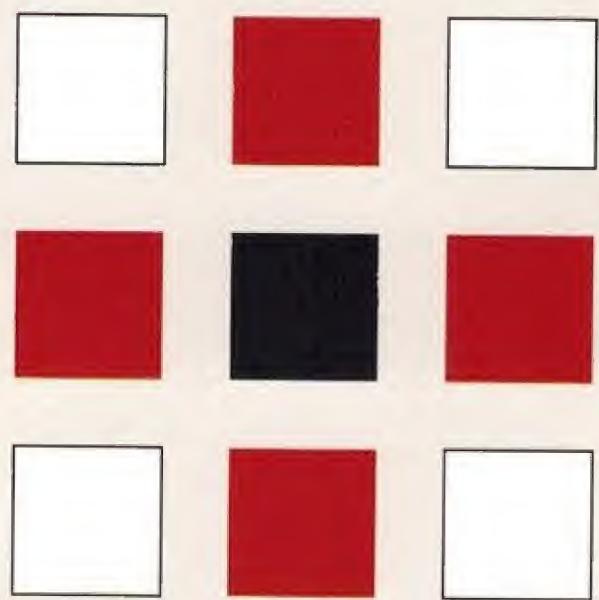
胸にあるのは勲章の略章ではなく、ID所属の名札である。

ツラック隊の現状を公開する時に大きなGTMパーツのカゴをよろよろ押すラキシスの場面が映し出され、星団中の同情を買った。「ツラック隊を援助しなければ！」という空気を後押ししたのは間違いない。まあ、言わなくてもわかると思うが、ラキシスは1トンくらいの貨物なら片手で運んでしまうのだが、それは見せられないのと、おやつがなくなって本当に非力状態だったのかもしれないで正確なところはわからない。このニュースを多くの人が見たが、だれもラキシスだと気がつかなかったのはある意味凄い。溶け込み方半端ない。ただ、さすがにフロートテンブルの目つきの悪いガキはひと目で気がつき、ミス宇宙軍を派遣することになったのだが。

結構ツラック隊ではラキシスの生の生態が出ていたが、よくわかるのは脱皮に失敗した時のラキシスの部屋に散乱するたくさんの物。ベラの観光案内やお菓子などだ。ソープと一緒にいろいろなところに行ったり、一緒に仕事をしたり、実際には戦場なのでできないとしてもそんなものをいつの間にか集めているのがいじらしい。本当に一緒に何かしているということが彼女にとっては一番大切なことだったのだろう。

ソープすら威嚇する恐ろしい一面もあるが、中身はまったく変わっていないのがさすがヒロインである。なんかこの手の美少女が軍服を着ると萌え度が上がるのかツラック隊でのラキシスの人気は高い。意外だ。

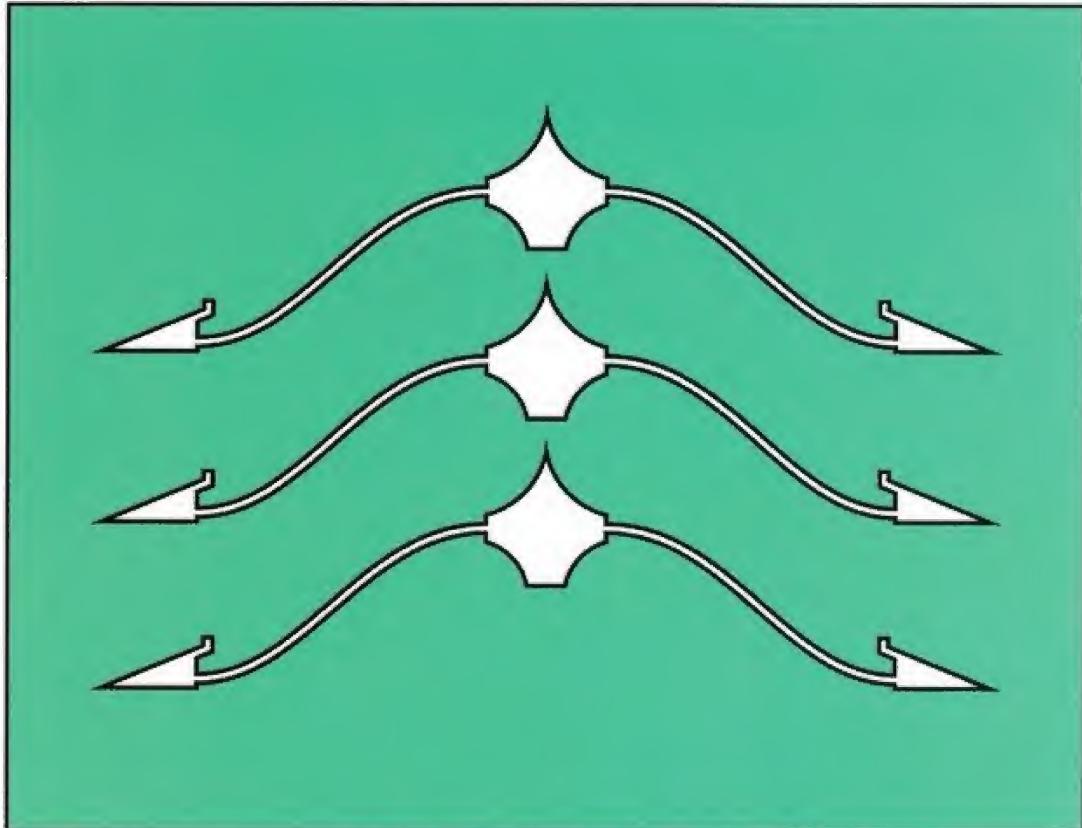




RAIDERS

枢軸軍





Empire ROSSO

ロツゾ帝国
ヴーグラ騎士団





枢軸軍占領地



開戦時からロッゾはバツハトマと共に旧ハスハントに進軍し、現在はハスハントの半分近くをその支配下に置いている。バツハトマのボスヤスフォートによって統治下に置かないことを明言されたが、現在旧首都にはロッゾ軍を主体として枢軸各國の司令部が置かれている。

トマが西のノウランを目指し、ロッゾは全軍を南に退け、シーザス国境を目指し、スパース市を包囲する予定だったのだが、ハスハント東部を担当するはずであったウモス他4ヶ国連合軍がイーストカステローで巨大な雷によって壊滅し非常事態ある。

また、ロッゾは重産業国家でもあり、このボオス星の戦いで多くのGTMや兵器を他国に売るという目的もあった。

トマが西のノウランを目指し、ロッゾは全軍を南に退け、シーザス国境を目指し、スパース市を包囲する予定だったのだが、ハスハント東部を担当するはずであったウモス他4ヶ国連合軍がイーストカステローで巨大な雷によって壊滅し非常事態ある。

トマが西のノウランを目指し、ロッゾは全軍を南に退け、シーザス国境を目指し、スパース市を包囲する予定だったのだが、ハスハント東部を担当するはずであったウモス他4ヶ国連合軍がイーストカステローで巨大な雷によって壊滅し非常事態ある。

ペラ攻防戦

その後、ロッゾはペラの攻略をロッゾ傭兵騎士団に任せ、消耗戦でペラを落とす算段であった。しかし、ペラの戦いは思いのほか手こずることになり、最後にはついに近衛騎士団である「ザーラー騎士団」がロッゾ本国より出撃した。

このペラでの枢軸の主導権を取ったのはウモスで、お膳立てがバツハトマであったのは物語を読むとおりである。

ウモスとガマッシャーンは出遅れた枢軸占領地域はあまりなく、自由に動ける戦力が多かつたのに対して、すでに大軍をハスハントの占領下に配備していたロッゾは正規軍をハスハント占領地から離れさせるわけにはいかず、また、初期侵攻目的であつたペラを他国に任せるわけにもいかずという理由で近衛騎士団ザーラーを出陣させたということである。もちろんだらだらと落とすことでもきれないペラに対して最強騎士団をもつて早期決着を付けたいということもあつたのだ。

ロッゾ帝国の立ち位置

短期決戦で終わった首都ベイジ攻略後はバツハント北部に向かわせ、北部守備軍のツラック隊を半壊させた。

それを受けすぐにロッゾは半数の戦力をハスハント北部に向かわせ、北部守備軍のツラック隊を半壊させた。

バツハトマのノウラン侵攻が遅れたのにはこういう理由があったのだ。

ロッソ帝国 総騎士団長

ダックナード・ボア・ジイ

Empire Rosso General Kampfritter

Sir Docnard Bar Sie

身長210cm 体重103kg

ロッソ帝国筆頭騎士で全軍司令官。

ブーチェル皇帝から戦争の全権を任され、ペラ攻防戦でもバッハトマ、ウモスと連携を取って軍を出した。大軍による早期決着を付けるために開戦時ですら投入されなかった近衛筆頭騎士団ヴーグラを出撃させた。これには中心となるウモスに配慮したことである。もともとハスハントにはロッソ正規軍が大量に配備されており、それぞれがミノグシア連合AP支隊と戦闘しているためにそうそう動かせず、かといってそれまで担当していた北部戦線を他国に任せるとかくもいかずと言うことでウモス、バッハトマの話に乗ったのだが、少数精銳のヴーグラを送り込むことによる軍のアピールもその目的であった。ロッソとしても苦しい選択であったのは間違いない。

ウモスに華を持たせるために自らは出撃せず、グレースに一任したのもそういう理由があったからなのだ。ダックナードはレイスルのナオの動きを見てすぐに軍を引かせる命令をグレースに出した。ミラージュという伏兵とすでに数においては同等となり、奇襲失敗でツラック隊の士気が上がった状態で勝つどころか自軍の損害が増えるだけというのをなんとしても避けたかったのである。

後の枢軸軍会議では真っ先に軍を引かせたのはレイスルのナオであるが、これは崩壊したバッハトマ軍を救出するためという見事な大義があつたため丸く収まったというのがこの戦いの結論である。後の会議ではボスヤスフォート自らがバッハトマの失策であったとわびたことで枢軸軍各国のメンツは立ったのである。

ということで、ダックナードさんは再録だが、ガット・ブルーが追加されている。しかしながらごついガット・ブルーもダックナードが持つとつまようじみたいである。ヴーグラ騎士団の持つものだが、金の装飾が入った特別製である。



筆頭ファティマ・ネロス

Empire Rosso Flagship Fatima Neros

身長156cm 体重40kg

再録。ネロスはダックナードのパートナーでロッソ帝国の筆頭ファティマとなる。ガーランドはエトラムルの設計者でもあるエーロッテン・ニトロゲン博士で、「ペレダ」の妹にあたる。

エトラムルの産みの親、ガリュー・エトラムルはエーロッテン・ニトロゲン博士の別名であることがマウザーの言葉でわかったが、そのニトロゲン博士が作った数少ないファティマで、その性能はどのファティマも特筆すべき高性能であると言われている。

ロッソのアシリアはもこもこなどが付きとても愛らしいが、デカダンスーツは騎士達の制服に合わせたものとなっている。凛としたスタイリッシュなスーツは制服と言ってもおかしくない。

ただし、このダークカラーはネロスとマドリガルくらいで、他のヴーグラのファティマ達はライトブルーのスーツである。このネロスとマドリガルという強力なファティマがロッソ騎士団の頂点でもある。



ロッソ帝国 近衛騎士団ヴーグラ 騎士団長

グレース・スドール天位騎士

Emperial Guard Vouglah Commander

Grace Saddle

身長192cm

ヴーグラ騎士団長グレース。ロッソの女性天位騎士である。スーツの色は見てわかるとおりヴーグラのライトブルーではなくてペパーミントである。このあたり女性騎士団長ならではの趣味というところか。

ダックナードの命の下、ベラに降り立ったグレースだが、ロッソの最精鋭部隊を率いていても、部下達にツラック隊がいかに強力な騎士団かということを述べていた。彼女の言うことは当然で、これだけ長期にわたり落とせず、GTMを次々繰り出してくれるその体力を非常に警戒していた。

膨大な数で押すといつても簡単にはいかないこと。そして見知らぬ強力な騎士達がいるのではないかという推測。非常に冷静なグレースはあれだけの戦いの中でも損失を最小に抑え、戦闘後の負傷兵の回収を敵味方関係なくするようにという命令も出していた。軍指揮官として鑑のような人物である。

手に持つガット・ブロウは自前なのかヴーグラ騎士団で支給されているものとは違うタイプのものである。

つか、グレースを男性と思っていた方も多いかったようで、トホホである。キリッとした吊り目に頬の出た顔は日本人には怖く見えるかもしれないが西洋ではこれこそが美人の代名詞でもある。なんだかなー。後でも述べると思うが、ほんっとに「記号」がないとわからないものなのかな?? それはアタクシの制作理念に反るので今後も安易な記号を使ったキャラ作りはしないつもりである。しかしきれいなひとだー。



ファティマ・マドリガル・オペレッタ

Fatima Madrigal Operetta

身長160cm 体重42kg

バルンシェ・ファティマNo.23。

ベラ最後の攻防戦で「クロス・ジャマー」を仕掛けたファティマ。バッハトマのジッド、ウモスのベルミ、ガマッシャーンのナオとで綿密な計画の立てられたこの作戦では中心的なファティマとなり、ツラック隊を翻弄した。

この場合マドリガルはファティマ達の「指揮ファティマ」という立場となり、戦場の友軍と敵全ての情報を処理することとなる。想像するだにとんでもない仕事量で、その上ロッソ騎士団長のグレースのサポート、GTMボイスオーバーの制御と、まごうことなきスーパー・ファティマである。

ツラック隊にソープがいることを察知し、一瞬たじろぐが、姉の令令謝に活を入れられ、指揮ファティマとして戦うことはもちろん、ソープにきっちり全力で戦っているところを見せることがマスターにとっても自分にとってもベストであるという結論を出した。

グレースもナオもうすす感づいていたのだろうが、延々落とせないツラック隊は何かあると踏んでいた。ファティマ達はそういう空気を真っ先に察知するので、マドリガルも覚悟は決めていたのだろうが、動搖するのはもうある意味仕方ないことである。



ロッソ旗騎GTM
ボイスオーバーGA2
Rosso Flagship GTM VOICEOVER GA2

全高26.0m 自重240t

ライオン・フレームGTMは重産業国家ロッソの威信をかけて製造された。マウザーがライオン・フレームの維持の難しさを言っていたが、実際ライオン・フレームのGTMを保有するのは中小国家では難しい。さらにそのライオン・フレームGTMを開発製造するのはさらに困難である。それが可能となったのはGTMガーランド、バラベラム・スターム公の登場である。ロッソにとって都合が良かったのはロッソの南部にあるグラウロッソ産業都市、ナーリア学術都市を学者達のために作っていたことであった。ここからスターム公が登場し、多くのファティマガーランドもここに居を構えている。そして多くの人物の隠れ家ともなっており、パローラ・プラス博士はラ・ベルダとここに住んでいた…つまりビリジアンのことである。だから彼の作るエトラムルには「プラス」の名が入っているのだが、それはここでは関係ない。

このボイスオーバーはユーレイヤバーガ・ハリ同様のプロポーションでライオン・フレームの基本がわかる。ロッソの威信をかけたGTMで、さすがに単騎ではなく、複数騎存在しているのがわかっている。

このペーミントグリーンのボイスオーバーはヴーグラ騎士団長グレスのもので、装飾を兼ねたパールホワイトが非常に目を引く。

同じライオンフレームのグロアッシュと装甲やツインスイングの長さなどを比べてみると違いがわかる。グロアッシュよりも軽い分、スイングも若干薄くなっている。

ベラ攻防戦では、各国とも普段では滅多に出撃することのない旗騎GTMやスーパーGTMが登場し華やかな戦場であった。実際、あの戦で戦った多くの騎士や兵達は敵味方問わず、「うわー、見たこともないのがいるわー」とか言っていたに違いない。

ロッソ主力GTM
グロアッシュ
Rosso Main GTM GROASH Asuf H

全高24.5m 自重270t

ロッソ帝国の近衛騎士団「ヴーグラ」が使用するGTM。
H型は主にヴーグラ騎士団が使用し、派手なカラーリングと
装飾が施されているのですぐにわかる。

ペラ戦には頭部形状が若干異なるものもいたが、製造ロット
や騎体によって騎士が自分に合ったものを使用するために意
外と統一されていない。しかしカラーリングはほぼ同じに施
されている。

ヴーグラ以外もロッソの国家騎士団が使用するが、これほど
派手な装飾はされてはいない。これはあくまで近衛騎士団ヴ
ーグラだけの仕様である。

現存数は不明だが、500騎以上は製造されているとみられて
いる。またロッソ以外にも供給され、1話のユーパーが個人
的に購入していたのもこのグロアッシュである。まあ、こん
な高価で整備が大変なライオン・フレームGTMを買うもの
だから腕の良いスライダーが必要になったわけだが…。

ライオン・フレームのグロアッシュの背中と肩のバックフラ
イアはコーネラのSBB01同様、傘の骨のような細長い装甲
を展開している。これは広げなければ後ろにまとまるよう
になっている。SBB01デモールが多くの傘の骨のような放熱
装甲を後ろに出しているのは、放熱キャパシティがライオン
フレームより少ないとすることで傘の数を増やし、軽くするために
細く長く作られている。



ヴーグラ騎士団 男性GTMスーツ

Emperial Guard Voughlah Male GTM Battle Suits

ヴーグラの通常GTMスーツである。

色は全て国旗に合わせてあり、近衛騎士団という派手さと威厳を持つ制服に仕上げられている。何より胸元の幅広ネクタイが優雅である。

ヴーグラだけでなくロッゾの階級章は非常に大きく装飾も兼ねたものになっている。ダックナードのような最高司令官だと金の組紐が3列で、グレースなどは金のラインに3つの星で騎士団長クラスを表している。通常のヴーグラ騎士はこの通り1本で左官クラスを表すが、ヴーグラのものは肩章が非常に長く取られている。



ヴーグラ騎士団 礼装

Emperial Guard Voughlah

随分前から公開されているヴーグラの礼装。大きなマントと兜の下は左の制服である。ロッゾのカラーであるスカイブルーとグリーンの組み合せで非常に威庄的な姿である。帝国という感じがぴったりである。

右胸に付く3本の矢のマークがロッゾの国籍マークで、緑と黒のぐるぐるがヴーグラ騎士団のマークとなっているようだ。

ヴーグラ騎士団 女性GTMスーツ

Emperial Guard Vouglah Female GTM Battle Suits

女性騎士用のGTMスーツも基本的に男性と変わらない。まさしくズボンかスカートかの違いである。なんでスカートなののか理由は青銅騎士団のところに書いてあるので、そちらを見ていただきたい。

ペラ戦終了後は率先して負傷兵の救護にあたっていたが、ああいったことができるるのはまれである。第1次大戦などでも塹壕で向かい合ったフランス兵とドイツ兵がクリスマスの日にどちらからともなくクリスマスを祝い、敵味方関係なく食事を振る舞いひとときの休戦を楽しんだが、次の日からは激しい塹壕戦を再開している。同じ戦場でついさっきまで殺し合っていたのに、さっきまで一緒に酒を酌み交わしていたのに…。戦争の矛盾はいつまで続くのだろうか。



ヴーグラ騎士団 内部肩パッド

Shoulder protector

右の礼服の巨大なマントの中はこういう大きな肩パッドが入っている。一応装甲も兼ねているが、肩幅を大きく見せる工夫である。



ヴーグラ ファティマ

アシリア・セパレート

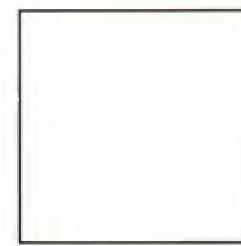
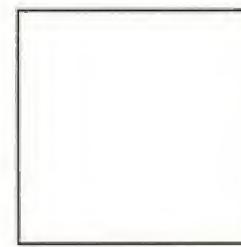
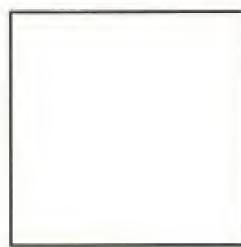
Vouglah Assiria Separate

ヴーグラのテカダン・スーツはネロスのようなスタイリッシュなスーツだというのに。ヴーグラの騎士達は襟も糊の利いた清潔な白の硬質なイメージなのに。なんで、ファティマのアシリア・スーツはこんなにもこもこなのだ？？

まったく意味不明である。このウサギの毛皮のようなもこもこは思わず触ってしまいそうだし、靴下も白いレースで、なんなんだこれはいったい！？

何でこうなったのか星団中の人々が聞きたいわ！あの過酷で壮絶な戦場で、騎士や軍人達が神経をすり減らし目を血走らせている戦場で、こんなキラキラ光るスーツにもこもこスカートに足もとひらひらのファティマが何人も動き回っているその光景は…。まあこれがファイブスターだわな。というより日本の戦国時代も西洋の騎士の時代も、ナポレオンの帝政フランス時代も、みんな派手！ その時代に考えられる限りの派手な服を着て戦っていたのだから、それが人間の本性。目立たないように汚れても良いように地味な地味な、地味な地味な、かっこ悪いかっこ悪い服着て戦争で命の奪い合いをやっているといいたいこの先どういう形になっていくんでしょうか？ まあ、もうわかってるんですが。





NSUA

Nationalsozialistische
Umoos Arbeiterpartei

ウモス国家社会主義共和国
青銅騎士団



ウモス国家社会主义共和国。長いので単にウモス国と表記されることも多い。英語では頭文字を取つてUSSRへと読みこなされる。

取ってNSUAと表記される。ウモスの歴史は「デザイinz3」にも詳しいが、カラミティのショルティ大陸の南、キーヤ大陸で生まれた国家である。

ウモスの立場位置

超帝國時代より資源は掘り尽くされ荒廃した土地。その上、北はフィルモアとクバルカン、キーヤ大陸のほとんどはロツゾ帝国という大国に挟まれた地理的環境で、ウモスが国家として生き抜いて行くには厳しい環境であった。

周囲の大國から自國を守ることで精一杯であつたため、星団の霸權、利権争いには出遅れていたのが事実だ。

その中で、通商を主軸に発展し、その後GTM

その中で、通商を主軸に発展し、その後GTMの生産などの重工業が主体となつたが資源をガマッシャーンなどから輸入せざるを得ず、今も昔も資源の確保が最も重要課題となつてゐる。

国益のほとんどは「青い影」という結社がとりまとめてきた。俗に言う経済連合である。システム・カリギュラと接触したことによつて、GTM製造を産業のメインに切り替えていった、この時にユーポ・マウザー教授の指導の下、ヘツ

生産されるGTM

マウザー教授のGTMボルドックスは多くのGTMの雛形となり、製造主任を引き継いだヘンケラー博士はウモスの数々のGTMを設計し、青騎士団の「青騎士」と呼ばれるGTM・X-8紫仙鋼、X-9紫苑鋼を生み出した。

「シユ」の設計者、パラベラム・スターム公が「ライモンダ」「バヤデルカ」という汎用GTMを開発し、これらは多くの国家で使用され、今やウモスはGTMのライセンス生産によつて莫大な利益を上げている。

參戰目的

資源の確保と領土であるのは明白だが、それ以外にもウモスには目的があるようだ。それはウモスが資源の確保に工場星として持っているカーマントー星などの労働者の確保でもあった。

ウモスは西太陽系を主に活動する無国籍集団「ドーマ連合」と組み、資源を調達していた。主な資源調達先であるガマッシャーンに頼りすぎるこ

とを危険視し、随分前からドーマ連合と組んで資源の確保に動いていたのだ。工場星の採掘に関してはアクト4のラストエピソード「カーマントーの灯火」に詳しく描かれるが、工場星の労働者確保にミノグシアの戦いであふれ出る難民を次々工場星に送り込んでいる。

この陰謀にはウモス、ドーマ以外にシステム・カリギュラが絡んでいるのは間違いない。彼らの使う「ブーレイ傭兵騎士団」は大きく二つに分かれ片方はフィルモアとの共闘でナカカラで暗躍、もうひとつがウモスと組んでの占領地蹂躪を行っているのだ。

ウモスのミノグシア侵攻はパツハトマとも綿密な会談を重ねて計画されていたのだろうが、不運なことにウモスの先行部隊はイースト・ハスハを移動中、突如発生した巨大な雷雲によつて壊滅した。ウモス第1と第3軍団混成部隊、ドレンノ連邦騎士団、ロッサム国家騎士団、ウルツシ共和騎士団、4つの集団が雷によつて戦艦、GTM輸送船もろとも破壊され、総数800騎と言われるGTMを失つてしまう。

噂でしか知らなかつたカステボーの大自然、超異常気象の前に4ヶ国連合が壊滅してしまつたのだ。

このあり得ない事態によつてウモスを含めた先行部隊は消失し、本来の目標であつたハスハント北部を攻められず、急速ロッゾの正規軍が移動し

北部ミノグシアへの侵攻を肩代わりしたのである。この時、雷によって失ったウモスの戦力は甚大で、第1、3軍團の持つ青銅騎士團GTM200騎、ウモス連合騎士團200騎、ウモス傭兵騎士團100騎という大損害で、他の3国家もミノグシア侵攻が止まるほどの損害を受けてしまった。



ウモス国家代表
フォッケヴォルフ・ムックル總統
Der Führer Facewolf Mockl

身長165cm 体重65kg

絶えず大国の影に脅かされてきたウ

とって、安定した領土と資源確保は積年の夢である。元々荒廃したキーヤ大陸の西端という場所は住みよい場所ではない。領土確保と同時に難民を工場星に送り込む。このウモスのやり方は非難されるべきで大儀とはとても言えないものだ。しかし、どう言われようとムックル總統以下、国民党は国家のために国民のために安定した未来を作り出そうとしているのである。



ウモス 統合軍団長

ベルミ・クローゼ

NSUA Commander in Chief

Bermi Close

身長205cm 体重110kg

ムックル總統の片腕と言われるウモス軍総司令官。強面で実際冷酷なところを見せるベルミだが、枢軸軍の中核としてバッハトマとロッソに持っていた戦争の主導権を取り戻すべく暗躍している。北部ミノグシアの占領を最も望んでいたのはウモスで、手強く陥落しないペラを手中に收めるべく、バッハトマのジッドの計画に乗ったのはそういう理由があったからである。もちろん占領後はウモスが中心となって北部ミノグシアへの侵攻を進めていたことだろう。作戦が失敗し、枢軸各国が撤退を始めた時、これも運命かというある意味割り切った態度であった。

ウモスの總統、ムックルの理想にウモス人として共感し、やがてそれは自らが悪人となってまで国家のために未来の利益を得るという思想に変わっていった。騎士はともかくとして軍指揮官クラスにはその思いをぶつけ、ウモスの行く末を憂いでいたようだが、そのベルミの狂信じた思考についていけない者、反発する者は政治と軍事の中央から逃げていった。バルスエットの前マスター、レスターもそういったひとりであった。

軍の最高司令官として絶大な権力を持つが、それは全てウモスの未来のためである。

しかし、ペラの攻防戦で最前線に立ったのは、やはり騎士として、GTMを駆り先頭に立ち、騎士と国民と他国にその姿を見せつけなければ自らの理想も口だけのものになると知っていたからだ。ロッソのグレースと共に先陣を切って戦う姿はこの男の誠実さでもあるのだ。多くの騎士がこの男についていくのはちゃんとした理由があるからこそなのだ。騎士として最高司令官に上りつめるのは政治力だけでは不可能である。

また、この話の流れで「二羽の小鳥」で語られたウモスの筆頭騎士であったクローター・ダンチヒ公が引退し、ファティマ・オデットをバランシェに戻したのもこういった理由があったのであろう。

ミノグシア侵攻の序盤では送り出した第1、第3混成軍団が功を焦り、イーストカステボーを横断するというルートを取った時に、ベルミは壊滅する可能性があるのを悟っていたのかもしれないが、先行集団の4ヶ国連合が集合に手間取り、これ以上進軍を遅らせるわけにはいかなかつた。ただベルミは気がかりだったのだ。「カステボーにいると言われる何かが介入してくる可能性がある」ことを。後の調査で本来雷雲が発生するはるか上空から雷が先行軍を襲ったと判明したが、「まれにあるカステボーの異常気象」と結論づけられた…。

思い切り悪役なのに愛のある描かれ方をしているのは気に入っているからだ。

筆頭ファティマ・ヴィルマー

NSUA Flagship Fatima Wilma

身長159cm 体重40kg

ベルミのパートナーでウモス筆頭ファティマ。ヴィルマーこのバッスルスタイルにはたくさんの方が反応したみたいで、大変に嬉しい。バッスルだけではなく、ほわっとした分厚い真っ赤なブーツもポイント高いのだが～。この大きなバッスルとほわほわブーツはヴィルマーだけのようである。あとヘッドアシリアの耳だれも他のファティマのものより2節も長い。お気に入りなので大きく載せてある。

8巻にてバイドバイバーリー騎士団のファティマとして戦った時は、見たこともない巨大なGTMにX-8ごと叩き潰され、瀕死の重体であったが、駆けつけたアイシャとアレクトーの迅速な処置で生き延び、ビルド、ブーウラ、ヴィルマー3人ともモラード博士によって復活した。

その後、すぐにウモスのベルミ軍団長のもとに嫁いでいる。非常に経験豊かなヴィルマーを得たことはベルミにとっても助かったことだろう。ベルミが娶ったということはベルミはファティマを失っていたということで、青銅騎士団軍団長ベルミはファティマを失うほどの激戦をぐり抜けてきたということでもある。

ベラの戦いでは先陣を切るX-4紅盾鋼を駆り、マドリガル達のクロス・ジャマーサポートもやっていたが、敵にビルドがいるとわかるや、ビルドの駆るBS-Rとの交戦は避けるようにベルミは部下達に伝えた。当たり前だが青銅騎士団のGTMがかつて同じGTMを駆っていたビルド相手に戦うのは非常に不利であったからである。だから頑強なロッジのグロアッシュに任せようと依頼したのである。通常のファティマ同士なら敵のファティマが自軍のGTMをよく知っている、またはかつて乗っていたということは普通にある。

問題はそれがビルドとBS-Rに乗ったエース騎士相手だということだったのだ。

かつて一緒に戦っていたファティマ同士が戦うことは今後もあるだろう。もちろんその最たるもののはエストなのだが。

単行本では間に合わなかったがこの通りガット・ブロウを持っているのが完成型である。ベルミのガット・ブロウでカスタムである。ワークツヤオーロラもそうだが、マスターのガット・ブロウを持っている場合が多いのは指揮に邪魔にならないように持っていることと、オーロラの場合のようにマスターが重いガット・ブロウを持ちたくないから仕方なくスカートの中に押し込んでいるというのまで理由は多彩である。





ウモス旗騎GTM
X-4紅盾鋼(ハルシュカ)

NSUA Flagship GTM VOLDOX RUBY =Co Jun Ko=
X4 HARUSCHCCA

全高26.8m 自重230t

ウモスの総騎士団長ベルミの使用する特殊なGTM「ハルシュカ」。その姿は「花の詩女」に登場したボルドックスそのもので、現在星団でよく知られているX-9型ボルドックスとはかなり違う。ウモスが国力を上げるためにシステム・カリギュラと契約をしていることは述べたが、マウザーが残した数々のボルドックス型の設計、運用をヘッケラー・バシントンが引き継ぎ、このオリジナル・ボルドックスとも言うべきハルシュカを製造したのだ。現在のボルドックスには見られなくなっている両肩の放熱装甲は中空で見た目においてもかなり派手である。

フェイスマスクにはアイホールがなく、眼球がまったく見えないが、半透明装甲の奥にちゃんとある。色も赤を主体にした派手な装甲で、「こうじゅんごう」という呼び方をされることもある。名前だけ聞けば麗しい女性騎士が乗っているかと思ってしまうが、残念ながら怖そうなおじさまのGTMである。

ウモス旗騎GTM
X-8紫仙鋼(青騎士)
NSUA Main GTM
X-8 SHIANRAN

全高25.5m 自重245t

ウモス国家騎士団の主力GTM。ハルシュカと比べると装甲以外はまったく同じというのがわかる。というか、ライオン・フレームとこのパンター・フレームは肘のパーツが識別ポイントである。実際にGTMを目の前で見ればその体格ですぐにわかるのだが、見た目的なポイントは肘のパーツである。

キーヤ大陸南端にある「ノーティガ重産業都市国家」からやって来たヘッケラー・バシントン博士がボルドックスから作り出したX-8紫仙鋼は非常に高性能で、ウモスの中核を成すGTMとして大量に生産されている。

若干装甲を変えたものが輸出版X-8として大生産され、X-9同様星団の各国家に輸出され物語でもいろいろなところでお目見えしている。







青銅騎士団 男性騎士服

NSUA Kampfritter Bronze Male GTM Battle Suits

ヘルメットやマントに付けられた装甲板が目を引く。しかし騎士にとってはあまり意味はないものなので、式典用である。

GTMに搭乗する時には外してしまうが、騎士によって部分的に付けたり付けなかつたりしているようだ。

各所に入るウモスの国家マークが目を引くが、胸元にあるHのような模様は青銅騎士団の騎士団マークである。

序盤にカステボーの超自然現象によって青銅騎士団はエリート部隊の半数を失ってしまったが、ペラ攻防戦に出撃したのは残ったベルミの精銳部隊と再編された第3軍団の青銅騎士団から成っていた。それでも総数100騎近くがペラの攻略に参加し、ロッソのヴーグラと共に激戦を繰り広げた。

ツラック隊が多くに戦闘で鍛え上げられた精銳支隊なら、攻める枢軸側も精銳部隊ばかりで、意外とそれがあの規模の戦いでも損害が少なかった理由かもしれない。基本的な戦い方がツラック隊のGTMを消耗させる作戦で、精銳部隊ならではの押し引きもあり、無理に戦ってはいなかったということなのだろう。

青銅騎士団の制服の色は所属軍団によって微妙に色が違う、この第1軍団所属の青銅騎士は赤が各所に入っている。女性騎士は黒なので第2軍団の制服である。



青銅騎士団 女性騎士服

NSUA Kampfritter Bronze Female GTM Battle Suits

青銅騎士団、女性騎士服。

GTM・X-8に搭乗する女性達の戦闘服である。もちろん男性同様、コクピットに入る時には邪魔なマントや飾り装甲を外してしまう。

スカートの中はショートパンツ。どこの騎士団の女性騎士もそうだが、ズボンも選べるのにあえてミニスカートタイプの騎士服を着込んでいるのはちゃんとした軍の意向、または騎士団の意向があるからなのだ。

「見た目格好良く。精悍で、清潔で、規律正しく」

というのがある。実はこれは全ての軍隊に言えることで、どの国家の軍隊にも「儀仗兵」や「近衛部隊」というものがあり、これらは一般国民に「広報的な役目」も与えられている。

どの国の儀仗兵も閲覧式や祭典の時に必ず登場し、背の高い見た目もハンサムな兵士達で構成されている。これは軍隊というものを一般の人々に「うへー、かっこいい～～強そう～～」という認識を植え付けるためのものだ。じゃあ儀仗兵はモデルとかイケメン、美女で困めればいいじゃないかという短絡的な思考もあるだろうが、往々に置いて儀仗兵が選出されるのはその国の筆頭エリート部隊からである。

つまり兵の中見も、屈強で精銳部隊で見た目も格好いい、というのが儀仗兵の役目なのだ。見た目だけが格好良くて良くあるファッショングモデルに軍服を着せただけの状態だと、どこかへなへなでとても強そうには見えない。

精銳部隊で格好いいということが大切なのである。

これはもちろんプロパガンダで、国民に対して軍隊への間接的な勧誘であったり、気持ちよく税金を払ってもらったりとさまざま目に見えない役割がある。もちろん対外的にも精悍で格好いい兵士達は威嚇するために必要である。

長くなつたが、そういうこともあり女性騎士達は足を見せるスカート姿が多いのだ。こんな背の高いすらっとした騎士が長い足を見せて颯爽と歩いて行ったりGTMに飛び乗って出撃していく姿は子供達にも大人にもしびれるほどに格好いいはずである。別にスカートタイプを強要されているわけではないが、パンツルックでもこのスタイルだから格好良い。厚ぼったいダイツではなくストッキングを履いている女性騎士もそういう理由だ。(素足は傷だらけの場合があるので避ける女性騎士も多い)もちろんこれは男性騎士にも言えることである。國家の代表となる騎士達はそういう役目もあるのだ。

ペラの市内にラキシスとツバナツヒが買い物に行つたが、ツバナツヒは化粧を落とし、ラキシスもきっちりと軍服を着こなしていた。あの時に戦闘に疲弊し疲れ切った顔でくたびれた騎士服を着ていたらペラの市民達も不安に駆られるだろう。実際過酷な戦闘を繰り返しているのは市民には周知の事実で、それでも尚、騎士達は精悍な姿で市民の前に現れる。戦場での威嚇ではなく、市民に安心してもらうために。それが大切なことだったのである。



ファティマ・パルスエット

Kampfritter Bronze Light Suits
Fatima Palsuet

身長158cm 体重40kg

あれ？

まあ、青銅騎士団と言えばパルスエットさんですね。これはレスターといった頃のパルスエットの青銅騎士団デカダン・スーツ。デカダン・スーツも所属軍団の色に合わせて色は変えられている。騎士団カラーに当時の所属であった第1軍団の赤が入っている。現在のところヨーンをパートナーにしてGTMでの戦闘はないが、騎士団所属のスーツを着ると、おお、さすが筆頭部隊のファティマ、という感じがする。

前にも書いたが、膨大なファティマさん達を描いていると、つい手慣れでヘッドキャバシタや、手袋、リボン、靴下と靴などが同じような味付けとなることに気をつけている。

髪型はまあ余程のファティマでなければたいてい首くらいまでの長さなのだが、手袋を描き忘れるとか、靴の色が同じになっているとか後でしまったとなることが多い。今回は大きく所属国家に分かれているので、デザインの描きわけはとても楽しかった。

まだまだ登場するパルスエットさん。がんばっていただきたい。

青銅騎士団 アシリア・スーツ

NSUA Kampfritter Bronze Fatima
Assilia Separate Suits

冷酷で堅そうなウモスにおいてもファティマのアシリア・スーツはこの通りフリル、レースバリバリのかわいらしさである。

M型のジャカルナよりもスーツの上着の裾が長いが、後ろはバッフル化はされていないようだ。

ヴィルマーもそうだが足もとがふわふわとかひらひらしているのはやっぱりかわいい。

こんなファティマ達がベラの戦場であちこち動き回っているとひとりくらい持ち帰りたいと思ってしまった方は多かったのではないかと。

で、青銅騎士団のアシリアは所属する軍団によって軍団カラーに変えられているようだ。

マスターの移動や再編成でそのたびにスーツを変えるのはけっこう面倒くさいと思われるかもしれないがアシリア・スーツは色を変えられるのでそれほどの手間ではない。

青銅騎士団の第1軍団は赤が入り、第2軍団は黒、第3軍団は白、第4軍団は銀が入っている。

この子は第3軍団の白である。

とはいってもミノグシアの戦いのような大規模戦争では当たり前にカラーの変更が間に合わず、バラバラのスーツの色でファティマ達は走り回っている。まあ、それもかわいいのだが。



ウモスとロツゾの地理関係
そして謎の南部聖域

枢軸のウモスとロツゾのことに触れるとどうしてもキーヤ大陸についての解説が必要となるため、「デザインズ3」からのマップを再掲載し、あらためて解説しておく。

ウモスの北、海の向こうがショルティ大陸でクバルカン法國が鎮座する。ミラージュのイマラの出身国アティア王国はショルティ大陸とキーヤ大陸の繋がる中間に位置し、北はフィルモア帝國となる。

見てのとおり、単行本9巻で登場したスパチュラ国の名残があり、帰還した炎の女皇帝の旗艦シングからバスター・ランチャード一瞬にして壊滅した場所もある。ロッソはこの重産業国家スパチュラの名残ともいわれるが、その西に位置するウモスは国土の大部分が荒野で、超帝國時代の掘り尽くされた施設の残骸がいまだに残り、荒廃した土地が広がっている。

ロツゾの南にはナーリア学術都市、グラウロツゾ、イスハ特別市といったロツゾの領土内ながら帝国の影響を受けない自由都市が数多く点在し、ここに多くのガーランド達が住んでいる。

り、ここは独立自治区でカラミティの多くの国家の重産業を担っている場所でもある。このノーティガがすぐ近くにあるためにガーランド達が住みやすいといった利点もあるのだ。

これがカラミティ星南部の国家だが、最南端には怪しげな名前の地域があるのがどうしても目に入ってしまう。まるでRPGゲームのラストダンジョンのような怪しさである。物語にも作品集でもまだ一切触れられていない場所である。

語られなさすぎて「デザインズ3」にこういう場所があつたことすら知らない方々も多いだろう。

いつたい何なのであろうか？ここは、「ファイブスター物語」には多くの不明な名称や地図には怪しげな場所があるが、そういうところを想像されるのも面白いかと思う。たいていの場合、こういう場所にはすでにエピソードが用意されている。



Republic Gamaschane

ガマッシャーン共和国
レイスル第1党騎士団



ガマッシャーン共和国とは

超帝國南都ハツーダンの名残からうまれた

連載当初より物語の中で、また星団パワーバラーンなどでその名を聞き、絶えず星団列強の一角に位置しているガマッシャーン共和国だが、物語には国家首脳も騎士もGTMもまったく登場せず、どういう國家なのがまつたくわからず、かつての作品集でもこの国家だけは収録されていなかつた。

そのガマッシャーン共和国がついにペラ攻防戦に登場し、枢軸国の中でも最大の注目を集めたのである。

意外と知られていないが、ガマッシャーン共和国はボオス星の国家である。ハツーダン大陸の南部に位置する国家で、すぐ北にはバツハトマが鎮座する。

ミノグシアからは東端に位置するが、ミノグシアのカツエー・スバース市からは海をはさむだけで非常に近い。

この国家の位置がガマッシャーン共和国の置かれた立場そのものという説もある。つまり、聖宮ラーン、詩女の所在地からは最も離れている。ということである。

ガマッシャーン共和国の前身、ハツーダン連合共和国は旧超帝國南都ハツーダンから派生した国家であると言われる。

南都ハツーダンはセントリー・マグマの力によつてその大半を消失した。その名残はねじ曲がるカラミティ星などの列強の支配下に置かれ、搾取や傀儡政権などで独立国家と呼べるような状態ではなかつた。

星団暦に入り、ハツーダン連合共和国は北と南に分裂し、北は通商や交易を中心のハブハミトン公国、南はねじ曲がった大陸から産出される豊富な天然資源の輸出を軸に発達させたガマッシャーン共和国と、別々の道を歩むことになつたのである。

ペラ攻防戦でナオがハブハミトン騎士團を気にかけているのはそういう理由もあつたのだ。さて、この歴史を見てもわかるとおり、ガマッシャーン共和国は植民星の時代を長く経て、現在に至つている。

詩女が茜の星に誕生した時代。ハツーダンの人々はミノグシアの人々と同じ立場にあつたのだ。だがミノグシアやカステボートと違い、ガマッシャーンには詩女の存在はほとんどない。ミノグシアの国家が詩女と共に発展し、星団でも大きな発言力を持つに至つたことはハツーダン、ガマッシャーンの人々には複雑な想いであろう。

同じ民族なのだと。

同じボオス星の民族として詩女は聖宮ラーンとミノグシア大陸の人々の支えとなつてゐるが、そこからハツーダン大陸は漏れた、除外されている。というのがハツーダンの人々の大半の意見である。それゆえ、ミノグシアに対する反発も多いのだ。ハツーダンとカステボートの間にあるメヨーヨやコネラはこういつた経緯を持たない比較的新しい国家のため、あまり詩女を意識していないといふのもある。

強国だが地味な国家のジレンマ

そういう経緯を持つガマッシャーン共和国の現在だが、パワーバランスの順位を見てもわかるところ、豊富な地下資源を持つ国家として非常に強い国力を持っている。

国を仕切るのは3党首と呼ばれる三権分立をそのまま「党首」に当てはめたような政治システムで、彼らは「レイスル3党首」と呼ばれ、立法、行政、司法の三権をそれぞれ代表している。

とはいゝ、3党首は象徴的な存在として扱われ、実務は一般の民主政治と変わらない。3党首はハツーダン時代からの名家から選出されているが、君主制度をわずかに残した民主国家という言い方もできる。

強国であるはずのガマッシャーンが絶えずジレンマに悩まされているのは、歴史、政治、軍事において目立つたものがないということ。それはつまり星団での発言力が弱いということをも意味する。

軍事においては強国ゆえの戦力を保有し、多くのGTMや騎士團を持つが、いまいち話題にならず、存在感のない国家という立場を国民は気にしている。

飛び抜けて目立つた歴史もなく、カリスマ的な支配者や有名なエース騎士がいないガマッシャーンにとって、ミノグシアの戦いで存在感を強めることも参戦理由にあつたはずだ。

もつとも他にも参戦理由はあり、兄弟のような国家であるハブハミトン公国がすぐ北のバツハトマ魔法帝国の圧力を受け、枢軸連合に加入し、そ

れを助けるためという理由と、前記したミノグシアへの反発があつたことである。が、まあどれも取つて付けたような参戦理由で、他の国家のような大義も目的もないのが事実である。これもガマッシャーンという国家をよく表している。

隣国コネラ帝国との関係 バルター博士の登場

セントリー・マグマによつてねじ曲げられた大陸はその造山エネルギーから莫大な資源や宝石などを作り出している。ガマッシャーンはこの豊富な資源を持つため経済的にはとても潤つてゐる国家だが、重産業はこれと言つたものがなく、軍事において最大の兵器であるGTMはカラミティのウモス国や、ロツゾ帝国に頼つてゐた。

主力GTMスイセンは独自発注のウモス製GTMだが、GTMスコータイはツバニツヒがエンジンを設計した、ヘッケラー・バシントン博士設計のアルタイ・シャムラの兄弟騎である。ハブハミトンがスコータイを装備しているのはガマッシャーンからの供給である。

しかし、GTMを全て他国に依存するということに危機感を持つていたガマッシャーンは、何とか自国開発、製造を模索してゐた。その時に隣国コネラ帝国がバルター・ヒュードラー博士を前面に押し出し、売り込みをかけてきたのであつた。この当時は無名のGTMガーランド、バルター博士はボルドックスの設計者ユーブ・マウザーゆかりの人物という触れ込みで各国に売り込みをかけていたのであつた。

もともとコネラ帝国はガマッシャーンの資源を輸入してGTM製造に乗り出していたので、ギブアンドテイクという理想的な形でガマッシャーン独自の新規GTMの開発が始まつたのであつた。これがGTMエクペラハで、パンター・フレームの非常に素性の良いGTMであることがわかり、筆頭騎士團レイスルの主力GTMとなつたのである。

エクペラハはご想像のとおり、コネラ帝国のSBBデモールと設計は共有してゐるところが多く、兄弟とはいひかないまでも非常に近いGTMである。これからもわかるとおり、マウザーはかなり前からコネラに接近し、バルター博士の援助をしていたようだ。その繋がりもあってシステム・カリギュラが接近してきたのだろう。

レイスル3党首
メスティ・ウラスバーン
Leader of Three, the Layihru Mesty Ulasburn

身長185cm 体重77kg

レイスル3党首を輩出するハツーダン名家のひとつウラスバーン家の当主でレイスル3党首のひとり。

ガマッシャーン共和国は共和制を取るが、ハツーダン連合共和国の時代から名家と大地主が政治と経済を仕切っていた。その名残で数多く残るハツーダン時代からの家が、立法、行政、司法の最高責任者となって形ばかりの国家代表となっている。国家そのものは共和議会が全てを決定し、彼らはその決定を国家代表として公布するだけである。とは言え、3党首を輩出する名家は国家の中心となる事業や鉱山の代表者でもあるので、かなりの権力を持ち、その時代時代に沿った党首が選出されているようだ。ただ名家といつても長い歴史の中でその血統は途絶えていたり、新興勢力の政治家や実業家、軍人が入れ替わってたりするので、新陳代謝は行われている。

レイスル3党首
ヤオーニ・マルグレス4世
Leader of Three, the Layihru Yaogni Margres IV

身長168cm 体重95kg

ハツーダン名家のひとつマルグレス公家の当主で、レイスル3党首のひとり。

30以上あるハツーダン由来の名家はそれぞれ土地や事業を持ち、ガマッシャーンの豊かな経済を牛耳っている。

マルグレス家は公家で、セントリー・マグマによってねじ曲げられたと言われている「マグマ・ハイブリーション山脈」から大量の資源を採掘精製する事業をいくつかの名家が取り仕切っており、その中のひとつである。

ガマッシャーンの国家を表すように3党首とは言え正直あまりばっしらない感じの方々が多く、ナオが3党首のひとりに選出されたのは、ガマッシャーンの星団に向けての宣伝ということがあったのだろう。



ナオの生い立ち

とても長いがご了解いただきたい。

ナオ・リンドーはレイスル3党首を輩出する名家のひとつ、リンドー家の跡取りである。

この若さで党首となつたのは、祖父が「黒騎士ロードス・ドラクーン」であつたからである。ドラクーンの娘がリンドー一家に嫁ぎ、ナオを産んだが、騎士の血を持つて生まれたナオにはその時点で国民から多大な期待寄せられた。黒騎士ドラクーンの孫。目立った歴史もないガマッシャーン共和国にとつて、これほど星團中に自国のニュースを知らしめる機会はない、国家、国民揃つての大合唱で盛り上がつていた。

だが、実際のナオの騎士の力は取り立てて飛び抜けたものではなく、並以下の実力しかなかつた。まさしくガマッシャーン共和国そのものである。

だが、そんなことは盛り上がる世論に許されるわけではなく、ナオは実力以上の持ち上げられ方をされ、若くしてレイスル3党首のひとりに選出された上に、筆頭騎士団レイスルの騎士団長にまで選任された。もちろんファティマもいないのでGTMには乗れず、「名誉騎士団長」である。

なんともむごい仕打ちである。その上に祖父ドラクーンのパートナーであつたファティマ・エストを引き合わせ、「次の黒騎士はナオか?」というデタラメニュースをばらまかれ、「シユバイサー・ドラクーン」という呼び方も勝手に付けられてしまつた。

レイスル3党首の名より黒騎士の名の方が有名だということである。なんとも情けない国家である。

もちろんエストはナオを次の黒騎士と認めず、ガマッシャーンはこの事実をひた隠した。

ただこれはナオ本人の才能で、唯一の本当のことだつた。しかしそれがまたガマッシャーンの国民党にとつてはレイスル党首、黒騎士の孫に加えて天才戦略家という燃料投下で、さらに誇張されたニュースをばらまかれることになつた。「天位殺し」だのいつたいどこから湧いて出たのかわからぬような嘘までばらまかれた始末であった。自分への期待が高まりすぎたために香気なナオ

お披露目での出会い

も危険を感じ、しばらく身を隠してほとぼりが冷めるまで国を離れていたといふ。

人にまつたく警戒心を与えないナオは人当たりも良く、この短い休暇を楽しんでいた。

ハスハ連合共和国時代の自由都市ムンスターでは自由都市ならではのファティマのお披露目がよく開催されていた。

トランのバストーニュのような国際的なお披露目がよう目は政治外交も兼ねた大イベントだが、通常はあれほど派手ではなくひつそりと行われる。

ナオはそれでも何度か国内のお披露目には出ていたが、認めてくれるファティマはおらず、「シユバイサー・ドラクーンに見合うファティマなど

そうそういなくて当然」と言われ、ファティマを娶る実力がないという事実が隠蔽されていたのだ。

しかしたまたまムンスターで知り合つた騎士に「気軽にファティマ見物するつもりで出ればいいじやん」と言われ、この騎士と共にお披露目の会場に行つたのだ。

その騎士もなにやら国内のほとぼりが冷めるまで世界を見て回つているということで、ナオはこの騎士と意気投合したのである。

バストーニュやヴァキシティなどの国際的なお披露目では、銘入りの高名なファティマ達や性能の高いファティマには有名な騎士団や騎士達がステージに登場するファティマに群がつて順番に挨拶をする派手でぎらびやかな世界だが、通常のお披露目はずらりと並んだ工場製や銘無しのファティマ達の前に騎士達が次々お目通りをし、ファティマは後から相性の良い騎士を見つけた時だけお

アティマは目を丸くして思わず「おおお、おねえさま、なぜこんなところに…」と言いかけたが、ナオを選んだ銘無しのファティマににらみつけられ黙つてしまつた。

言う必要もないが、ナオを連れてきたのはボーダーという騎士で、メルクラという聞いたこともない名前のファティマと一緒にたつた。

高名なファティマがその素性を隠すことは余計なトラブルを避けるためにもたまにあるが、この時はこのファティマの保護者でもあつたフィルモアのスタイル・クープ博士が、ひつそりとこの子がマスターを選べるように采配をしたのである。ナオを選んでしまつたのは予想外だが、意外と不思議なことではないとクープ博士は感じたという。

ペラ攻防戦の最後、攻撃に失敗したバツハトマのジイッドを無事救出したナオと令令謝、GTMハロ・ガロのまごう事なき活躍はガマッシャーン天照家はナオの実際の実力を正確には知り得ていなかつたが、令令謝をパートナーに持ち、天才的な戦略家ということで非常に警戒していたのはミス宇宙軍の言葉でわかる。

だが、ナオにはまだまだ隠された秘密があるようだ。

アティマ以外にも名無しや工場製のファティマ達となるべく多く嫁がせるために後見人となつてこ

お披露目に来るのは、並以下の騎士であることがほとんどなのである。

ういつた小さなお披露目にファティマ達を連れてくるのはよくあることであつた。

で、ナオはファティマ達に挨拶をしていたのだが、いきなり適当な服を着せられた名無しのファティマが仲介役も介さず、ナオの前にやつて来て、そりとマスターを選べるように」依頼したかといえば、このファティマ、騎士相手に何を言うかわからないと言う恐ろしさがあつたからである。

普通はファティマが選んだ騎士に断られるという事態を避けるため、後から仲介役を介して騎士のだが、いきなり自ら騎士に声をかけるのはルール違反でもあつた。

黒髪のちよつと目のつり上がつたファティマで、胸に名札が付けられており、名札にはマジックで「レイニヤ」と書いてあつた。

ファティマに選ばれることはないと思っていたナオにとつては青天の霹靂で、断る理由もなくナオはそのファティマを娶つたのである。

その時、ナオをこの会場に連れてきた騎士のファティマは目を丸くして思わず「おおお、おねえさま、なぜこんなところに…」と言いかけたが、ナオを選んだ銘無しのファティマににらみつけられ黙つてしまつた。

言う必要もないが、ナオを連れてきたのはボーダーという騎士で、メルクラという聞いたこともない名前のファティマと一緒にたつた。

「シャープスお爺さまの新しいGTM、この子なら開発を手伝えますよ」と。

本國に戻つたナオはこのファティマを連れてようやくGTMに乗ることができたのである。

連れのファティマはもちろん騎士達からは「レイニヤ」と呼ばれ、国民からは「さる高名なガーランドの作つたファティマである」と、また嘘ばかりの記事を書かれ、実は嘘ではなかつたとわかるのはかなり先であつた。

ペラ攻防戦の最後、攻撃に失敗したバツハトマのジイッドを無事救出したナオと令令謝、GTMハロ・ガロのまごう事なき活躍はガマッシャーン天照家はナオの実際の実力を正確には知り得ていなかつたが、令令謝をパートナーに持ち、天才的な戦略家ということで非常に警戒していたのはミス宇宙軍の言葉でわかる。

だが、ナオにはまだ隠された秘密があるようだ。



レイスル3党首 レイスル騎士団長
ナオ・リンドー
(シュバイサー・ドラクーン)
Noo Lingdo "Laythru"- Schweitzer Dragoon

身長188cm 体重78kg

ガマッシャーン共和国 旗騎GTM ハロ・ガロ
 フィルモア帝国新型GTMラミアス・エリュアレ
 Gamaschane Flagship GTM Hello Gallo
 Empire Fillmore GTM "LAMIAS"
 Type Gargon's Euryele

全高27.5m 自重240t

このフィルモア帝国の最新GTM「ラミアス」がガマッシャーンのナオの乗騎となったのは先の理由による。設計者シャーブス博士は3騎作ったラミアスをマドラ、ナイアス、そして剣聖慧苑に渡したが、剣聖マドラと慧苑は同じ「ゴーゴンズ・メドゥーサ」を使用しているので、1騎残ったハロ・ガロは別のテスト騎体として令令謝に渡されることになった。極秘の新型GTMを他国に渡すというのはフィルモアにとっては意外と珍しくはなく、古くはカイゼリンがそうであるように、ハロ・ガロもすんなりとガマッシャーンに渡された。これにはさまざまなデータを取りたいというフィルモアの意向もあったのだろう。何よりナオと開発にかかわった令令謝という組み合わせがクープ博士の興味を引き、それを同じ帝国老人クラブのシャーブス博士に頼んだというのが事実である。怖いものなしの老人クラブである。年を取ったらメンツや慣習にとらわれることなくこうなりたいものだ。

ドージョージ型フレームというライオン・フレームをさらに堅牢にした設計で、3騎のラミアスは指揮駆逐型として換装されている。後に大量生産に入るラミアスはこの3騎とは異なった汎用GTMである。ソーブが一瞬で見極めたように、指揮駆逐型のラミアスはGTMカイゼリンやメロウラと設計思想同じにしている。そのため外見もカイゼリンを彷彿とさせる見た目になっている。特に白の装甲のハロ・ガロはよりカイゼリンに近い。ペラ攻防戦でのアイシャのソニック・ブレードと同じソニック・ブレードで弾き、プラフォードとキュキイの連弾攻撃を受け止めたハロ・ガロの頑丈さは特筆すべきものである。



超弩級ファティマ・令令謝(レレイスホト)

Dreadnought super Class Fatima
Lei Lei Sha -Le Le ist Hotos

身長160cm 体重40kg

バランシェファティマNo.18。「超弩級ファティマ」
一応S型だが、半分くらい「ほっとい型」
実はまだ謎のファティマ。

「薔薇の剣聖」と呼ばれたマドラ・モイライがそらの橋の下の段ボールに捨てられてにゃーにゃー泣いているのを見かけ…じゃない、かどうかは知らないが、マドラのもとにいたのは確かである。妹であるヒュートランが生まれた時はバルンシェ邸にいたが、それ以外はまったく謎のファティマであった。

そもそもそのはず、令令謝はバキン・ラカン帝国の聖帝ランダのもとにいたのだから。やがてランダから前聖帝ミマスの時代に移り、ミマスはマドラを呼び出し、「実戦でGTMを制御させることに問題があり、非常に危険なファティマなので預かっていて欲しい」と依頼した。マドラが令令謝を連れていたのはそういう理由があったのである。バルンシェはなぜこんなやっかいなファティマを作ったのか、その理由がわかるのはかなり先である。ヒュートランのような理由ではないようだ。

とにかくその後マドラによってクープ博士に預けられ、シャーフス博士の新型GTM「ラミアス」の開発を手伝い、一段落したところでムンスターのお披露目にクープ博士と共に無銘のファティマとして会場の片隅にいた。クープ博士にとって一人でも多くの騎士に会わせて、相手を選ぶ可能性を高めたいというのが理由である。

バルンシェ公の令令謝とわかれば、令令謝とわかって求めてくる騎士の数は激減し、注目されればそれだけ令令謝の異常な性質が公に出てしまう。だからであろう。
これはバルンシェとも相談して得た結論である。

そこでナオと出会ったのである。ただこの出会いは聖帝ミマスから頼まれ、マドラが仕組んだ可能性も否定できない。マドラがナオにファティマを渡すのはある意味、理にかなっているのだから。

「超弩級」とされるファティマは彼女ヒュートランくらいしかいないが、それ故、星団中の騎士が探し回っていた。
しかし令令謝としてお披露目に出れば前記の理由でひと騒動あるだろうし、彼女が騎士に向かって暴言を発すれば処分対象になることは間違いない、それをクープは恐れたのだ。
物語中でもナオに向かって相当なことを言っているが、あれはもちろん御法度でマスターの実力をけなすような言動はファティマとして許されないことである。
まあ、それも含めてバルンシェ・ファティマということなのだが、令令謝本人は「エストに認められなかったおかげでナオが自分のマスターになった」と喜んでいるのも本当である。

ベラの戦いでは自分達の存在をずっと記憶し続けてくれる「アークマスター」であるソープの存在にいち早く気づき、そのソープが敵であることにもかかわらず、マドリガルやバシテアを鼓舞し、戦い続けた。「自分達がソープ相手にたじろいで性能を発揮できずマスターを失うことになればソープが落胆する。それはつまり父であるバルンシェから仕事もできないファティマと見捨てられる」。自分の存在の否定、それが最も恐ろしいことだと令令謝はわかっていたのだ。本来こういった判断をバルンシェ・ファティマ達はするはずなのだが、京とアトロボスの戦いでは薬漬けであった京はそこまでメンタルが弱っていたのかもしれないし、何よりソープのGTMとのタイマン対決であったことも大きかったのだろう。

また、最後のアイシャ達の参戦に関しては、とっくに勝敗は決しており、これ以上の戦いは無駄であるというナオの判断に基づくもので、ナオも令令謝もハロ・ガロで出撃した時からフォクスライヒバイテと戦う気などなく、いかに部下達を無事に引き上げさせるかというきっかけを作りたかっただけなのだ。

凄いのはそれを察したアイシャもこの場をどうすれば良いか考えており、さらに凄いのはそれを察したファティマ・京がきっちり助け船を出したということである。
別にヒュートランに豆腐をぶつけたという過去で令令謝が「だめですにゃああ～」になるわけではなく、あれは令令謝と京の出来レースである。「ここで戦いはおしまい」ということだ。あの規模での戦いになれば一瞬の判断の遅れが大損害を出してしまう。戦況を見極めたナオならではの判断である。
もちろん令令謝はヒュートランのことなど屁とも思っておらず、豆腐の件がばれたらヒュートランを叩きのめしてやる気満々である。勝てるかどうかは別にして令令謝は気だけは強い。

ただ…彼女が「超弩級」と言われるのには別の理由があるようなのだが、それは現時点では誰も知らない。令令謝が本当の名前で戦う時、それはもう彼女ではないのかもしれないが。



令令謝 デカダン・スーツ

Lei Lei Sha Loythru Light Suits

レイスル騎士団のごく普通のスーツである。アシリアも取り立てて派手なわけではない。超弩級の筆頭ファティマとしては意外であるが、ごく普通な感じのスーツになったのはガマッシャーンの国民性を考えると「超弩級のバルンシェファティマ様なら星団一ド派手なファティマスーツに！」とかになるのは当然で、そのド派手なスーツが目も当てられないくらい悪趣味なものになりそうだったのは重々わかっていたので、ナオはこれだけは好きにさせてくれてと頼み込んだのが手に取るようになる。

レイスル3党首 レイスル騎士団長
ナオ・リンダー(シュバイサー・ドラクーン)
Noo Lingdo "Loythru" Schweitzer Dragoon

身長188cm 体重78kg

「ボオス星はミノグシアの民だけのものじゃないぜよ」
ナオがいつも言う言葉である。

同じボオスの民として植民星からの歴史を持つハツーダンのガマッシャーン共和国にとって、自分達はボオスの民ではないのか?という問いかけがここにある。

ミノグシアとは離れ、ラーンや詩女も身近ではないハツーダンの民にとってラーンや詩女は遠い存在である。だが、自分達も昔からのボオスの民であるという想い。強国となったハスハからは距離を置かれ、取り残された感をガマッシャーンの人々が持っているのは事実だ。それをナオは代弁しているのである。

びっくりされた方も多いと思うがナオのエピソードは非常に多く、シナリオも用意されていた。それは「ナオは主人公クラスとして作られた」という理由による。先のページのエピソードもそのひとつだが、ナオのエピソードを描くとさらに物語が伸びてしまうので、こういう形でナオの人物像を残しておきたかったのだ。

超帝國剣聖クルマルスの意志を持つ人物であることはおまけのようなもので、ナオが実際に強い騎士なのかどうかということはどうでもいいことである。ただ、その豊かな感性と器の大きさにより、彼が何者であろうとファティマの命令謝はナオを選んだだろうということである。
ああ見ても命令謝は全身全霊をかけてナオをサポートする。無駄な戦いをさせない、危険極まる戦いは避ける。戦う時はヒュートランもかなわないほどのフルサポートを行う。その命令謝の一途な想いにナオはしっかりと応える。そういう関係である。

ナオがはいているのはキルトでスカートではない。スコットランドの民族衣装だが、リンド一家の家紋色で織られたキルトである。で、気が付かれた方もきっと多いと思うが、この格好はアクセルのかつてのステージ衣装もある。アクセルの先祖がスコットランド出身なのかは知らないが、なぜはいていたのかは謎である。



ファティマ・レイニヤ

正体を隠し、モンスターのお披露目に出た時の格好である。

やり過ぎじゃ！ お前は！
つぎはぎの付いたエプロンはともかく、
つっかけ履いたままで、家事仕事置いた
まま来ました！的な格好では普通の騎士
は避ける。まあある意味「ほっといて型」
みたいなファティマなので仕方がない。



レイスル騎士団
女性騎士服 後ろ
Kampfritter Laythru GTM Female Battle Suits Back



レイスル騎士団 男性騎士服
Kampfritter Laythru GTM Male Battle Suits

レイスル騎士団の騎士服である。
基本的に国家紋章の色であるブラックブラウンとオレンジイエローの組み合わせのスーツにナポレオン時代のような帽子が特徴的である。

レイスル騎士団はガマッシャーン共和国の筆頭騎士団でそれなりにエリート騎士団である。ガマッシャーンの状況からあまりたいしたことのない騎士団かと思われるが、ナオの戦略家としての名声が高いためにいろいろな国家との共同演習が頻繁に行われている関係で、大国と遜色のない経験を積んだ騎士達で構成されている。もともとロードス・ドラクーンが剣の指南をしていたこともあり、彼らの強さは折り紙付きである。

ガマッシャーンはその国力から非常に多くのGTMを保有しており、バッハトマと同格の戦力を有していると思われる。その筆頭であるレイスル騎士団は3つの戦闘團に分かれ、GTM総数260騎以上という大騎士団である。ベラの戦いでナオが引き連れていたのは第1戦闘團で3つの大隊から成り、本来ならば総数90騎程度だが半数くらいであった。この数はウモスやロッゾと合わせたとみて良いだろう。新型のGTMエリベラッハは24騎、スイセンは36騎だったので、1大隊にエリベラッハ8騎、スイセン12騎という振り分けだったのだろう。もっとも新鋭騎のエクベラハが24騎しか間に合わなかったという事情があったのかもしれない。

レイスル騎士団 女性騎士服
Kampfritter Laythru GTM Female Battle Suits

レイスル騎士団の女性騎士服である。
男性よりも細めに作られ、肩のショートマントは形そのものが異なる。配色は同じで、コートは前がはだけているが、男性と同じズボンタイプもあり、この辺は騎士服を発注する時にオーダーする。このあたりはどこの騎士団も同じである。

レイスルの持つガット・プロウにもオレンジイエローがあしらわれている。

レイスル騎士団
ファティマ アシリア・スーツ山吹色
Kompritter Laythru
Fatima Suits Assilia Orange



レイスル騎士団
ファティマ デカダン・スーツ
Kompritter Laythru Fatima Light Suits

レイスル騎士団のファティマ達の
デカダン・スーツ(ライトスーツ)。
令令謝が着ているものとほとんど
同じで、イエロー主体のかわいい
スーツである。

レイスル騎士団
ファティマ アシリア・スーツ黒
Kompritter Laythru Fatima Suits Assilia Ebony

筆頭騎士団レイスルのアシリア・ス
ーツはなんと2色ある。
ガマッシャーンの国旗を司る黒と黄色。
このどちらかをファティマ・スーツの
色にすることは決定していたが、黒に
するのか黄色にするのか意見がまとま
らないまま2色のアシリア・スーツが
採用された。騎士団のイメージとして
もスーツにかかるコストを考えてもど
ちらかの色に統一した方が良いに決ま
っているのだが、物事をなかなか決め
られない自信のなさが表面化したガマ
ッシャーンの国民性である。

端から見る分には2色あって華やかで
楽しい。まあ、結局これがいまだに2
色に分かれたままの理由である。

オートマチック・フラワーズ

=零零=

Automatic Flowers ZERO ZERO

身長160cm 体重40kg

Power Gauge:

BF18-Smk

Type: TY-PHON Dreadnought super Class

OUT of Clearance 3A-3A-2A-2A-2A

バランシェ・ファティマNo.18「ゼロ・ゼロ」

「タイ・フォン」型ファティマでもうひとりいる「先先(マーター・マーター)」

“Mater Mater..と共にいざこかへと消え去った。



超帝國劍聖 剣聖騎士団

セブンソード3

ナオ

Nao Dio Crumars

身長238cm 体重123kg



Characters

キャラクターズ



セントリー “ブリッツ”
Centry "Briz" of The Plasma Supreme ruler

全長：無、質量：存在しない

セントリー・ブリッツ。
ボオス星カステボーーとその周辺大陸において最強を誇る「なにか」。生命どころか物質でも幽体でもない「なにか」である。
物質でないこの「セントリー」達に物質世界の我々はいかなる影響も与えることはできない。エネルギーというものを使用する我々のあらゆる兵器は通用しないというか、「そこないもの」に対していくら攻撃しても無意味ということである。
だが、セントリー側からはその「無のなにか」の周囲から反応する物質によってブリッツは強烈なプラズマを発生させる（炎はプラズマの一種。エネルギーの形態の一種で気体でも液体でも固体でもない）。

このセントリー・ブリッツは雷雲や雷を周囲に生みだす。
セントリー・マグマは熱エネルギー反応を起こすために、マグマなら水蒸気や熱風を周囲に反応させ、竜巻や津波、地震といった天変地異を巻き起こす。

セントリー・バルサーは周囲に強烈な重力波を発生させ、重力（グラビトン）をコントロールし、電磁波に影響を与える。セントリー・バルサーは星同士を引き寄せて破壊することも可能だ。
セントリー・カラットは素粒子のひとつであるフォトン（光子）に影響を与え、光エネルギーを自在に操る。光は時間の単位でもあるので、つまり時間、時空にも影響を与え、カラットの居る場所は時間が通常の進み方と異なると言われる。

セントリー・ライブに至ってはあらゆるこの世の物質を自在に変化させることができる力を持っている。反物質や我々の知らない素粒子、空間物質なども含めてだ。つまり星や宇宙ですらである。
ライブは太陽系一つをこの世から消失させることすらできる。これは全てのセントリーの持つ特性を持っているということだ。
デルタ・ペルン星がライブによって破壊されたのはこの力のごくわずか一部である。

ジョーカー世界にある光には全てセントリー・カラットが存在しているし、同じく炎を含むプラズマにはブリッツが、重力や電波にはバルサーが、熱、温度にはマグマが、そして物質全ての中にライブが存在しているのである。こんなものに人間がどうこうしようということ自体が、いかに無駄で愚かなことかということである。

セントリーは歴史の中で数々の事象を引き起こし、人間に直接影響を与える時もある。それは最近だと枢軸軍のハスハ侵攻時、ウモス連合4ヶ国がイースト・ハスハを横断する時に雷によって壊滅した。

理由は我々にはわからない。セントリーに聞いても無駄である。繩張りを犯したとか、セントリーにはルールがあり、何か理由があるはずだといった人間の理屈などまったく通用しない。

セントリーに聞けばいい。「なぜあの時は手を下し、この時は無視したのか？ なぜ？」と。
きっとアマテラスと同じ返事が返ってくる。
「理由などない」である。
だがそういう行為に人間はいつも自分達の多くが納得できる理由を探し求める。その結果「全て間違った」推論や議論を繰り返すのである。責めてはいけない。「その事象に理由などなくとも自分が納得できる理由を探す」それが人間の思考の本質だからだ。

何もないのに何かがいる。こちら側から何の影響も与えられないのに向こうからは我々世界の物質に影響を与えることができる。
つまり平たく言えば「高次元」の存在であるのかもしれない。
ただ、本来人間には見えないセントリーがまれに見える時がある。
このブリッツはその中でも最も目撃されているセントリーである。



ラキシス GTMスーツ

Lachesis Kampfsuits

身長162cm 体重37kg

相変わらずのラキシスである。
身長、体重は変わっていないが、ツラック隊のおやつも支給されなくなるひもじい状態を耐え抜き、連日の激務にずっと付き合ってかなりがんばった。えらいえらい。
ツバントビの差し入れのタビオカミルクティーもおやつがなくなった時期なので一発でなびいてしまったのはかなり情けない。

このスーツはシアン夫人が作ったもので戦闘をメインに可能なデカダン・スーツということで、GTM制御専門と言うべきアシリア・スーツよりも軽快である。
同じ時期に作られたパルスエットのスーツも同様で、どちらもそれれ1着のみのカスタムスーツで同じものはない。
ラキシスのものはより戦闘的に作られ、あらゆる攻撃をバリアで弾くようになっている。
ミラージュ・マークもサイドの黒いカウンターパネルも全て戦闘用のデバイスである。
ヘッド・アシリアは髪飾りにも見えるように作られ、アンテナには見えない。ツラック隊で普段付けていたものはデザインは同じだがもっと小型である。

靴だけはシャーロット・オリンピアのふざけた3色アイスのプラットホームヒールだが、外国にも3色アイスがあるのかとちょっとびっくり。

この靴のプラットフォームはつま先は2センチほどだが土踏まずあたりで5センチほどになりその後どっかーんの12センチ以上のヒールが付いていて、履き心地は良いらしいのだが、プラットフォームの形状から歩くと滑りやすいということである。
まあステージ用の靴である。
銀座の松屋でたまたま見かけてすぐに購入したのだが、このブランドの靴を当時発見するのは至難の業であった。
昨今のアパレルが厳しい状況でイギリスのこういったファニー、ポップ、ガーリーブランドはがんばってくれているのでうれしいし、何よりその作りが安くならず、製造はイタリア製でイタリア高級ブランドに負けない手作り感満載の作りである。
ヒールのアイスコーンなど手巻きに近い造形でびっくりする。
これでヒールの強度もきちんと確保しているのだから凄い。
まあ、値段もジミー・チューやマノロ・ブラニクのレベルで…ジミー・チューより高かったか…。

考えてみたら、作品に登場させるメインキャラクターの服はもちろん永野デザインだが、1シーンだけ登場するような女性キャラの普段着は既製品をそのまま使わせてもらったりしている。
多くはないが永野デザインではない既製服でもメイン級で登場するのはこのシャーロット・オリンピアの靴やフル・フォーザ・シティのラストでアラニアが着ていた「ボディマップ」の服とかで、イギリス製が多いことに気がつく。まあ、なんとなくわかる気もする。



バーナー・恋・ダウド(ミキータ・オージェ)

Burner Renn Doudo as Michietta AUGE

身長145cm

愛称は「恋(レン)」。

レンダウドと続けて呼ばれることがある。

ソラック隊最後の戦いでレイスルのナオ騎士団長と共にいた。

パートナーはバランシェ・ファティマの“バシテア”。

戦いに参加できることをぼやいていたが仕方がない。現在の彼女の力もまた「ちょっと強いのかもしれない騎士」程度でしかない。同じ境遇のマドラ・モイライにも及ばないだから。これはナオも同じである。

騎士としての力は比較にならないほど落ちているとはいえ、炎の女皇帝の子供としてスコーバー能力を持つ彼女はナオも気がつかない「ララファア」の行方を感じていた。

超帝國剣聖、7剣聖のひとり。

GTMシュツツイエンを現在も所有していることがわかっている。その名から気がついた方も多いと思うが、ミラージュ騎士団左翼No.21のレンその人である。

ところでミラージュ騎士のナンバーはかなり前後している。バインツェルやキュキィ、このオージェなどもなんだかそれ以後のナンバーよりも後から入っているのに若いナンバーである。ミラージュのナンバーは運転開始前からだいたい決めてはいたのだが、ふと思い直すと正規ナンバーですら最初からおかしい。アマテラスが産まれる頃より天照家にいるログナーがNo.4で、2900年代にミラージュとなったはずのアイシャが2である。アイシャのNo.2は天照家No.2の意味も含めているし、ログナーは最初から4番と決めていたというのもある。斑鳩などもそれに合わせてはあるが、基本的にミラージュのナンバーと入団時期はまったく一致していない。

3960年時点で32番目のカーレルというのは多いのか少ないのか?

実はこれも漠然と考えられていて、ミラージュのナンバーと団員が多い時期というのはエピソードにミラージュが関わる事例が多い。アマテラスの活動が物語の2988年から3159年、そして3960年あたりから4100年までと決めてあるからである。つまり、3000年代中盤はほとんど出番はないということだ。とはいえ、ログナー、プロミネンス、オージェ、ツバニツヒ、マウザーは延々出てくるだろうし、現在ミラージュ騎士に学生が多いので3200年代くらいまではミラージュで登場するだろう。

物語では内宮高等学校小学部の小学生だが、ちびっ子ログナーと対等にケンカをしているところをよく見られているので、「あの方は凄く偉い人」という認識を誰もが持たざるを得ない。

ただ、偉そうな口調はログナーに対してだけで、ミラージュ内では新人の立場をわきまえ、誰に対しても丁重な言葉使いだし、その口調はとても優しい。元々の本人の性格がよく出ている。



超帝國劍聖 ミキータ・オージェ

Michietta AUGE "the Seven sword"

身長220cm





ファティマ・パシテア

Fatima Posithea The Charites

身長168cm 体重43kg

オージェのパートナー。

バランシェ・ファティマNo.35。

前のマスターを失ってからコーカス博士のところにいたが、ナオの連れてきたオージェに反応してオージェをパートナーとした。

とはいっても、その後オージェはすぐにミラージュ入りするので「出戻りファティマ」である。

パシテアは美と優雅を表す「カリテス」のシリーズの一人として生まれた。

カレ、アグライア、エフロシューネ、タレイアなどと同じ時期に作られ、この5人はタイプ以外は非常に似ている。この時作られた5人はアグライア、エフロシューネ、パシテアの3人がL型で、L型ファティマを3人というのは他のガーランドでは見られない。

スーツはL型なのだがなぜかソックスを履いて識別が非常に怪しくなり、何が何だかわからないが、アシリア・セバレーはそういうものなので気にしないでいただきたい。これはアシリアのL型スーツだと非常に重苦しくなるのを避けるため、ディスホーンもほわほわブーツを履いて柔らかく見せる工夫がされている。L型スーツをデザインする時にいろいろと試しているのだが、ものすごい重装甲スーツに見えてしまい、軽く見せるためにさまざまな工夫をしている。

アンドロメーダなどはスタイリッシュなアシリアでショートブーツがきっちり合うのだが、パシテアはこのボリュームのあるフリルがんがんの衣装で、これを着てわざわざ歩くところを想像すると、足は肌色で足もとは軽やかな方が良いと判断したからだ。

金髪に黒という元のデカダン・スーツやミラージュ・アシリアに合わせて作ってあったのか、このアシリアとデカダン・スーツはミラージュに戻ってそのまま使用している。たぶんもともと漆黒の黒十字を外したままでも使えるようにしてあるのだろう。



ファティマ・アグライア

Fatima Aglolia The Charites

身長165cm 体重41kg

バルンシェ・ファティマNo.36。

4話での回想シーン以来、ようやく本編登場のアグライアである。キュキイがアイシャラと共に行動しているので彼女の出番も今後普通にあるだろう。

ロングタイト型の下衣だが、アシリアは重いので上衣だけがヘリオス繊維装甲でスカート部は同様の光沢処理がしてある軽い素材である。

しかしミラージュ・ファティマ達のアシリアは全員別デザインでクローム光沢という派手さ。アシリア・ヘッドバーツはほとんどが透明かこのアグライアのような内側にハードクロームバーツを蒸着しているかのどちらかで、恐ろしいほどコストがかかっている。

で、アグライアさん。初めて「ストライバー」システムを使ったファティマである。あの時はもうページがなくてストライバーを使われたミラージュGTM各騎がどういう動きになるのかとかも見せたかった……わけはなく、ストライバーの本格始動は3159年なので、まあ本当に顔見せということである。

アレクトーが気絶していてもアグライアやカレや京がフォクスライヒバイテを自分のGTMのように動かしていたのだということである。

まあ、アレクトーが気を取り直してやる気になったので、ストライバーはエンジン制御のみ行っていたようだが、お姉様方に自駆のフォクスを制御させるアレクトーの太っ腹というか、なんというか、まあソープも怒ってはいない。極秘のミラージュGTMを実戦で出撃させた以上、やれることはやっておくのがセオリーである。

ファティマ・アレクター

Fatima Alekta

身長163cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.39。
ミラージュ騎士団のアシリア・セバレーントとしてはたぶんこの
アレクターのものが初公開だったはずだ。
実は本編中ではすでにアレンジがなされ、肩幅が非常に大きく
カッティングされている。80年代の肩張りファッションを彷彿
とさせるシルエットに切り替わっているのだが、気がつかれた
方はいるだろうか？
またアシリア・ヘッドパーツがヘアバンド風になっているが、
アレクターの髪型だと幅の広いヘアバンドがとても似合うはず
なので一回やってみたかっただけである。
画像が2点掲載されているのはアシリア・セバレーントのアンテ
ナの表示ありと表示なしのパターンである。なんで2点掲載か
といえばアンテナまで表示させるとキャラクターがちっこくな
るからである。

さて、ミラージュ・ファティマ達だが、デカダン・スーツバー
ジョンが連載開始すぐに何点も公開され、カラフルでスタイリ
ッシュなミラージュ・ファティマ達の人気は今でもトップラン
クである。しかし、ミラージュ・ファティマ達は意外とそんな
に派手なスーツデザインではない。フィルモアやハスハ、今回
のウモスのファティマに比べるとデザインそのものはとてもシ
ンプルである。
他国のファティマ達は大時代的なデザインだが、ミラージュ・
ファティマ達はどれもシンプルでスタイリッシュなデザインが
イメージとしてあるために、L型はともかくS型やM型はとても
軽快である。



ファティマ・京

Fatima Kyo

身長162cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.17。

ナンバリングを見てわかるとおり、令令謝のすぐ上の姉となる。ヒュートランが生まれた時期に京と令令謝がいたのはまだ2人共にお披露目には出ていなかったのかもしれない。バランシェ邸で一緒に過ごしている時間も長かったのか京は令令謝を「レレイス」と呼んでいた。妹とはいえ愛称で呼ぶことは珍しい。アシリアは一応以前の和風なイメージに合わせて作ってあるようだ、ヘッドパーツはこの通りかんざし型である。

ベラ戦で次々と登場してくるミラージュ・ファティマの中で、なぜかこの京だけ登場せず、「おかしい…」と思っていた方がいたかもしれないが、京は最後のあの時のために取っておいたのだ。あの場面、バランシェ・ファティマ対バランシェ・ファティマという、壮絶さを最高の状態で演出するためだったのだが、想像以上の戦いに皆様声も出なかつたかと思う。片方のファティマとGTMが精神ぼろぼろになるというまさに壮絶な戦いだったのだ。

……いやほら、ファイブスターは強すぎる奴ら同士の戦いはもう一週回ってあんなことになるのはご存じかと思う。



ファティマ・カレ

Fatima Kake The Charites

身長160cm 体重38kg

パランシェ・ファティマNo.34。

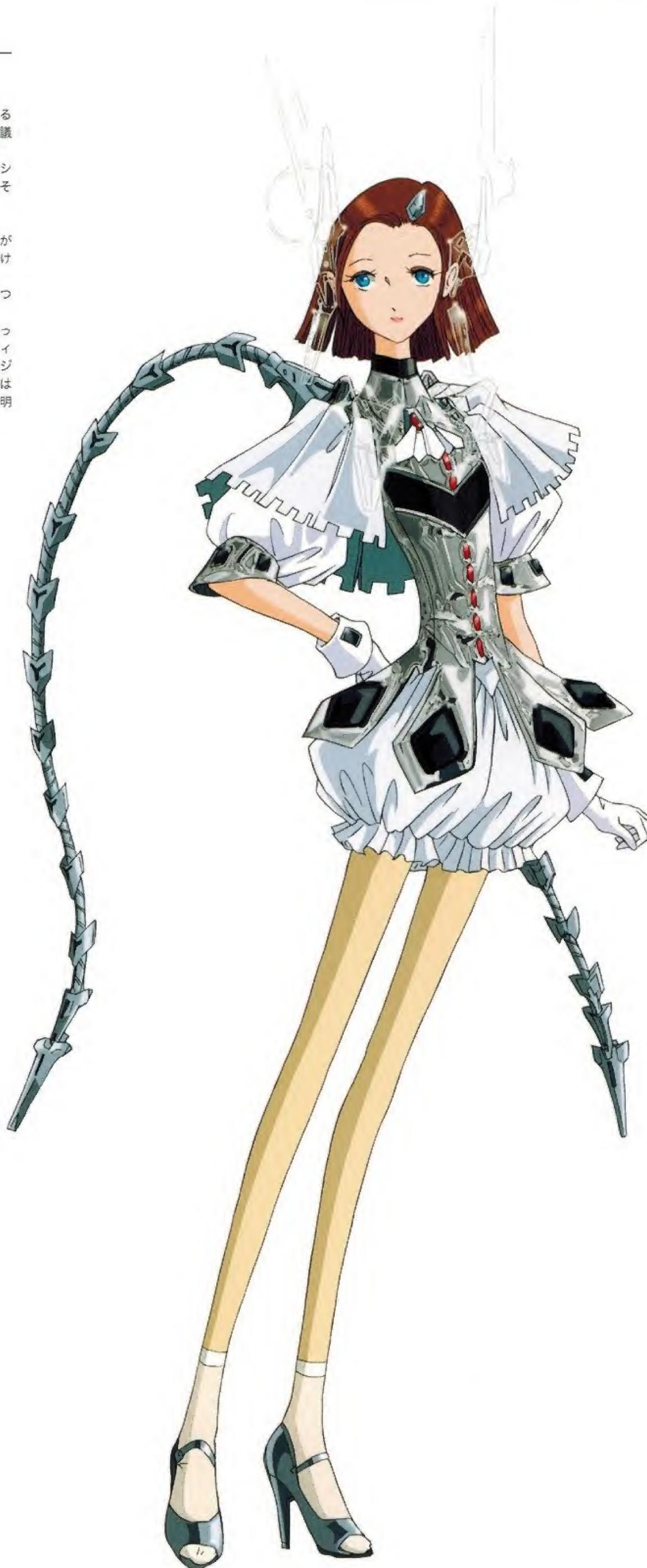
S型なので先のカリテス・ファティマの中では一番若く見えるが、実はアグライアやバシテアよりお姉さんというこの不思議さが、ファティマである。

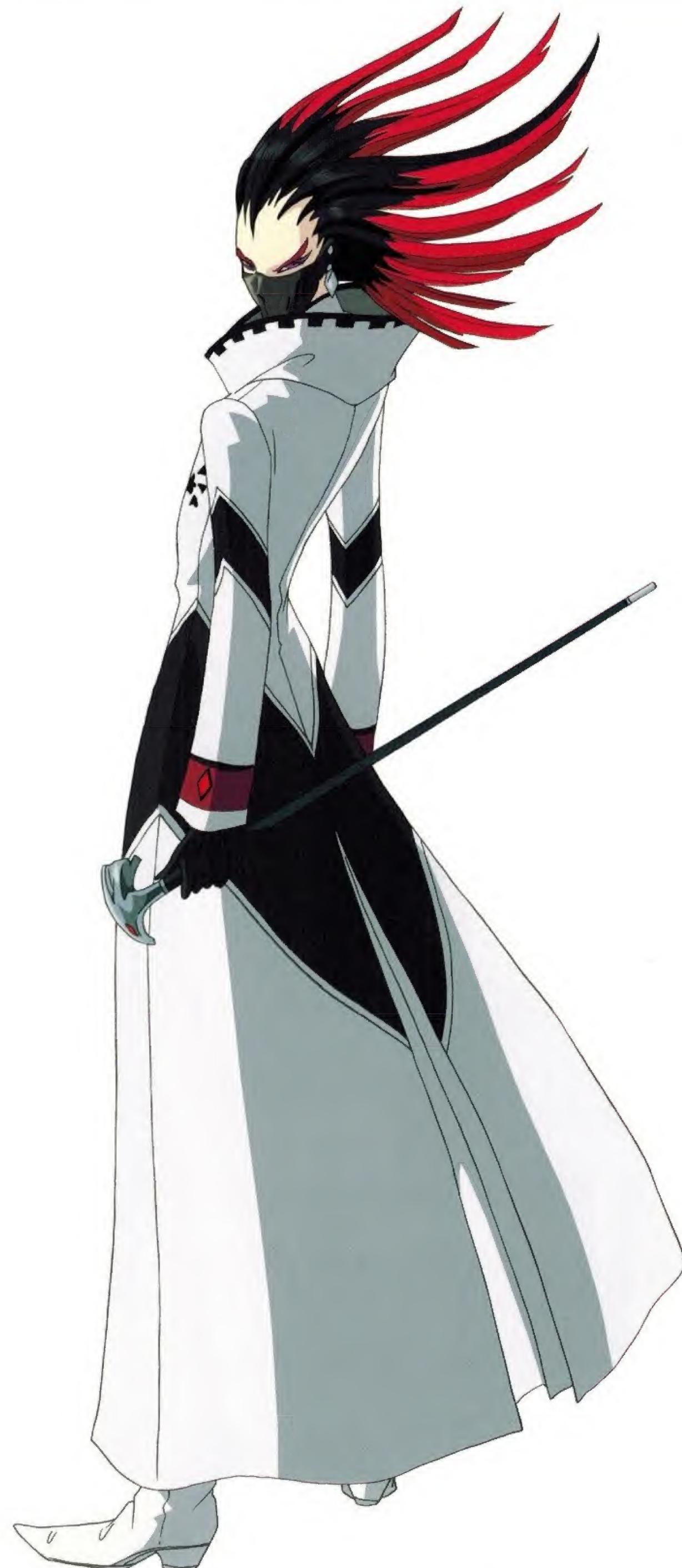
カレのスタイルはもともとお気に入りで、地味目のグレーのシンプルなワンピースに肌色の足に白い靴下というイメージはそのままアシリアにも受け継がれた。

襟無しのすっぽーんと思いっきりカッティングされたマントがあまりにもエッジが効いていて、実際このような戦闘服でなければとても間が持たないであろう。

アシリアは超ショートタイプでバルーンパンツが大きく目立つデザインとなっている。

後ろの垂れ下がるインジェクターは有線で、テスト状態であったミラージュGTMの制御状況をリアルタイムに他のファティマに打ち出していたのだろう。通常はこの尻尾みたいなインジェクターは使われず、光アンテナである。ヘッド・アシリアは完全に透明で制御のメカバーツなどどこにも見えないが、透明な制御システムがちゃんと内蔵されている。





ワスペン・ナンダ・クラック ユゴー・マウザー教授

Waspene Nanda Crack
as Professor Yugo Mouser

身長205~??cm 体重95~??kg

ミラージュ騎士。パートナーはラ・ベルダ。
ようやく登場と言いたいところだが、クラック以外の名前でと
くに登場されていた方である。設定自体は古く、シャフトや
パイソン、スパークなどと同時期に作られていた。作品集「デザ
インズ1」の中に成長したタイトネイブと一緒にいるイラスト
も公開されている。

ツバニツヒと同じく、「スペック～ストーイ・ワーナー・エルテ
ィアイ・ツバニツヒ」に対して「クラック～ワスペン・ナンダ・
クラック～ユゴー・マウザー」というコードネームである。

ツバニツヒはカリギュラの認識番号がそのままツバニツヒで通
ってしまっているので、ややこしいが。基本この2人に関して
はツバニツヒとマウザーである。

「花の詩女」でツバニツヒと共に登場した。
彼がクラックだとずっと黙っていたのは、ツバニツヒは「花の詩
女」公開後の連載再開と共にすぐに再登場することが決まって
いたが、クラックはツラック隊エピソードの後で、彼が再登場
する時までのお楽しみにしておこうと思ったのだ。

「花の詩女」ではツバニツヒもクラックもその後の重要キャラ
クターとなることは決定していたため、まずツバニツヒのエビ
ソードを片付けてからこのクラックのエピソードに入るつもり
だった。強烈なこの2人を一つのエピソードで同時に出してし
まうと收拾が付かなくなるので、登場をずらしたのだ。
また、再登場にあたり、非常に美形キャラとなっているのはこ
れも予定通り。自在に身長や体の一部を変化させられるポリメ
リゼーションキャスターならではの反則技である。

ツバニツヒ同様、GTMガーランドでもありシステム・カリギュ
ラのメンバーだった人物だ。
物語中でも不可思議な行動が多く、バインツェルを見逃したり、
バルター博士に対して非常にきめ細かな対応をするなど、完全
にその時の気分で動いている。

彼がミラージュ騎士団に加わることになるエピソードはちょ
と先、スプラウト・ソングの終盤になるが、彼らしくとても変
わった入団エピソードとなる。
また、レフトミラージュらしくミラージュに所属しているのか
どうかすら怪しい場面がいくつも出てくる。実際本人はミラ
ージュ騎士団の一員であることをあまり意識していないようだ。
そういう意味で生粋のミラージュ・レフトナンバーである。

ファティマ・ラ・ベルダ・ピソンリ

Fatima La Beldi Pissenlit

身長158cm 体重40kg

パートナーはクラック。

フローレス・ファティマで「たんぽぽのベルダ」。

ラ・ベルダ・ピソンリと呼ぶ。

ロッソのネロスのところでも述べたが、エトラムルのガリュー
ー・エトラムル博士、つまり本名エーロッテン・ニトロゲン博
士による数少ない人型ファティマである。

エトラムル型ファティマを搭載するGTMデモールのモニター
と解析においてベルダほど適したファティマはいないのは確か
である。

性格は結構独特で、マウザー相手に情け容赦ない漫才は今まで
なかったパターンである。

は、おいといで、結構「フローレスの呼び方はどうやって決めて
いるのか？」と聞かれるので答えておくと、「風のファティマ」は
コーラスのイメージ通りで、「湖のオーハイネ」はその見事な金
髪が湖の光を乱反射するように光り輝くからである。

ベルダはそのふわふわのソバージュの髪がやはりタンポポの綿
毛のように風になびくからそう呼ばれている。



天照家中納言
メレトレ・清花(さやか)
Information Department Ten Sei Sya General
Meretore Sayaka

身長168cm

ぬ——、うまい英単語が見つからない。中納言で典星舎の指揮官となると情報部指揮官で、ブリッツエンフォースの戦闘員でもあり、天照王朝の大臣でもある。

まあ、メレトレさんはそういった立場である。マエッセンからは「メレトレちゃん」と呼ばれているが、まあ本名の「さやかちゃん」と呼ばれるよりはマシだろう。
ひでえ。

このまるで権威の塊のような出で立ちは天照家典星舎そのものと言ってもいいのかもしれない。今後はメレトレを中心に天照家典星舎の描写が増えしていくだろう。

ぬ？ 怪しげな奴がメレトレさんの執務室の外で靴脱いでなんかしてる？
ミラージュ相手に本当にご苦労様である。



ヨーン・バインツェル

John Weinzell

身長188cm 体重75kg

意外やヨーンの最近のデザイン画がなく、ここに来て登場である。なんだか彼はミラージュ入りしてからのイラストばかりで、何を今更という気がするが、キャラクター発表から30年経ってもまだミラージュ騎士ではないのもトホホである。

シアン夫人にもらったこの戦闘スーツ、ミノグシアに合流していくシアン夫人がAP騎士のために個人用戦闘スーツ、またはGTMスーツをいくつか試作していたのだろう。AP騎士団の制服に使用されている金具を始め、生地や防御システムなどがこのスーツにも流用されている。ヨーンとシアンが出会ったのはちょうどタイミングが良かったということだろう。

ヨーンは気にしていないが、このジャケットはGTMスーツである。またバーシャに作ってもらった装甲入りの手袋はパレスエットがいろいろと継ぎ足して現在の彼に合うように縫い直されている。拳の装甲部はバーシャのデカダン・スーツの装甲生地である。

物語中でもヨーンと関わる人物は皆ヨーンのことを知っている。シアン夫人、リリなど。これはヨーン・バインツェルという若い騎士が騎士の間では有名ということなのだ。

ちゃあですらわかっていたくらいだから。

ヨーンとエストの確執、黒騎士デコースへの復讐、これらは騎士の間でよくかわされる話題もある、彼が今後どう生きていくのかいろいろな方面から注目されている。

そしてそのことはもちろん、黒騎士デコースもわかっているはずである。

ヨーンとデコースの対決はどうなっていくのであろうか？

第6話の山場のひとつである。





クラーケンベール・メヨーヨ大帝

The Great Mejojo Krakenbele

身長196cm 体重78kg

メヨーヨ大帝。たぶん今はこの身長よりさらに伸びているはずである。大戦冒頭での髪のスタイルが付けひげだったとちゃあにばらされた。髪の付いた戦闘指揮服は宝塚系のイメージで結構好きだったが、物語の成り行きで取ってしまったのが、少し残念である。

さて、クラーケンベールだが、今後も重要なところで登場してくる。魔導大戦ラストではあっと驚くような行動を見せるが、それこそが帝王たる資質である。戦を否定することは正しい。だが、その戦の中で彼が見せる行動や言葉は戦人としてのまっとうな正義である。それは端から見ても気持ちのいいものだろう。

大戦序盤での登場はあの付けひげに合わせた大時代的なものであったが、次回はどんな格好で登場してくるのであろうか？ それも楽しみである。まあ、こいつの格好は永野の普段着をそのままというのもあるので、その時の気分だろうが。

ファティマ・アンドロメーダ

Fatima Andromedo

身長163cm 体重43kg

バルンシェ・ファティマNo.19。

令令謝の妹。というだけあって、バルンシェもちょっと反省したのか非常にまともで上品なファティマである。顔つきが他のバルンシェ・ファティマと異なるのは人種的なものでバルテノなどとはまたちょっと違うイメージである。

以前パワーゲージとその最後にアルファベットが表記されていた。BrとかFraとかである。これはISOの国際国家コードやIOCのオリンピック国家表記のような、地球の主な国家や都市の省略表記で、そのファティマの大雑把な人種のイメージである。このアンドロメーダなら「Mrc」で、モロッコである。

ラキシスはBelでベルギー、クローソーはEstでエストニア。最近だとカブリコーンがPolでポーランド、なのだが、エベレストはBrtで「ブリテン」。イングランドでも英国のGBRでもない。またイグリドのBrはなんとベルリン。

この辺はどうにでも取れるようにIOCなどの3文字コードではないのでご注意。小文字使うし。

だって、東洋人でUSAとか普通にあるわけなので、なるべくイメージしやすい国家や都市を使用している。本当は国家とかではなく人種、民族の表記が良いのだろうが、ノース・アーリアとかアングロラテンとかフランク族とかデーン人とかだが、地域が多岐に渡るのでこういう表記を使っている。

L型ファティマなのでロングコートである。各所に付いた白のリボンはメヨーヨ・ファティマのポイントもある。エストカレンダーをお持ちの方はエストがメヨーヨのテカダン・スーツを着ているので参照されたい。

アシリア・スーツのヘリオス装甲繊維は胴体部の重要なところだけを覆っているので腰から下、肩より先の腕部などは通常のテカダン・スーツと同じで軽く作られている。

彼女とGTMアグニムが登場するのはちょっと先になる。





**剣聖ピアノ・メロディ3
剣聖ハリコン・ネーテルノイド**
Co-Lus Melody3
The Top of Chivalries Harricon Nedelnoid

身長203cm 体重88kg

アルルの父、桜子の父。
コーラス王朝メロディ家3代目当主。
剣聖。

フンフトとの会話の後、彼が最後に向かった場所は詩女マグダル・アトールと剣聖デブレ・カイエン、剣聖マキシ・カイエン・シルバーが向かう第6話の最後の戦い、エンディングの場所でもある。

詩女フンフトとハリコンは同じジュノー星の人間なのだということもあるのかもしれないが、フンフトが詩女になる以前からこのピアノ・メロディとは面識があった可能性も高く、当時のフンフトの持つ千里眼、スコーバー能力でピアノの正体がわかつていたのかもしれない。
なによりも歴代詩女の記憶を引き継いだ時点でフンフトはハリコンのこともほぼわかっているだろう。
ハリコンの登場シーンは以前にも何度かあったのだが、いろいろな都合で割愛されてしまい、コーラス4との出会いもカットされたまま過去回想の詩女のシーンで登場と相成った。

物語にはあまり関係がないが、ここで彼らの子供達、アルルと桜子の認識を言っておくと、アルルは父を知っていてそれがハリコンだとわかっている。しかし母は誰なのかを知らない。
桜子は逆で、母が詩女フンフトであることを知っており、それを自分の呪われた境遇だと思っている。だが、桜子は父親が誰なのかは知らない。
つまり、ややこしくなるが、フンフトのセリフから、別々にこの2人を産んではいるが、子供達はどちらかの親を知らないのである。
まあ別に今後この関係が物語に出てくるわけじゃないのできっぱり言ってしまえば、アルルの母親はバランカ家の王女シリセで、これがまたコーラスのメロディへのお家騒動に繋がっている。ハリコンの目とアルルの目は同じ色で血の繋がりを感じさせる。
桜子の父親は当然ハリコンである。
つかもう、コーラスの王子様達はやりたいほう…言わなくともわかってるか。いや、ホント。

ハリコンの名はハリケーンの別読みでパートナーのユリケンヌと同じ名前でもある。このあたりの組み合わせも因果関係があるが、一緒に出たユリケンヌがマンティックモードだったのがひじょ——に気になる…。
パルスエットがヨーンに「私達は騎士様達の生体予備パーツでもあるんです」と言っていたが、もうひとつは「騎士達の記憶の保存体でもある」とも言える。
さまざまなファティマ達が騎士達との経験をしっかり記憶に刻んでいるからだ。



超帝國剣聖 ララファ・ジュノーン

The Top of Chivalries
Ra Ra Fa Jünicorn

身長220cm

超帝國剣聖。
炎の女皇帝の娘。

セブンソード、超帝國剣聖騎士団の中ではもっとも優しい剣聖と言われる。

不思議な行動で、かなり前からジュノー星を中心にふらふらと姿を現しているようだ。非常に騎士の血の強いコーラス王家に興味を示し、コーラス周辺にはララファの影がいつもある。ほかの超帝國剣聖らと連絡を取っているわけでもなさそうで、彼女の行動は謎ばかりである。

彼女らの着ているスーツは我々の知る繊維ではないようで、縫い目らしきものなどがない。たぶん一番近いのはボスヤスフォートらが着ている流体素材なのだろう。ミラージュ・ファティマのアシリアの光沢はこの流体素材を塗布されているようだ。怖い顔つきから男性かと思われた方もいるかもしれないが、超帝國剣聖達は皆鋭い目つきをしているので、仕方がないかもしれない。鋼のような、いやまさしく鋼以上の筋肉が体を覆い、胸など進化の果てに何とか残っているという程度だからだ。これで残すところあとはフーマ・アトールのみとなる。

肩の防御装甲は可動し、全方位にバリアを張る。オージェのも似たような感じであるが、超帝國剣聖にバリアなど必要あるのか疑問である。が、これが必要な相手は…。



皇子ワイプ・ボルガ・レーダー

The Prince of Scholty
Wipe Volga Lader

身長185cm 体重68kg

フィルモア帝国皇太子。帝国でただひとりしかいない「皇太子」つまり「皇子」である。

英語ではエンペリアル・プリンスと呼ばれる。が、皇子はまったく異なり、「プリンス・オブ・ショルティ」という呼ばれ方をする。現在の英国と同じ呼ばれ方である。統合フィルモアの領土の呼び名であるショルティ王子、つまり皇太子となる。初代フィルモア帝国サイレン皇帝の時代よりずっと守られてきたしきたりである。そのしきたりはワイプ自ら連載で語っているので、ここでは省略する。

彼が正式な出で立ちで帝国政治に登場することはなかったが、フィルモア王家からの4人目の皇帝「フィルモア4」の後であった剣聖慧茄とバランシェ邸での会談では皇子の服をまとっていた。その衣装は皇帝と同様で、ボルガ王家の濃藍色とグレーのストライプのドレスコートにホワイトがあしらわれている。

皇子は帝国の政治にはまったく関わることはないが、帝国の緊急時に現在の経済主体、資本主義社会形態で合議制の帝政を一気に完全專制君主制度に戻す権限を持っており、その権力は絶大で、皇帝の言葉に全て従うシステムを有している。

その皇帝の言葉を支えるために「円卓の騎士」達が今も存在するのだ。全ての騎士団及び軍はこの直下に位置する。これはまさしく「力による強権」であり、緊急時に有無を言わせないという姿勢が形になったものだ。

政治に関与することもなく権力も持たないとされているが、ワイプは次期皇帝と子供達の保護を「詔」として残した。円卓の騎士会議では逆らう理由もなく、元老院にこの決議が「強制的に降ろされた」。

この経緯はバシル・バルバロッサと元老院にとっても誤算であったことだろう。余命わずかと言われていたワイプの寿命はバランシェの手によって引き延ばされ、ジークに加えて茄里が産まれ、その子らを密かにエラルドに移すことまで画策された。

この慧茄との会談の後、ジークと茄里はエラルド島に渡ったようだが、茄里がいつの間にかバルバロッサ家に預けられていた事実はジークを守るだけで精一杯だったのか、茄里が何らかの形で取引材料に使われたのか、今では不明である。

ラーンでは「ノルガン・ショーカム」と名乗っていたが、この名字は後にジークが引き継いでいる。

首元に付けているのはラーン教導学院で詩女よりもらった最優秀学生のメダルである。

ワイプにとってはフィルモア帝国皇帝の証やいかなる勲章よりも大切なものだったのだろう。

ファティマ・チャンダナ

Fatima Candona

身長162cm 体重40kg

2977年当時のチャンダナ。
慧茄のパートナーであった頃だ。そ
のあとダイ・グをパートナーとする
が、連載のとおり、このチャンダナ
が今後どう動いていくのかが非常
気になる。
(今回より身長体重を変更、調整)



リリ・ニーゼル ブラウ・フィルモア女王

Queen Brau Fillmore

Riri Neezel

身長180cm

ショーカム、つまり皇子ワイプの妻でフィルモア帝国ブラウ・フィルモア筆頭王家の女王。
皇子を出すのはボルガ王家系列ということが判明したが、ブラウ・フィルモア王家は双頭の竜の紋章とサイレンのガット・プロウを受け継いでいる。
また、皇帝の証である首飾りはレーダー王家に、統制を示す皇帝笏はバルバロッサ家が引き継ぎ、歴代の皇帝に渡されていく。この皇帝の証は歴代の皇帝が所持しているが、ガット・プロウだけは「不戦の証」としてブラウ王家が持ち、直系の皇子を守るために「サクリファイス」となる人物が引き継いでいる。ご存じのとおり今はリリが所有しているはずである。

このリリの姿は巨大なポンネットとマントに覆われて見えないブラウ王家女王のドレスで、オレンジと黒のストライプとなる。

リリが変わってしまったのはバルバロッサに茄子を奪われたからなのか、それとも自分の力が足りず、茄子をジークのどちらかを手放さざるを得なかつたのか。ブラウ王家の力の衰退と共にリリの顔は変わっていった。しかし成長したジークと会う頃からまた戻りつつあるようだ。

ワイプと知り合った頃にはすでに女王に即位していたが、学業中でもあったのでブラウ王家は彼女を表には出さず、リリがブラウ女王として登場したのはかなり後である。リリの立場、フィルモア王家にしてワイプや慧茄との繋がりはさまざまな確執を生んだらしく、慧茄は12巻でそういうことを言っている。



ダイ・グ・フィルモア王子

Prince Dai Gu Fillmore

身長120cm 体重22kg

幼いダイ・グである。パランシェ邸のオテットのシーンでパランシェが「ファティマは血の繋がった者を認めることが多い」との言葉通り、慧茄の血を引くダイ・グをパートナーとした。

慧茄と一緒にパランシェ邸に行くことに何か理由があると幼いダイ・グはすでに思っていたのかもしれない。次期皇帝にと皇子ワイプから言われた時の気持ちはいかばかりだったのだろう。その後、ジークと一緒に過ごすことになり、ダイ・グもジークもお互いの置かれている立場を子供なりに考えていたのだろう。

この2人の思いは同じで、どちらも命をかけて相手を守る。守らなければならない。と。



ファティマ・オデット/オディール

Fatima Odette / Odde

身長159cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.8。

一人ではなく「複数のマスターに使える」ファティマで、「オデット」と「オディール」という別の呼び方もされるファティマである。

オデット、オーロラ、ジゼルという舞踊3姉妹の姉。

連載ではオーロラが大活躍……中だが、このオデットは物語の中で出てきたのか出てきていないのかいちわからぬという謎なファティマで、それもそのはず、「オディール」という別人格を持つバランシェ・ファティマである。意図して作られたのは間違いないが、その後のハルベル(インタシティ)やアウクソーなど、このオデットがベースとなっているようなファティマが多い。

ということでオデットは今まで発表されていたバランシェ邸でのメイド服も午前服と午後服で登場し、キャラクターシートもデカダン・スーツはこれが正式版となる。今までのニュータイプカレンダーのイラストで描かれていたもので若干仕上げが気になっていたので今回描きなおした。しかし、オデットもオディールも複数のマスターに仕えるという状況で、リリに付いてナカカラの会議に出た数ヶ月後にはフィルモアのバルバロッサ別邸で茹里とカステボーに出陣とまあ、本当に忙しそうである。オデットがリリで、オディールが茹里ということではなく、単に2人がそういう呼び方をしているだけだろう。呼べば来るのだろうが、リリと茹里の関係はいったいどうなっているのやらである。たぶん誰かを仲介してその時のマスターのもとにいるのだろう。



…さん
ナカカラ=クルル国立高等学校制服

身長165cm

……。
ラストはこの方ですか…。

普段は帽子でいつも隠している髪型が判明。まあ、もうこの人はこんなもんいいかと。
両親はジュノー星、コーラス王朝のロンド大陸の東にあるカリーニン大陸のイエダーン連合共和国エレシス出身だが、彼女はボオス星で産まれているので詩女の資格はあるのだ。で、育ったナカカラ王国時代の制服である。

まあ、魔導大戦中は陰謀と謀略と策略とかけひきの中心、非常に出番が多く、全星団の国家を現在も絶賛振り回し中である。さすがである。

アマテラスはこういう人物を最も嫌うが、本人はピアノに会って、ほよよ～～ん、ダイ・グに会って、ほよよ～～ん。と、ガンガンにプレまくっているのでアマテラスはたぶん気に入る。

つか、アマテラスとこの人は魔導大戦のラストでついに会うことになりますが。

モラード博士との30年にわたる試行錯誤の末に制御不能で危険極まりないタワーをなんとかアマテラスに引き渡せたのはこの人のおかげです。

タワーは機嫌が悪いと星ひとつ消滅させちゃうので、本当にご苦労様である。命がけであったことだろう。

さすがアルルと桜子という子供を育てた方である。

野獣のような奴らの扱いは慣れているということなのか。それもひどい話だが。

話が進むとわかるが、この人そこら中で浮いた噂をまき散らす方なので、ハリコンと出会ったのもきっとこの当時。

ミノグシア中部、草原の国とはいえ、きっちりとしたトラディショナルな制服である。制服はツーピースのオーソドックスなものだが、付け襟がとても可愛らしい。

学生時代にこういう人いたわなー。という感じの人物である。

学校やクラスではたいてい明るくて性格が良くてかわいい子が「一番かわいい子、ミス～学園」とかになるのだが、よく後から考えると一番の美人は影に隠れて目立たないが、勉強もでき、頭の回転も速く、何をするにもそつがなく、行動力もあり、スペックが高すぎて同世代の異性は誰も寄せられないというか、まあそんな感じの人である。

とはいって、詩女がこういう完璧系の女性ばかりではなく、ナカカラのようなトホホタイプからムグミカのよう箱入り娘タイプまで様々なので、大動乱の魔導大戦時はこの人物のような詩女でなければ乗り越えられなかっただかも知れないし、それは事実であった。

たぶん最も登場機会の多い詩女。

好きな教科：国語、経済

好きな食べ物：メロンクリームのコッペパン。千葉県産のピーナッツ。

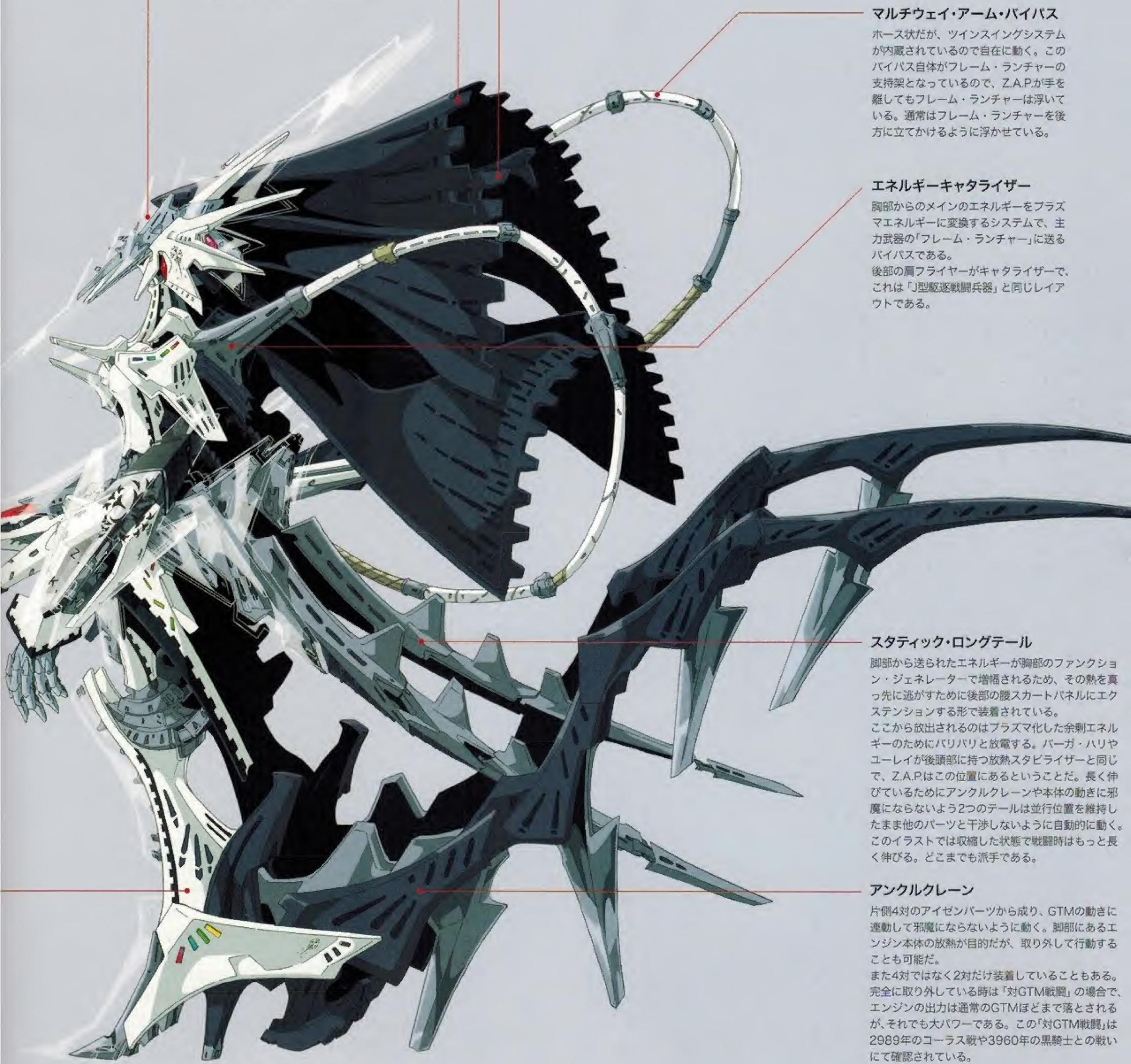




XROSS JAMMER

付録



**チューンホーン**

顔がうつむいているので俯角になっているが、これは最大俯角で、顔と水平状態である。通常は30度ほど上に跳ね上げている。Z.A.P.の特徴ともなる2本の角で、2本からなる背骨のその1本ずつからエネルギーを供給されている。供給されているということは……それは武器ということである。この2本のチューンホーンから発射される「サテライト・ポリフォニック・ビーム」は市街地一つを完全に灰にするくらいの威力を持っている。プラズマの渦が2本の角の間で巻き起こるので、発射時は後方にブローバックしてホーンが溶けるのを防ぐ。Z.A.P.の「殲滅用兵器」ということである。「攻撃用兵器」は「フレーム・ランチャー」である。チューンホーンという名前の由来は「音叉」のように見えるからである。

ヘッドバック・ハロ

頭頂部にセットされる放熱ペールである。中空のヘリオス装甲で作られ、そんなに重くはない。ペールとも呼ばれるのはそれくらい軽いからである。

ベンダー・wig

2段目と3段目はベンダー・wigと呼ばれ、ヘッドバック・ハロの補助デバイスとなる。2本の背骨から出る熱を振り分け放熱している。

マルチウェイ・アーム・バイパス

ホース状だが、ツインスイングシステムが内蔵されているので自在に動く。このバイパス自体がフレーム・ランチャーの支持架となっているので、Z.A.P.が手を離してもフレーム・ランチャーは浮いている。通常はフレーム・ランチャーを後方に立てかけるように浮かせている。

エネルギー・キャタライザ

胸部からのメインのエネルギーをプラズマエネルギーに変換するシステムで、主力武器の「フレーム・ランチャー」に送るバイパスである。後部の肩フライヤーがキャタライザで、これは「J型駆逐戦闘兵器」と同じレイアウトである。

スタティック・ロングテール

脚部から送られたエネルギーが胸部のファンクション・ジェネレーターで增幅されるため、その熱を真っ先に逃がすために後部の腰スカートパネルにエクステンションする形で装着されている。ここから放出されるのはプラズマ化した余剰エネルギーのためにバリバリと放電する。バーガ・ハリやユーレイが後頭部に持つ放熱スタビライザーと同じで、Z.A.P.はこの位置にあるということだ。長く伸びているためにアンクルクレーンや本体の動きに邪魔にならないよう2つのテールは並行位置を維持したまま他のパーツと干渉しないように自動的に動く。このイラストでは収縮した状態で戦闘時はもっと長く伸びる。どこまでも派手である。

アンクルクレーン

片側4対のアイゼンバーツから成り、GTMの動きに運動して邪魔にならないように動く。脚部にあるエンジン本体の放熱が目的だが、取り外して行動することも可能だ。また4対ではなく2対だけ装着していることもある。完全に取り外している時は「対GTM戦闘」の場合、エンジンの出力は通常のGTMほどまで落とされるが、それでも大パワーである。この「対GTM戦闘」は2989年のコーラス戦や3960年の黒騎士との戦いで確認されている。

スーパーロボット

ツアラトウストラ・アプターブリンガー

Super Robot

ZARATHUSTRA Apterbringer Panzer Kampf Roboter

略称は「Z.A.P.」。「ゼット・エー・ピー」と呼ばれる。ドイツ語での「ツア・アー・ペー」でもかまわないが、語呂の問題である。これは「ツアラトウストラ・アプターブリンガー・パンツァーカンプフ・ロボーター」の略で、ツアラとアプターとパンツァーの頭文字を取り出してある。作者は単純に「ツアラトラ」と表記しているが、物語のセリフではさらに省略した方が楽なので「Z.A.P.」と呼んでいる。

わずか15騎で星団全てを制圧した名実共に星団史上最強のロボットである。4100年までにその出撃回数はわずかに7回。そして敗北は一度もないという無敵のロボットでもある。このロボットだけはGTMと呼ばれず、なぜか皆「ロボット」または「スーパーロボット」と呼んでいる。

ファイブスター物語にGTMという新しいロボットを登場させに当たって、「カイゼリン」よりも先に完成させる必要があつたロボットで、その基本デザインは最も早く、全てのGTMの雛形となっている。

なのでカイゼリンの持つ特徴の全てをこのツアラトラが持っている。完全透明に黒のパーツ、後方に伸びた肩からのパーツ、クロームメッキの細い胴体なども同じである。かかとの「アンクルクレーン」以外はほぼカイゼリンも持っている。

単行本12巻の表紙ではクリスの持つ剣がガット・プロウの先行デザインで、同レイアウトで描かれたエストのセルイラストにはアシリア・セバレーの雛形とも言うべきかかとにアンテナ基部が付けられている。これらは全てこのツアラトラの先行的なイメージで、同時進行でこのロボットのデザインが進んでいた。つまりGTMとファティマのアシリア・セバレーは並行してデザインされていたのだ。

アシリア・セバレーはGTMのパーツと特徴を持ち、GTMはアシリア・セバレーの特徴を持っている。GTMを制御する人工生命体のファッショングが似ているのは当たり前ということだ。また、「デザインズ1」でお目見えした「ザ・プライド」もこのツアラトラのイメージをそのままウェディングドレスに置き換えたものだ。このあたりは先行デザインとシルエット、アイデアが交差しているいろいろなものに今も引き継がれている。

このロボットのデザインそのものに関しては何も書くことがない。ダッカスのように、細部に至るまで注意深くデザインされてはいない。

適当に、まあ、格好いいとか強そうってこんな感じだわな。と、自分の好きなようにちょいちょいと描いたからだが、それはあってもこのツアラトラの一番格好いいところは、

「フレーム・ランチャーの上部に走った赤色のライン」である。これが作者のデザイナーとしての格好いいポイントなのだ。

連載の時は炎の背景を入れざるを得ず、フレーム・ランチャーの赤いラインが目立たなくなってしまったのが一番悔やむところではあるが、まあ仕方ない。

フレーム・ランチャー

Z.A.P.の主力武器。このロボットはガット・プロウをほとんど使用しない。それは対GTM戦闘ではなく、殲滅と殺戮を目的に作られているからである。その本来の任務を敵GTMに邪魔されないようにGTMとしても星団最強の性能を持っているにすぎない。

フレーム・ランチャーは簡単に言えば「火炎放射器」である。

Z.A.P.の有り余るエネルギーがプラズマ化し、それを一気に放射されるのだから、目標にされた対象は灰になるしかないのだ。正確には灰すら残らないのだが、その威力のために放射口はスイングスライドして長く伸び、本体のZ.A.P.がそのプラズマと熱で溶けないようになっている。

しかし、なぜに天照はバスター砲やレーザー、ビームなどのエネルギー兵器ではなく火炎放射というものにこだわったのか？

「人類が最も恐るのは炎だから」

まさに人ではない「もの」の思考である。



各所の解説を見てのとおり、ツアラトウストラ・アプターブリンガーはエネルギーと熱と武器の塊が動いているようなものなので、行動時には全身が発光してしまう。「このロボットを見た時は死ぬ時である」と言われているのはその攻撃で殺されるのもあるが、「姿が確認できるほどの距離にいれば熱で灰にされる」というのもあるのだろう。

2989年のコーラス戦時、3008年の公開時にはフレーム・ランチャーシステムを始め、長いチューンホーン、ヘッドパック・ハロやスタティック・ロングテール、そしてアンクルクレーンは装備されておらず、素の状態での公開であった。一見普通のGTMに見え、各国はそれほど警戒はしていないかった。というよりも巨大なJ型駆逐戦闘兵器に目を奪われて、ごく一部の者だけがZ.A.P.の怪しさに気がついたにすぎない。コーラス戦では出力は半分以下に落とし、ヘッドパック・ハロはショートタイプを装着していたようだ。

ツインエンジン

ハーモイドエンジン「閃1014」はここにセットされている。エンジンそのものはとても小さいが、発熱が天文学的なので後部のかかとに装着されたアンクルクレーンで放熱している。

ツアラトウストラ・アプターブリンガー頭部

異様に複雑な形の頭部装甲

曲がりくねったわけのわからない形をしているが、これはひとえにヘッドバック・ハロとチューンホーンをねじ込ませるためにこういった形になったのだろう。後頭部の重さで頭が後方に傾いてしまいそうだが、ヘッドバック・ハロは重くはないので、チューンホーンとの重さがちょうど釣り合うようになっている。

レインボースリット / エアバリア発生器

アイシャのフォクスライヒバイテでこの長方形のパネルの役割がおわかりになったかと思うが、自分に向かってくるエネルギーを湾曲させてリフレクターに集めるフィールドを発生させる装置である。またこのフィールドは自ら発生する熱を遮断するエアバリアを張る。これはツバントヒのマーク2に搭載されていた大気圏突入時に空気摩擦熱を遮断するシステムと同じものが搭載された。凄い科学力だ。ホントに。

アクティブ・ウェポン・リアクター

首のレインボースリットが発生するエネルギー湾曲フィールドでねじ曲げられたビーム砲などはこのリフレクターに吸い込まれる。まるで磁石にくっつくように吸い込まれてしまう。連載開始当初どころかその前の「エルガイム」のC・テンブルあたりから作っていた装置なのだが、33年目にして初めてフォクスライヒバイテによって使われた。何とも氣の長い話というか、この設定が33ものあいだ風化しなかったのが凄いというか、今だに使おうというその根性を褒めるべきなのか、誰かなんか突っ込んで欲しいところだ。



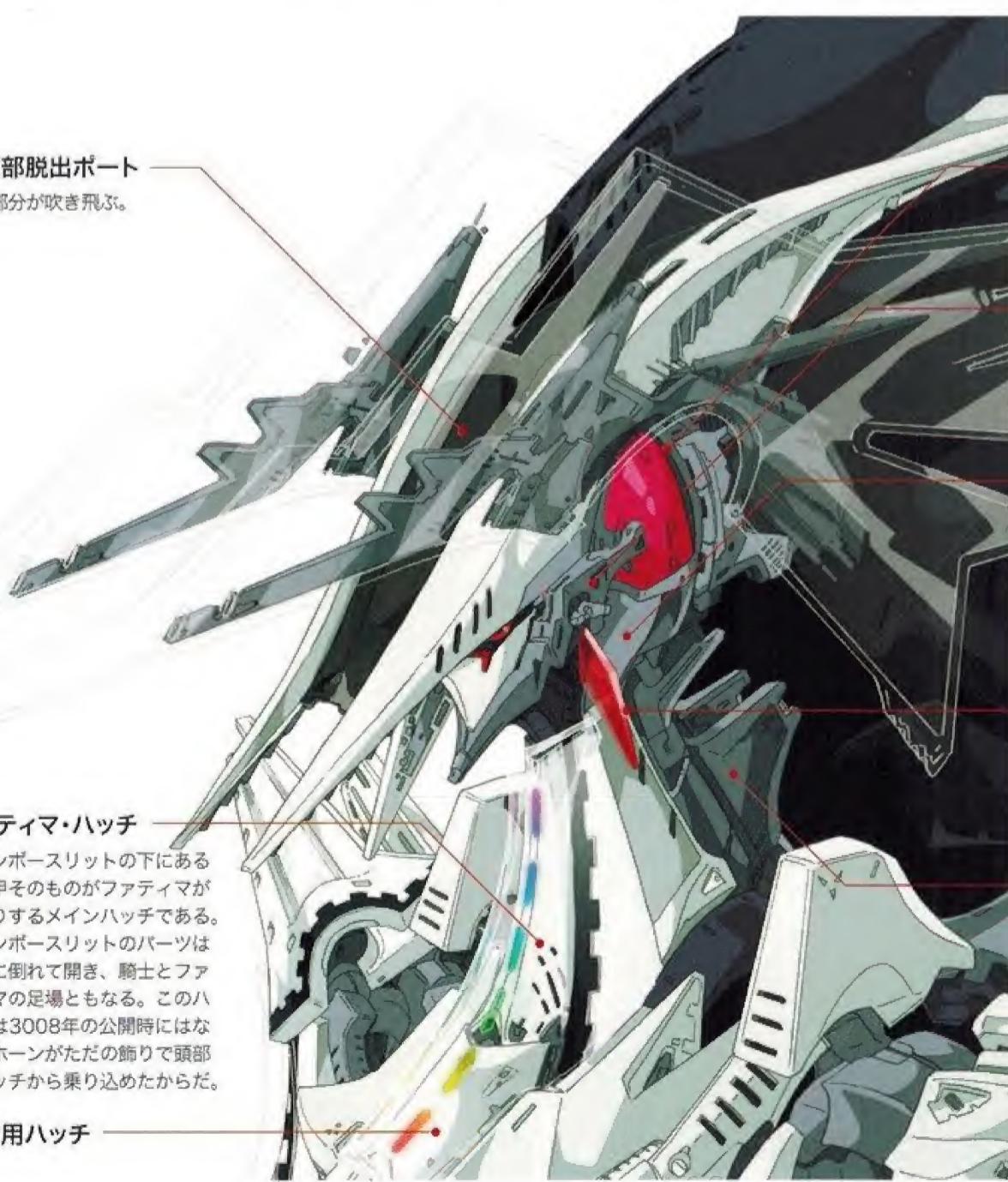
頭頂部脱出ポート

この部分が吹き飛びます。

ファティマ・ハッチ

レインボースリットの下にある首装甲そのものがファティマが出入りするメインハッチである。レインボースリットのパーツは前方に倒れて開き、騎士とファティマの足場ともなる。このハッチは3008年の公開時にはない。ホーンがただの飾りで頭部のハッチから乗り始めたからだ。

騎士用ハッチ



ファティマ・ハッチ

緊急時以外は使われない。理由は右の通りである。

サイドパネルの開閉スイング

ここを軸に上方に跳ね上げられる。

プロムナード

ファティマの移動トンネルがの中にある。全てのGTMが持っている。ファティマコクピット前方底部と騎士コクピットの天井部が繋がっている。

イヤリング

これは各種センサーが入っている。聴覚や振動の状況をモニタ一している。

ツインスイングの頸椎部

GTMのフレームそのもので、発生する熱を各装甲に逃がす役目を持つ。ツインスイングフレームの名の通り、1本ではなく2本から成る。

バーガ・ハリなどGTMの頭部が2つに割れた頭部装甲を持つのはこのため。

Z.A.P.もご覧のとおり頭部装甲は2つに分かれている。

頭部のサイドパネルが外された状態

通常はサイドパネルに隠されているファティマ・コクピットのハッチが見えている。サイドパネル(耳部装甲板)は上方に持ち上がるるので、取り外さなくても見えるのだが、かなり窮屈である。

ショッキングピンクで成形されたハッチは2本の「チューンホーン」のおかげで出入りすることはできない。一応ハッチの形にえぐられているが、チューンホーンは30度ほど跳ね上げたこの位置がデフォルトで、この角度以外だとハッチが塞がってしまう。普通だとファティマ・ハッチを中心軸にホーンが回転すれば大丈夫のはずなのだが、GTMは「ツインスイング」で全てのパーツは可動する。軸を中心とした可動はないのだ。ホーンは軸がオフセットされたような動きでレールに沿って可動し、ホーンを上に上げるとホーン自体は後方にスライドしながら上方に上がるのだ。これはホーン自体がプローバックスライドするため構造に近い稼動なのである。

ファティマは首のレインボースリットの奥にあるパーツがハッチとなっており、そこから首を通してコクピットに入る。緊急脱出時はサイドパネルとチューンホーンが吹き飛び、サイドハッチから脱出するか、それも危険な場合は何と頭部パネルが吹き飛んで、ファティマ・コクピット(ファティマ・シェル)ごと射出される。これはすべてのGTMに装備されている機能で、ほとんどのGTMは頭部カバーが吹き飛んで内部のファティマ・コクピットを射出するように設計されている。恐ろしい話だが、騎士よりも優先的な脱出システムを持っているのだ。これはファティマさえ生き残っていれば何とかなるということである。

騎士のコクピットも射出されるが、ファティマ・シェルに覆われていないので、脱出時はむき出しどとなる。

とはいって、組み上がったらファティマがハッチから入れないとか、天照は何を考えて作っているのだろうか。そんなことあるわけがないとかお思いの方も多いだろうが、現実の兵器は往々にしてそういうことがある。というか、その方が多いらしいだ。兵器は乗用車ではない。人間が兵器に合わせるのが普通なのだ。ツアラトラではツバントヒが首のハッチを追加してこの問題は何とかなった。

ツアラトウストラ・アプターブリンガー 全ミラージュ騎士のコードレター

Z.A.P.ことツアラトウストラ・アプターブリンガーにはその騎体ごとにナンバーが付けられているが、そのナンバーは搭乗するミラージュ騎士のナンバーやGTMのシリアルナンバーとはまったく無関係に付けられている。配備数の隠蔽目的ともされるが、Z.A.P.は「自分の意志を持って稼動するGTM」であるということ、つまりファティマ同様ヘッドライナーを「選ぶ」GTMである。そのため固有のナンバーがバラバラになっているのだ。

以下、その全てのナンバーを示す。

A=斑鳩王子騎/天照家騎・ワスチャ・コーダンテ騎
I=レオパルト・クリサリス騎/タワー騎(元バーグル・テ・ライツァー騎)
II=クローケル・ハーマン騎/剣聖ヘルベット騎(元ペスター・オービット騎)
III=従帝アイシャ・“コーダンテ”騎/ルート・コーダンテ騎
III-j=Z.A.P. AAR(ディッパ・ドロップス担当騎・R指揮騎)
V=スペクター騎(出撃前に転んで大破。壊したのはポーター。のち修復済み)
VI=ステートバルロ・カイダ騎/サトバイ・シュレスコルハール騎
VII-j=Z.A.P. AAR(ヒューズ・カリー担当騎・L指揮騎)
VIII=隊長騎・雷丸その四(黒の部分がダークブルー仕様/斑鳩王子も乗る)
VIII=スペクター予備騎だったがじゃーじゃーに奪われた(元スパーク騎)
X=ウラツエン・ジイ騎/ヨッヘンマ・ピストーチ騎(元エイドリアン・ターク騎)
XI=バナール・エックス騎/アラート・エックス騎(リィより引き継ぎ)
XII=エイブ・ロウ騎(元ボエシェ・ノーミン騎)
XIII=シトロン・メナー騎(元シャーリー・ランダース騎)
XIV=イマラ・ロウト・ジャジャス騎
XV=バイズビズ騎(元・ビヨトン・コーララ騎)AFが同じため
XVI=ミシャル・ハ・ルン騎/ヘルトバード・ゴドラ騎
XVII=ヨーン・バインツェル騎/バゴナ・ヘルバード騎
XVIII=ワスペン・クラック騎(元ティン・バイア騎)AFが同じため
XVIIIIB4=剣聖マキシ騎(特別騎テストニアス)
XX=バーナー・恋・ダウド騎(元ヌーソード・グラファイト騎)AFが同じため
XXI=アーレン・ブラフォード騎
XXII=ミューリー・キンキー騎
XXIII=エルディアイ・ツパンツヒ騎(ランドアンド・スバコーン騎共用)
XXIV=メイザー・ローズ騎/ターストワイト・フォレット騎
XXV=マドラ・モライ騎(ピッキング・ハリス予備騎)
XXVI=キュキイ・ザンダ・理津子騎
XXVII=ウーラ・ソニック=エルディアイ・ツパンツヒ騎
XXVIII=キッド・オーシャン騎
XXIX=メロウ・クリサリス騎
XXX=ウビソナ・バーテンバーグ騎
XXXI=ゼノア・アプターブリンガーナ・タワー騎
XXXII=カーレル・クリサリス騎
XXXIII=スカイア・ギフト=アラート・エックス騎
XXXIV=破裂の人形=隊長騎・雷丸その六(ゲート・シオン・マーク3)
XXXV=レディ・スペクター騎

赤文字はZ.A.P.以外のミラージュGTM。
ミラージュXXXIV(34)のヴィクトリーはGTMに搭乗不可能のため入っていない。

Z.A.P. AARはJ型駆逐戦闘兵器の護衛専用のB型ミラージュで2騎製造されている。担当者は決まっているが固定ではなく、その時その時のミラージュ騎士が使用する。見た目は同じである。

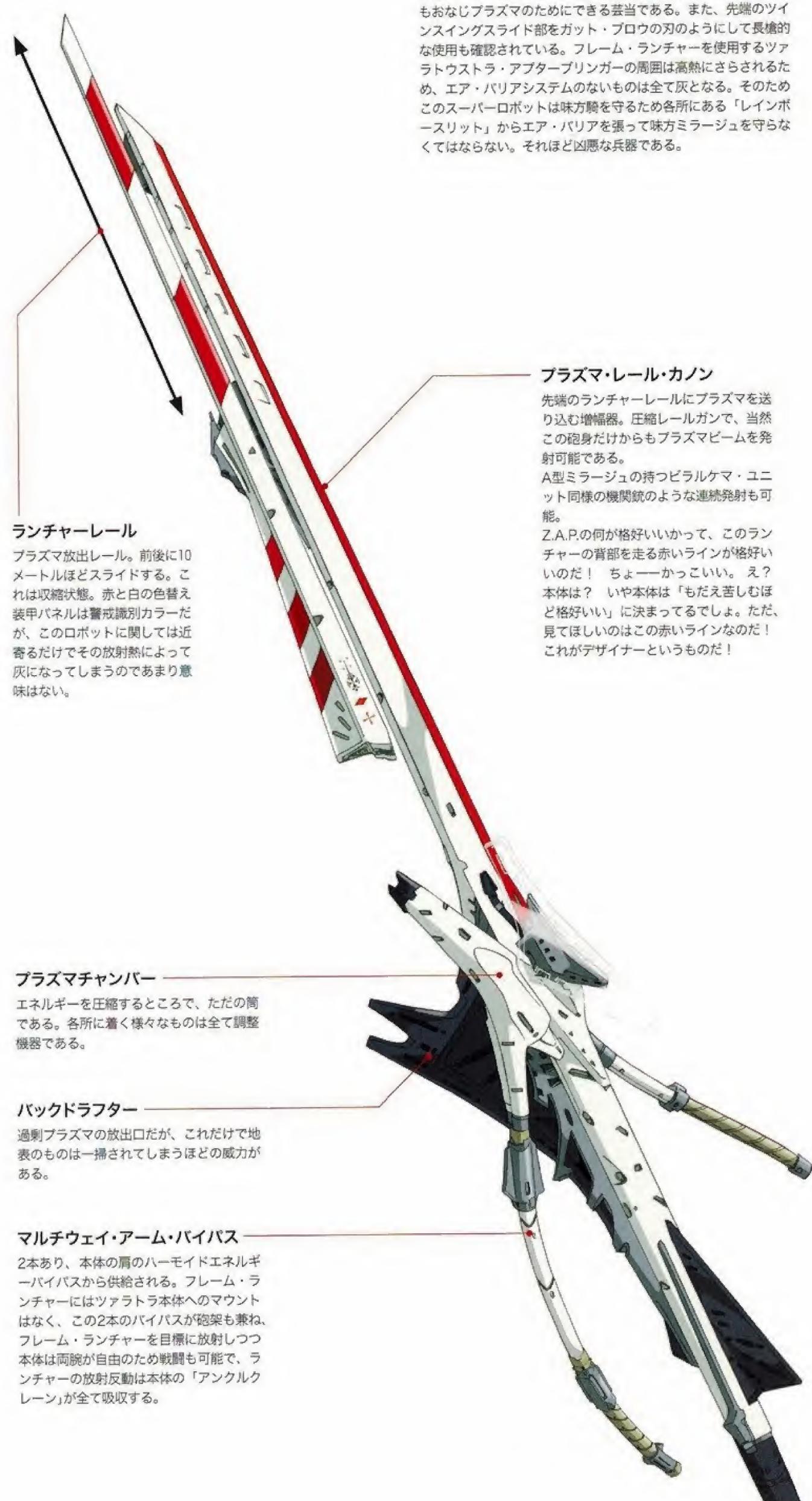
XVIII(19番騎)はB4テストニアスという別型番のGTMである。同様にXXVII(27)とXXXIII(33)はスピード・ミラージュでZ.A.P.ではない。この歴代ミラージュ騎士全メンバーの対応ナンバーを見てもわかるとおり、Z.A.P.は1騎も失われていない。数百年後に別のミラージュ騎士が搭乗するだけである。まあ、出撃前に誰かが壊した1騎は別としてだが。

また、自分が乗るGTMには全て「雷丸」という名前を付ける困った御仁がいるが、Z.A.P.VIIIには「雷丸その四」、ゲート・シオンマーク2No.3には「雷丸その五」、破裂の人形には「雷丸その六」とか付けているが、そう呼んでいるのはご本人だけなのでまったく正式名称ではない。ご注意されたい。ちなみに焰帝シュツツイエンには「元祖雷丸」と名付けている模様。残る「雷丸その式」はどうもホルダー・ブリンガーであるようだ……。なんやそれは。ミラージュh型なんだろけどさ。中型(ファイ型)にはどうせ「雷丸その七」とか付けるはずである。

で、「その参」は?? どこいった?

フレーム・ランチャー《インフェルノ・ナバーム》

過剰なエンジンのエネルギー全てを放射プラズマに置き換える、8000度を超える炎をビーム砲のように放出する。チャージしたプラズマをバスター砲のように打ち込むことも、放射プラズマを放電プラズマに切り替え、超広範囲の落雷攻撃も可能で、炎も雷もおなじプラズマのためにできる芸当である。また、先端のインスイングスライド部をガット・プロウの刃のようにして長槍的な使用も確認されている。フレーム・ランチャーを使用するツアラトウストラ・アプターブリンガーの周囲は高熱にさらされるため、エア・バリアシステムのないものは全て灰となる。そのためこのスーパー・ロボットは味方騎を守るために各所にある「レインボースリット」からエア・バリアを張って味方ミラージュを守らなくてはならない。それほど凶悪な兵器である。



新旧名称対応表

主要単語

単行本13巻以降

単行本12巻まで

GTMゴティックメード	MH モーターヘッド、MM マシンメサイア
ファティマ（変更なし。軍用語としてAFが追加）	ファティマ
Z.K.K.M.ミラージュ騎士団	F.E.M.C.ミラージュ騎士団
ツアラトウストラ・クリーグ・カンブリッター・ミラージュ	ファースト・イースター・ミラージュ・コア
MMT、デモン、バイナス、グラライア（変更なし）	MMT、デモン、バイナス、グラライア
タイカ・スペース、泰華十曜（変更なし）	タイカ・スペース、泰華十曜
ライフ・ウォッチング・オーバーロード（変更なし）	ライフ・ウォッチング・オーバーロード
ハーモイド・システム、ハーモイド・エンジン	イレーザー・システム、イレーザー・エンジン
バスター・ランチャー（変更なし）	バスター・ランチャー
騎士・ヘッドライナー（変更なし。旧称ウォーキャスター）	騎士・ヘッドライナー
ガーランド	マイト
スライダー	マイスター
詩女（うため）	アトルの巫女
超帝國ユニオ、ファロスティー・カナー（変更なし）	超帝國ユニオ、ファロスティー・カナー
炎の女皇帝・ナ・イ・ン（変更なし）	炎の女皇帝・ナ・イ・ン
ヤーン・ダッカス・カステボー	ヤーン・バッシュ・カステボー
ディメンション・イクゼスティング・セントリー&スレイ	ディメンション・イクゼスティング・ドラゴンネイチャー&スレイ
ライブ（ゴッド・オブ・ファイブスター・ストーリーズ）	L.E.D.（ホワイトドラゴン）
ブリッツ（ザ・ネビュラストーム）	サンダー（ブルードラゴン）
マグマ（ザ・プラストフォルネス）	アース（グリーンドラゴン）
カラット（ザ・リフレクションズ）	フェザー（ゴールドドラゴン）
バルサー（ザ・ペネットレーター）	ジェット（ブラックドラゴン）
グリント・ツヴィング	ダイバー（ダイバーパワー、ダイバーフォース）
ポルテツ	ダイバー
スコーバー	バラ・サイマル
グレイン	ルシェミ
オベラ	ハイブレン
デューブル	バイア
長剣ガット・プロウ、短剣ガット・プロウ・ヴィーニッヒ	長剣スパイド（YAPPA）、短剣スパッド（DOS）
セイラー、スキッパー、バージ、ストライカー	シップ、フロッサー、ティグ、ストライカー
GTM関連	MH関連
GTMステーブル（厩舎、整備場）	MHハンガー
GTMトリマー（整備テーブル）	該当無し
ケージ、ケージバレット（GTM移送キャリアー）	カーゴ、カーゴキャリアー
GTMセイラー、バレットセイラー	モータードーリー

ミラージュ騎士団

Aa型（C型レオパルト・フレームに転用）	Aa型イーエス、イーエル、イーノウ、（量産試作駆）
Ab型（B、D型ティティン・フレームに転用）	Ab型（該当無し）
A型 アフォート・プリンガー	A型 ルージュ・ミラージュ（旧称エレシス）
B型 ツアラトウストラ・アフターブリンガー（Z.A.P.）	B型 L.E.D.ミラージュ
B4型・暁姫（ジャグワ・フレームGTM）	B4型 暁姫
C型 キャメラート・プリンガー（G型の雄型）	C型 クロス・ミラージュ（雄型、雌型はG型に）
D型 帝騎マグナパレス	D型 ナイト・オブ・ゴールド
D2型 帝騎メガロコート（バトラクシェ・プリンガー）	D2型 ナイト・オブ・ゴールドAT（バトラクシェ・ミラージュ）
E型 エンツート・プリンガー	E型 エンペリアル・ミラージュ
F1型 フルトリム・プリンガー	F型 フレーム・ミラージュ
F2型 フォックス（フォクスライヒバイテ）	F2型 ハカランド・ミラージュ
G型 グリット・プリンガー	G型 クロス・ミラージュ雌型
H型 ハイファ・プリンガー	H型 テロル・ミラージュ（G型から変更）
J型 天照家J型駆逐戦闘兵器（正式名称は3159年に発表） （生産時点ではE型。のちにJ型に変更）	J型 天照家J型駆逐戦闘兵器ヤクト・ミラージュ （生産時点ではE型。のちにJ型に変更）
イエンホウ（バスター砲の名称～通称）	オレンジライト
リョクタイ（バスター砲の名称～通称）	グリーンレフト
K型 キルライン・プリンガー（ジャグワ・フレームGTM）	K型 クルツ・ミラージュ（3020年時点では生産されず）
L型 ルーシエイン・プリンガー（ジャグワ・フレームGTM）	L型 ルクス・ミラージュ（3020年時点では生産されず）
R型 リューガル・プリンガー（ジャグワ・フレームGTM）	R型 ルガ・ミラージュ（3020年時点では頭部のみ存在）
S型 スピード・ミラージュ（ティーガー・フレームGTM）	S型 スピード・ミラージュ
スカイアギフト	ワンダー・シェッツェ（ワンダー・スカツ）
ウーラソニック	ヴォルケ・シェッツェ（クラウド・スカツ）
中型GTM 一切不明	α型ミラージュ・マシン、フレーションLEDミラージュII
h型 ホルダー・プリンガー	h型 ホーンド・ミラージュ
天照家GTM（モルフォ・シリーズ）	天照家MH/MM
モルフォ・ザ・スルタン	オージエ
モルフォ・レス・トリバナル	オージェ・アルスキル
現在別名称GTM	ナイト・オブ・クローム “ザ・シュベルター”
アマテラス設計外のミラージュGTM	アマテラス設計外のミラージュMH
Am-J型 ジ・エンドレスSR4（エンジンはB型ミラージュ）	Am-J型 SR4 ジャッジメント・ミラージュ
Am-O型 破壊の人形リッタージェットMk3	Am-O型 破壊の人形バング
Am-X型 ゼノア・アフターブリンガー	Am-X型 ゴウト・ミラージュ
ゲートシオン・Mk2 No3雷丸	ゲートシオン・Mk2 No3雷丸
（S型系列は「スペック」の設計関与。K,L,R型は「クラック」関与）	（S型系列は「スペック」の設計関与。K,L,R型は「クラック」関与）

ニュータイプ本誌でも発表した「新旧対応表」を掲載しておるので固有名称の移行を確認されたい方はどうぞ。現時点で登場しているGTMも可能な限り旧MHの名称と対比させた。尚、MHでは登場、または名前の出ているロボットでもGTMで未登場なものは名称がまだ確定していない。また、GTMではすでに登場しているがMHでは存在しないなかつたものなどもあるが、これは「該当無し」としてある。これらはそのうち登場、または名前が出てくる時に決定する予定である。

この対応表を見てわかるとおり、過去連載に登場、または名前だけ公開されているほとんど全てのロボットの名称に対応している。途中で名称変更したり設定から消された名前のロボット。ひとコマだけ登場しているロボットな

ども可能な限り載せてみた。GTMとなつて復活をした旧名称のロボットも多く、ミラージュのK型などはその典型である。

また、連載再開時にこの新旧名称の変更を載せなかつたのは一部ストーリーのネタバレがあるためで、そのあたりは今回も曖昧にしてあることをご了承願いたい。

ミラージュモーターヘッドから変更となつた型番について

対応表ではほぼ全てのGTMが登場したことでの該当無しとしてある。ここではあらためてミラージュGTMの型番について記しておく。

「デザインズ」において今までC型とされていて「デザインズ」において今までC型とされていて「デザインズ」がG型へと変更され、G型であった「テロル・ミラージュ」がH型へと変更された。

「デザインズ」をお持ちでない方はいつの間に

この「デザインズ」において密かに変更された型式はもちろん「花の詩女」公開後から変更されるGTMの型式に対応させたからである。

クロス・ミラージュに入れ替える「グリット・プリンガー」は英語のスペルの頭を取つて「G型」。テロル・ミラージュに入れ替える「ハイファ・プリンガー」はH型であるという理由からだ。

この「デザインズ」において密かに変更された型式は「プリンガー」のBである。ミラージュGTM、G型であった「テロル・ミラージュ」がH型へと変更された。マグナパレスは正式名称「ディステイニー・プリンガー」のDである。

で、名前とアルファベットが合致していないB型の「ツアラトウストラ・アフターブリンガー」と、D型の「マグナパレス」なのだが、ツアラトウのB型は「プリンガー」のBである。ミラージュGTM、つまりは「プリンガー・シリーズと呼ばれるそのおおもとのプリンガーであるということだ。

マグナパレスは正式名称「ディステイニー・プリンガー」のDである。

そんなことになつたのかわからない方も多いだろうと思う。

各国主力GTM/MH

単行本13巻以降

単行本12巻まで

単行本13巻以降

単行本12巻まで

ガマッシャーン共和国

ハロ・ガロ～ラミアス・エリュアレ	ファントム（白）
エクペラハ	シンカー
スイセン	ルビコン
スコータイ	コルサー

バキン・ラカン帝国

ホーザイロ・グロウダイン	クルマルス・ヴァイ・オ・ラ
アル・タイ	フェードラ
グラーマス	ツァイト

トラン連邦共和国

ホーザイロ・ケルキメナス	クルマルス・ビブロス
カイリーダウン・ハッキー	クローマ
未登場	ヌーベル・イザッド

ウモス国

ハルシュカ（紅騎士）	ローテキャバリー
X-8 青騎士・紫仙鋼（ボルドックス）	X-8 青騎士・紫仙鋼
X-9 青騎士・紫苑鋼（ボルドックス）	X-9 青騎士・紫苑鋼

ロッソ帝国

ボイスオーバー GA2	ラインシャルヒューメトリ
グロッシュ	ヘルマイネ
パヤデルカ	バルンシャ

メヨーヨ朝廷

姫神金剛アグニム（プランテン F）	姫神金剛（フランベルジュ・テンブル）
ホウライ	アシュラ・テンブル

ジャスタカーグ公国

オスカード（ユーレイ M型）	グルーン（サイレン M型）
バイグロン	シャクター

コネラ帝国

SBB-00 テモール・ゾロ	カン・アーリィ
SBB-0E テモール・レガーター	ロクサーヌ
SBB-01 テモール（バイブルス）	カン

バッハトマ魔法帝国

カーバーゲン（プランテン G）	ガスト・テンブル
未登場	アウェケン

ディー・ヨーグン連合

フドー	バルブド
ズダルダ	該当無し

ダイアモンド設計GTM/MH

プランテン A・ホウライ	アシュラ・テンブル（メヨーヨ MH）
プランテン B・未登場	ブラッド・テンブル（AKD ゴーズ MH）
プランテン C・未登場	コーカサス・テンブル
プランテン D（ワイマール SR2）	ドラクロア・テンブル（ベルリン SR2）
プランテン E・未登場	エンバー・テンブル
プランテン F・姫神金剛アグニム	姫神金剛フランベルジュ・テンブル
プランテン G・ガイランド・カーバーゲン	ガスト・テンブル（バッハトマ MH）
プランテン H・テ・ハビラント	ハーブーン・テンブル（イオタ MH）
プランテン I・未登場	インフェルノ・テンブル
プランテン G（HL1SR3 のテッドコピー）	ジェイド・テンブル（ジュノーン SR3）
マイティ・シリーズ	マイティ・シリーズ
バビロンズ B2 雷丸その参	B2 雷丸バビロンズ
プリンガー B3 替王丸	B3 ハイドラ・ミラージュ替王丸
グリッター B4 暁姫（1号騎）	B4 テストニアス暁姫

汎用量産GTM/MH

アル・タイ / グラーマス（同型 GTM）	フェードラ / ツァイト / アバッチ（同型 MH）
スイセン / スコータイ（同型 GTM）	ビルドゥー / ルビコン（同型 MH）
ライモンダ（ウモス生産）	デヴォンシャ / ザカーラ（ウモス生産）
パヤデルカ（ライセンスのロッソ GTM）	バルンシャ（ウモスライセンス MH）
スカラベア	マグロウ
ブレイ・オテオン	ブレイ・スプートニク
ブレイ・ラムアド	ブレイ・ポストーク

各国主力GTM/MH

ハイレオン（HL1）・コーラス GTM

ハイレオン SR1・アハメス（スルーエクセルナ）

ハイレオン SR2, ハイレオン SR3

SR4・ジ・エンドレス

ワイマール、ワイマール SR2

ピチカート公国

カイリーダウン・アマルカルバリ

カイリーダウン・シャンドンラ

黒騎士ダッカス・ザ・ブラックナイト

黒騎士バッシュ・ザ・ブラックナイト

フィルモア帝国

ホルダ 31 ユーレイ

カイザース

ウリーズ

メロウラ

アルカナ・オーテル（レイシ・バイカル）

ラミアス（ハロ・ガロ、ファー・インマー、イー・ズィー・イー）

ラミアス量産型・ドージョージ

ホーザイロ・グレント

クルマルス・バイロン

ミノグシア連合（旧ハスハ連合）

ティー・カイゼリン

バーガ・ハリ各型

ハスハント工場製

バーガ・ハリ BS コブラ（スバース隊一部）

バーガ・ハリ BSR ハーブ

バーガ・ハリ SKS, DS (スキーン隊、ドーチューム)

バーガ・ハリ MS (マルコンナ隊)

バーガ・ハリ EB (エンブリヨ隊)

バーガ・ハリ ESSQ (遊撃支隊スクリティ)

ギーレル工場製

バーガ・ハリ HS (パローラ隊)

バーガ・ハリ・ダンダグラーダ

ナオス工場製

バーガ・ハリ FR (ディスターク隊)

バーガ・ハリ La (ラーン近衛支隊)

イエンシング工場製

バーガ・ハリ JG (ジャーグド隊)

バーガ・ハリ・ファンティ (スパチュラ隊)

バーガ・ハリ KK (ツラック隊)

ダリ・キア～アトール聖導王朝

アイルフェルノア製 GTM

バーガ・ハリ全形式

アトラ

エビキュラ

ラングルン

クバルカン法國

SSI クバルカン (ショルティ・スーパー・イモーネル)

破烈の人形 リッタージェット Mk3

ルッセンフリード 白の婦人

ルッセンフリード 赤の婦人

リッター・ジェット Mk4 マッハ・シャルトマ

超帝國

ウーシング・ウーユ

フェイスラ・シュツイエン

ティグツァイト・シュツイエン

ティグツァイト・シュツイエン雷丸 (元祖)

バクシコア

ダイナニズム

グラムラー

システム・カリギュラ

ゾルダート 0・シオン (バクシコアのコピー)

ゾルダート 1・カリギュラ (ダイナニズムのコピー)

ゾルダート 2・ゲートシオン・マーク 2

ゾルダート 3・フォルクル・ティー・フラウ Gang

ゾルダート 4・チェングドゥー

ダイアモンドのGTMはまだ未登場が多く、あえて名称は決めていないGTMがある。
各種汎用型のGTMはスコータイ（ルビコン）、グラーマス（アバッチ）など、エンジンはツバパンツヒ設計でパンタフレームを使用したワンオフのフルカスタムからハイブリッドで安価なアッセンブルGTMまで、あまりに多数で設計製造国家なども多様であるためひとくくりにされている。物語中後方などに描かれてるロボットはほとんどスコータイ型やライモンダ型である。



アドラー2977 バランシェ邸

Addler 2977 at Ballance Castle

ラストページにはいつも「なんですかこれは～～」とか「こんなの聞いてないし～」という派手なキャラクターシートが掲載されることが多いのだが、今回はそういう「聞いてないし～」というページは真ん中あたりにどどーんと掲載されているので、今回はショーカムとこいつ夫婦&その一家である。

左よりチャンダナ、バランシェ、アトロボス、ジーク、こいつ、ショーカム、クローソー、茄里、ラキシス、慧茄、ダイ・グ、オデットである。大所帯だ。

ショーカムとこいつの正装からポルガ・レーダー王家の色合いやブラウ・フィルモア正王家の色など、今までに出てこなかったフィルモア帝国の筆頭正王家の正式なカラーがわかる。ちょうど対比でエラルド・フィルモア王家の慧茄とダイ・グがいるので比較すると面白い。とはいえた慧茄のカラーは特別なのでダイ・グの衣装がエラルド王家の色である。

茄里がやっぱり母親そっくり。激しい気性も受け継いでいるが、現在はそれが悪い方向に出てしまっているようだ。

ラキシスはこの時はまだ黒髪なので、バランシェに再構成される前である。この時にラキシスはダイ・グに一発目をかましているはずなのでダイ・グはラキシスを覚えていた。このあたりを描くと話そのものがぶれるのでカットされた。

フィルモア帝国の中板と運命の3女神がいるという信じられない時代である。「二羽の小鳥」の冒頭のシーンではソープもいたので、ソープはジークと茄里の存在を知っている。それもあってジークをルミナス学園に入れたのかかもしれない。

普段はこういう記念撮影に絶対に出ないバランシェがいるのが非常におかしい。

「デザインズ6 クロス・ジャマー」をお届けします。

第6話、魔導大戦前半においてのハイライト、大戦闘シーンが連続する「ツラック隊」のエピソードですが、このエピソードではいかに旧ハスパが分断され各國が混沌としているかというのを描いておく目的もありました。そして西太陽系そのものが延々と混乱し、安定しない星であることをいろいろな侧面から描いておこうと思ったのが第6話です。この魔導大戦も後半は年表がどんどん進み、うそお～～という速さで物語は進んでいくことでしょう。

今回のキャラクター解説ではペラ戦での各国の動きや戦略的なもの、戦術的なものまで文字数も多くなりましたが、あえて入れておきました。

兵士から騎士、各指揮官、国家間のそれぞれの立場、参戦にはそれなりの理由があることなど、なるべく物語の動きに沿った形で入れましたが、「ペラ戦とは?」と別コンテンツで解説するとわけがわからなくなっていくので、各キャラクターの立場という形で解説しました。

最初のミノグシアの戦況図では今回の戦いの他に次の「南部戦線」やナカカラの動きなどもわかるように入れておきました。地図を見ながらいろいろな想像をするのは楽しいですね。

ツラック隊はオールスター総登場で、正々堂々とした騎士達による大戦闘がメインで、登場人物達もアドレナリンが出っぱなし状態で、シリアルなんだかおしゃらけているんだかわからない描写が多くあったと思います。でも、どの描写も全てシリアルで、必死です。それも戦争なのだと思います。また、各國の騎士団もGTMもきれいに戦っていますが、こういう戦争は珍しいとも言えます。もっとどろどろして勝敗の決着も付かない。そういう戦争の方が多いはずです。戦闘の最後に敵味方の負傷者や捕虜を交換するという余裕のある戦いはまれでしょう。そういう戦いであったからこそ各國の指揮官達も気持ちよく撤退したのでしょう。

死傷者が少なかったと言われるのは数倍の数で挑んだ板輪にツラック隊は決死の覚悟で防戦をすることがわかっていたので、各板輪軍は自軍の被害を最小に抑えるための消耗戦を狙っていたというのがありますが、バッハトマ軍のあっという間の崩壊によってきっちりケリが付いたというのもあったでしょう。

ペラの戦いがああいう形で終結したのはどの国も重要な地域ではなく、各國のデモンストレーションのような戦いであったからとも言えます。

で、「スプラウト・ソング」以後のものは次の作品集に収録予定です。これも超弩級のものばかりが出てくるので頭が痛いですが…。まあ楽しみでもあります。

それではまた。

永野護





Automatic Flowers Studio EDITco.ltd

all illustrations and texts by MAMORU NAGANO

構成・イラスト・文
永野護

編集・担当
ニュータイプ編集部
角清人

装丁・デザイン
朝倉哲也(designCREST)

レイアウト
designCREST
田畠善行
保見千衣子
梶原悠里江

セル彩色
中内照美(アニモキャラメル)

印刷
谷川一彦(大日本印刷／プリンティング・ディレクター)
佐々木祐樹(大日本印刷)
石原明子(大日本印刷)

永野護マネージメント
株式会社KADOKAWA
ニュータイプ編集部

Thanks
井上伸一郎
榎本郁子
佐藤光洋(アニモキャラメル)

F. S. S. D E S I G N S 6 XROSS JAMMER

ファイブスター物語 デザインズ6 クロス・ジャマー

著者 永野護 ながのまもる



2019年2月9日初版発行

2019年3月18日第2刷発行

発行者 青柳昌行
発行 株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話 0570-002-301(ナビダイヤル)

印刷・製本 大日本印刷株式会社

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに
無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上の例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、
たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められておりません。

KADOKAWAカスタマーサポート
〔電話〕0570-002-301(土日祝日を除く11時~13時、14時~17時)
〔WEB〕<https://www.kadokawa.co.jp/>〔お問い合わせ〕へお進みください
※製造不良品につきましては上記窓口にて承ります。
※記述・収録内容を超えるご質問にはお答えできない場合があります。
※サポートは日本国内に限らせていただきます。
定価はカバーに表示しております。

©2019 EDIT

禁無断転載・複製
KADOKAWA CORPORATION 2019. Printed in Japan
ISBN 978-4-04-107991-1 C0076



MAMORU NAGANO'S

The Five Star Stories®

KADOKAWA